



沖縄県薬剤師会報

No.273. 2014(平成26年) 11・12月号



沖縄県薬剤師会

目次

巻頭言	北部地区薬剤師会の会員支援事業について…………… 玉城 純…(2)
表彰	学校薬剤師制度60周年記念文部科学大臣表彰 (與那嶺朝子先生、伊佐常隆先生、蒔 初子先生)……………(3) 日本薬剤師会功労賞受賞(松山朝雄先生)……………(4) 九州山口薬学大会会長賞受賞(仲真良重先生)……………(4) 平成26年度沖縄県薬事功労者知事表彰(橋本孝夫先生、下地仁先生)……………(5) 公衆衛生事業特別功労者沖縄県知事表彰(神里まり子先生)……………(6) 優良公衆衛生事業功労者沖縄県公衆衛生大会長表彰(瑞慶山純子先生)……………(6)
公示	一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙に関する公示……………(7)
告示	一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙の告示……………(8)
沖縄学術大会	第28回沖縄県薬剤師会学術大会報告…………… 外間 惟夫…(12) 第28回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム……………(14) 第28回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会…………… 大城 喜仁…(20) 第28回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告…………… 吉田洋史・姫野耕一…(21) 第28回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞発表要旨……………(22)
薬と健康の週間	くすりと健康フェア(県民公開講演会)…………… 山里 勇…(24) くすりと健康フェアスナップ写真(県民公開講演会・健康とおくすり相談会)……………(26) 薬祖祭・街頭キャンペーン・平成26年度「薬と健康の週間」行事表……………(27)
実務実習	薬学生実務実習今年度Ⅰ期Ⅱ期35名終了!…………… 我喜屋美香…(30) 平成26年度薬学生実務実習Ⅱ期生からの体験記・感想……………(31) 座波克圭・仲田尚仁・姫野太一・下地滋子・高良龍・安里祐美・上地里奈 上里祐哉・中村雄太・大形智南美・宮平かな・仲里朝有・祖堅由伎 与世田美希・金城昭宏・福山佳史・新垣優美絵・佐久真守・吉田優司
九山大会	第76回九州山口薬学大会に参加して…………… 吉富 弓江…(36)
月例相談会	第116回健康とおくすり相談会報告(八重山地区薬剤師会)…………… 宮良 善朗…(38) 第117回健康とおくすり相談会報告(那覇地区薬剤師会)…………… 平良 栄子…(39) 第119回健康とおくすり相談会報告(中部地区薬剤師会)…………… 砂川 祥子…(40)
D I	薬事情報おきなわ No.230…………… 薬事情報センター…(41)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報……………(52)
寄稿	危険ドラッグについて…………… 松田 聖子…(53)
薬学の歴史	第35回 生物学的製剤の時代……………(54) 第36回 化学療法の開発……………(55)
薬草学	身近な薬草を知ろう 第17回 ほそばわだん…………… 狩俣 イソ…(56)
ぶれいくたいむ	平成26年度全日本卓球大会選手権大会マスターズの部に参加して…………… 田場 英治…(58)
北部地区特集	北部地区特集にあたって…………… 広報委員会…(59)
Spot Light	仲村英和先生～名護ウォーカー薬剤師は語る～…………… 宮城 敦子…(60)
医療機関・施設訪問	沖縄県立北部病院…………… 砂川 智子…(62)
薬局訪問	はいさい!名護薬局(名護市)…………… 大城 喜仁…(64)
寄稿	名護市立稲田小学校における薬物乱用防止教室報告…………… 玉城 優希…(66) 本部町立本部小学校における薬物乱用防止教室報告…………… 仲原佐和子…(69)
リレー随筆	お薬手帳と悪戦苦闘…………… 神山 康馬…(72)

卒煙物語	その49 防煙教育の視野 …………… え ん こ …(73)
ぶれいくたいむ	走ることーRUNー …………… 福島 裕貴 …(74)
告知ポスター	くすりと健康フェア（県民公開講演会）PRポスター ……………(76)
転載記事	くすりと健康フェア（県民公開講演会）PR記事 ……………(77)
	シンガーソングライター松田陽子さん 闘病体験語る ……………(78)
	薬の飲み方 正しく知って 県民公開講演会告知……………(79)
	会員の古城桂子先生と今井忠子先生が所属するモアイが紹介されていました ……………(79)
	論壇「お薬手帳」常に携帯を…………… 吉田 洋史 …(80)
	論壇「危険ドラッグの怖さ」社会全体で防止策を…………… 石川 恵市 …(81)
	薬局拠点に健康相談 ……………(82)
	なは健康フェア にぎわう ……………(82)
	論壇「医療のIT活用 感銘」…………… 前濱 朋子 …(83)
日薬通達	J P A L S クリニカルラダーレベル5 更新に向けてのご案内 ……………(84)
薬連だより	国会レポート エボラ出血熱の脅威…………… 藤井もとゆき …(86)
理事会	平成26年度第1回定例理事会議事概要 ……………(87)
	平成26年度第2回定例理事会議事概要 ……………(94)
	平成26年度第3回定例理事会議事概要 ……………(100)
	平成26年度第4回定例理事会議事概要 ……………(106)
	平成26年度第5回定例理事会議事概要 ……………(113)
年間目次	おきなわ薬剤師会報 平成26年もくじ(通巻268号～273号) ……………(121)
会務報告	平成26年10月～11月末日分(沖縄県薬剤師連盟会務報告) ……………(133)
一包一話	神社巡り…………… 橋 の 下 …(138)
会員作品	誌上ギャラリー(裏表紙)について ……………(140)
編集後記	……………(140)
お知らせ	平成26年度沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内 ……………(3)
	研修認定薬剤師申請料が改定！ ……………(68)
	会報原稿募集のご案内 ……………(72)
	県薬が会員に販売している印刷物等 ……………(99)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について ……………(120)

巻 頭 言



北部地区薬剤師会の 会員支援事業について

北部地区代表理事 玉城 純



今年も残すところ一ヶ月を切り、会員の皆様におかれましては何かとお忙しいことと存じます。

去る11月8日、名護市において沖縄県薬剤師会の定例理事会が開催されました。北部地区の会員もオブザーバーとして参加し、その後の懇親会では沖縄県薬剤師会の神村武之会長を始め、理事の先生方、事務局スタッフの方々と貴重な交流の場を設けることが出来ました。

今号では北部地区の話題がいくつか掲載されるとのことなので、この場を借りて北部地区薬剤師会で行っている会員支援のための活動内容について紹介をしたいと思います。

本年度から新たに開始した事業として、古紙回収事業があります。各薬局で保存期間が過ぎた処方箋を、北部地区薬剤師会と契約した古紙回収業者が各薬局へ回収に行くということです。回収された処方箋は、その後、溶解処理され、再生紙として生まれ変わります。後日、処理段階の順を追って撮影された写真とともにきちんと処理された証明が送られてきます。

以前行っていた不動産ネットワーク事業、廃棄医薬品回収事業も今年度再開しました。

不動産ネットワーク事業は、各薬局から提出された不動産リストをもとに、北部地区薬剤師会事務局がマッチングを行い、その結果を各薬局にフィードバックして薬局間での売買を円滑にし、不動産在庫ゼロを目指すものです。

廃棄医薬品回収事業は、北部地区薬剤師会と契約した産業廃棄物処理業者が、期限切れ等で廃棄される医薬品を各薬局において回収

するというものです。

以上の三つが本年度の主な会員支援のための事業です。

北部地区薬剤師会には、厚生労働省の予算事業である在宅医療提供拠点薬局整備事業によって、契約した薬局が共同利用できる無菌調剤室が平成25年3月に完成しております。医薬品備蓄センターも会営薬局に併設され、平成14年から稼働しております。主に沖縄県立北部病院、北部地区医師会病院の採用医薬品を備蓄しており、医薬品卸から遠い北部地域でも急に必要になった医薬品の入手のために大いに役立っております。希望する薬局には医薬品の配達も行っており、一人薬剤師の薬局が多い北部地区においてはなくてはならない事業になっています。

その他、今年度からホームページをリニューアルし、北部地区薬剤師会の活動を外部にアピールするとともに、会員のページを新たに設けて会員への情報伝達手段として活用しております。北部地区薬剤師会で検索して、是非ご覧下さい。

このように、北部地区薬剤師会では、会員支援のための様々な事業を行っておりますが、これは、今まで長年にわたる歴代の執行部の先輩方のご尽力や会員一人一人の協力があった賜物であります。これから約10年後、団塊の世代が全員後期高齢を迎える2025年の超高齢社会に向けて、ますます在宅医療、在宅介護のニーズは増えていくでしょう。我々薬剤師の仕事内容も大きく変わり、今まで以上に在宅医療、終末期医療への関与が増えて

いくことは確実です。時代の流れに合わせ、患者様の要求に応えられるように、必要な経験、技術、知識を身につけて、来たるべき超高齢社会の中で第一線で働けるように、どの

ように会員をサポートすればいいのか、いろいろなアイデアを提案し形にしていけるように、これからも沖縄県薬剤師会と連携して活動していきたいと考えております。

平成26年度 沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内

日時：平成27年1月18日(日) 午後6時～

会場：沖縄都ホテル 綾羽の間 (2階)

【学校薬剤師制度60周年記念文部科学大臣表彰】	與那嶺朝子氏	伊佐 常隆氏	蒔 初子氏
【学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰】	砂川裕美子氏		
【日本薬剤師会功労賞】	松山 朝雄氏		
【日本薬剤師会学校薬剤師賞】	大浜 貴子氏		
【九州山口薬剤師会会長賞】	仲真 良重氏		
【日本薬剤師会有功賞】	太田 節子氏	嘉陽マツエ氏	津波 高德氏
【沖縄県薬事功労者知事表彰】	下地 仁氏	橋本 孝夫氏	
【公衆衛生事業特別功労者沖縄県知事表彰】	神里まり子氏		
【沖縄県薬剤師会会長表彰】	前原 信照氏	村田美智子氏	平良由紀子氏
	狩俣 イソ氏	我喜屋美香氏	
【沖縄県学校保健会会長表彰】	新川 重一氏	平良 初枝氏	當山 住子氏
【沖縄県公衆衛生大会会長表彰】	瑞慶山純子氏		
【那覇市政功労賞】	吉田 久子氏		
【那覇地区学校保健功労者表彰】	村田美智子氏		

※祝賀会チケットをお求めの方は、沖縄県薬剤師会事務局、または地区薬剤師会までご一報ください。

学校薬剤師制度60周年記念文部科学大臣表彰



おめでとうございます

與那嶺 朝子先生 伊佐 常隆先生 蒔 初子先生



日本薬剤師会功労賞 受賞



松山 朝雄先生 おめでとうございます



松山朝雄氏 (中央)

日本薬剤師会学術大会本会議表彰顕彰式にて受賞の予定だったが、
台風のため出席できず、後日、伝達受賞が県薬会長室で執り行われた。

九州山口薬剤師会会長賞 受賞



仲真 良重先生 おめでとうございます

＜第76回九州山口薬学大会（長崎大会）表彰顕彰式＞
期日：平成26年11月23日（日） 会場：長崎ブリックホール



表彰

平成26年度 沖縄県薬事功労者知事表彰



下地 仁先生 橋本 孝夫先生
おめでとうございます

期日：平成26年10月20日(月) 会場：沖縄県保健医療部 部長室



表彰された橋本孝夫氏



手前左より、国吉秀樹 保健医療部保健衛生統括監、橋本孝夫氏
田場英治氏（下地仁氏欠席のため代理）
後列左より、上里 林 薬務疾病対策課長、神村武之会長

橋本・下地さんに薬事功労

県病院薬剤師会理事で、豊見城中央病院薬剤科長の橋本孝夫さん(57)＝写真左＝と、県薬剤師会宮古地区代表理事の下地仁さん(55)への薬事功労者知事表彰式が20日、県庁であった。

国吉秀樹保健衛生統括監から橋本さんと下地さん（県薬剤師会の田場英治専務理事＝同右＝が代理出席）に賞状が授与された。若手薬剤師の教育推進などが評価された橋本さんは、「次の世代のモチベーションが上が

るよう、外に出て知識を吸収できるような機会をつくっていきたい」と抱負を語った。



平成26年10月22日(水) 沖縄タイムス

第46回 沖縄県公衆衛生大会表彰



神里 まり子先生 (公衆衛生事業特別功労者・沖縄県知事表彰)

瑞慶山 純子先生 (優良公衆衛生事業功労者・沖縄県公衆衛生大会長表彰)

おめでとうございます

期日：平成26年10月28日(火)

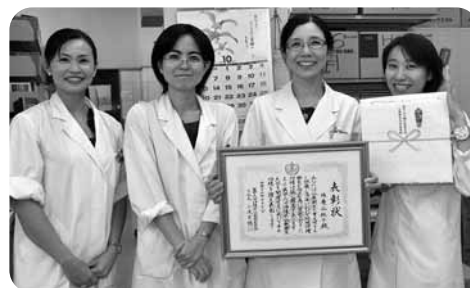
会場：沖縄県市町村自治会館



受賞した神里まり子氏



後列中央が神里まり子氏



会営薬局とよみに応援薬剤師としてご協力
いただいている瑞慶山純子氏(右から2人目)
大会には諸事情により出席できなかったた
め後日、会営薬局とよみにて伝達受賞

地域医療に貢献 医師ら19人表彰

県公衆衛生大会

「うまんちゅで築こう健康長寿・美ら島おきなわ」をシンボルテーマに第46回県公衆衛生大会(主催・県公衆衛生協会)が28日、那覇市の県市町村自治会館で開かれた。地域に密着した保健医療や疾病予防などに長年にわたって貢献したとして、医師や保健師ら19人が表彰された。

大会では東京大学大学院の佐々木敏教授が「沖縄健康長寿再生のための栄養疫学役割」何ができるか?何をすべきか?」をテーマに特別講演した。

そのほかの被表彰者は次の通り。(敬称略)

【知事表彰】比嘉弘文、神里まり子、長浜末子、當山美枝子【大会長表彰】東幸子、知念信雄、仲川初美、桃原忍子、中松宏子、瑞慶山純子、町田初子、新垣美智子、湖城秀久、比嘉千賀子【県保健所長会長賞】天久ひとみ、今村昌幹、玉城浩江、桑江常和

仲本朝久県保健医療部長(左)から知事表彰を受け取る長浜末子さん(右) 28日午後、那覇市・県市町村自治会館

平成26年10月29日(水) 沖縄タイムス

公 示

平成26年12月16日

会 員 各 位

一般社団法人 沖縄県薬剤師会
会 長 神 村 武 之

一般社団法人 沖縄県薬剤師会 会長候補者及び監事選挙に関する公示

平成27年3月29日、本会の第71回臨時総会を開催致します。同日に、本会の「一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則」、「同施行細則」により、平成27年6月に開催を予定する、一般社団法人沖縄県薬剤師会の総会・理事会において選定する、会長（代表理事）に係る候補者を決定するための選挙を行います。

去る12月13日に開催された本会定例理事会におきまして、同選挙の公示日（平成26年12月16日）ならびに選挙期日（平成27年3月29日：臨時総会）等を決定し、会長候補者及び監事選挙に関する公示を本会事務局ならびに本会ホームページ（会員のページ）に掲示しております。また、同選挙の関連資料（選挙規則・選挙規則施行細則・各種様式）も本会ホームページに掲載しています。

詳細につきましては、同公示と一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則および選挙規則施行細則をご確認下さい。

自ら候補者になろうとする正会員、候補者を推薦しようとする正会員は、下記により届け出て下さい。

記

- (1) 候補者の資格は、平成26年12月28日までに、本会へ正式入会手続きを完了している正会員に限ります。
- (2) 届出の受付期間は、平成26年12月16日から平成27年3月13日までの午前9時から午後5時までとし、本会事務局（沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10）で受け付けます。但し土曜日、日曜日と祝日を除きます。
- (3) 届出の締切日時は平成27年3月13日午後5時です。締切日時後の届出は受け付けられません。郵送による場合は、必ず書留をご利用下さい。締切日時までに到着したものを有効とします。締切日時後に到着したものは無効とします。
- (4) 立候補届出書（又は候補者推薦届出書と承諾書）をはじめ、必ず添付しなければならない書類の様式は全て規定されております。届出関係書類一式あるいは本会定款等諸規定は、ホームページからダウンロードできますが、ご請求下されば郵送も致します。

お問い合わせは、本会事務局（電話098-963-8930）へお願い致します。

以上

告 示

平成26年12月16日

正 会 員 各 位

沖縄県薬剤師会
会長 神村 武之

沖縄県薬剤師会代議員選挙の告示

この度、平成25・26年度一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員の任期終了を平成27年3月に控えておりますことから、次期の平成27・28年度一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員を選出するため、下記により代議員選挙を告示します。

代議員は、一般社団法人沖縄県薬剤師会の総会の構成員（法人法上の社員）として議決権を有するものであり、代議員の選任は、正会員から立候補者を募り、正会員による投票をもって選出します。詳しくは、後頁掲載の一般社団法人沖縄県代議員選挙規程をご確認ください。

各位の積極的な立候補をお願い致します。

記

1. 代議員の任期

今回選出の代議員の任期は、平成27年4月1日から平成29年3月31日までとなります。

2. 立候補の資格

立候補締切日において、沖縄県薬剤師会の正会員として在籍していること。

3. 立候補の届出

平成27年2月21日迄に、後頁掲載の所定の様式「立候補届出書」及び「経歴書」各1部を沖縄県薬剤師会選挙管理委員会宛てに提出してください。

4. 立候補の辞退

立候補を辞退したい時は、平成27年3月6日迄に、後頁掲載の所定の様式「立候補辞退届」1部を沖縄県薬剤師会内選挙管理委員会宛てに提出してください。

5. 選挙の方法

郵便投票（沖縄県薬剤師会から選挙人に直接送付した投票用紙による）

6. 選挙区ごとの代議員定数

後頁の代議員定数表をご参照ください。

（注）この選挙区は、沖縄県薬剤師会の正会員が所属する支部ごとの区分です。

7. 選挙のスケジュール

平成26年12月16日 ～ 2月21日	立候補の受付
平成27年 2月21日	立候補の締切
平成27年 2月21日 ～ 3月14日	立候補者一覧表の告示
平成27年 2月23日 ～ 3月14日	投票（郵送による投票）
平成27年 3月 6日	立候補辞退の締切
平成27年 3月14日	開票（選挙期日）
平成27年 3月16日	当選者の告示

8. 立候補届出書・関係書類等

沖縄県薬剤師会のホームページからダウンロードしてご使用ください。

また、本会事務局までご請求下されば郵送致します。

- 立候補届出書（様式第1号）
- 経歴書（様式第2号）
- 立候補辞退届出書（様式第3号）
- 定款
- 代議員選挙規程

9. 問い合わせ先

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10
 沖縄県薬剤師会事務局
 TEL 098-963-8930
 FAX 098-963-8932

＜代議員選挙区＞

北部地区薬剤師会

名護支部（名護市、本部町、今帰仁村、国頭村、大宜味村、東村、伊江村、伊是名村、伊平屋村）

中部地区薬剤師会

うるま支部（うるま市、金武町、宜野座村）

沖縄支部（沖縄市、北谷町）

嘉手納支部（嘉手納町、読谷村、恩納村）

宜野湾支部（宜野湾市、北中城村、中城村）

那覇地区薬剤師会

首里支部（首里、古島、松島、真嘉比）

那覇東支部（字安里、大道、松川、真地、壺屋二丁目、寄宮、長田、三原、繁多川、識名、古波蔵、与儀、上間、仲井真、国場）

那覇北支部（泊、安謝、曙、港町、上之屋、おもろまち、天久、銘苅、安里一丁目～三丁目）

那覇中央支部（松山、久米、若狭、東町、西、辻、通堂町、松尾、久茂地、牧志、前島、泉崎、壺川、楚辺、旭町、二中前、壺屋一丁目、樋川）

小禄支部（小禄、鏡原町、高良、田原、宇栄原、山下町、具志、宮城、金城、当間、赤嶺、安次嶺、奥武山町、大嶺、鏡水、垣花町、住吉町、渡嘉敷村、座間味村、渡名喜村、栗国村、久米島町、北大東村、南大東村）

浦添支部（浦添市）

南部地区薬剤師会

糸満支部（糸満市、豊見城市、八重瀬町）

南風原支部（西原町、与那原町、南風原町、南城市）

宮古地区薬剤師会

平良支部（宮古島市、多良間村）

八重山地区薬剤師会

石垣支部（石垣市、竹富町、与那国町）

代議員定数（平成26年12月12日現在の支部会員数）

			代議員数
地区薬剤師会	支 部	会 員 数	25人以下1人、 25人を超え20人増すごとに1人
北 部 地 区	名 護 支 部	6 0	2
中 部 地 区	具 志 川 支 部	7 0	3
	沖 縄 支 部	1 2 7	6
	嘉 手 納 支 部	2 2	1
	宜 野 湾 支 部	7 1	3
那 覇 地 区	首 里 支 部	6 5	3
	那 覇 東 支 部	1 1 8	5
	那 覇 北 支 部	7 3	3
	那 覇 中 央 支 部	1 0 9	5
	小 禄 支 部	5 3	2
	浦 添 支 部	1 1 5	5
南 部 地 区	糸 満 支 部	8 8	4
	南 風 原 支 部	1 0 2	4
宮 古 地 区	平 良 支 部	2 3	1
八 重 山 地 区	石 垣 支 部	2 2	1
合 計		1 1 1 8	4 8

会 員 数	代 議 員 数
1 ～ 4 4 人	1
4 5 ～ 6 4 人	2
6 5 ～ 8 4 人	3
8 5 ～ 1 0 4 人	4
1 0 5 ～ 1 2 4 人	5
1 2 5 ～ 1 4 4 人	6
1 4 5 ～ 1 6 4 人	7

沖縄学術大会

第28回沖縄県薬剤師会学術大会報告

日時：平成26年10月26日（日）10:00～17:50

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール（会員発表・ランチョンセミナー・特別講演）
沖縄県薬剤師会館 研修室（機器展示・懇親会）



神村 武之 大会会長挨拶
(今年は宮古地区会場から遠隔中継で挨拶をされた)

第28回沖縄県薬剤師会学術大会は、秋晴れの10月26日（日）に薬剤師会館を会場として開催された。今年の参加者は285名（県薬172名、病薬113名）が参加し、その内、宮古会場18人、八重山会場6人は中継システムを経由しての参加であった。昨年同様にメイン会場に入りきらず、会場前にモニターとイスを並べて対応しており、回を重ねるごとに学術研修に対する会員の熱意の高まりを感じた大会でもあった。

定刻の午前10時に開会となり、先ず実行委員長として開会挨拶を行った。講演要旨集表紙のデザインについて触れた後、今年の医療法改正では高齢化で医療・介護需要が増大していく中で良質かつ適切な医療を提供するために、地域医療提供体制の充実がわれわれ薬剤師にも求められており、そこで大会テーマを「今こそ活かそう薬剤師の力～地域医療の担い手として～」とし、新しい薬剤師職能



大会実行委員長
外間 惟夫

を確立して更に飛躍する大会にしたいという思いを話した。次の大会会長挨拶では神村武之会長が宮古島会場から中継で挨拶があった。恒例の軽妙な「うちな～ぐち」での挨拶から始まり、近年の薬剤師に対する社会的要請と医薬分業への批判など難問も山積しているため医療制度の一翼を担っている自覚と責任を持つべき事などを述べられた。

会員発表の部では病院診療所部門から13演題、保険薬局部門から7演題、その他1演題の合計21演題の発表があり、昨年度より2演題増えていた。病院診療所部門からは抗がん剤調製鑑査システム導入、病棟薬剤業務展開や抗精神病薬減量化の取り組み、TDM

講演要旨集表紙

や抗菌薬適正使用への貢献などの報告が、保険薬局部門では吸入指導やインフルエンザ予防関連、手指消毒剤の手荒れに関する検討、その他の部門では危険ドラッグについて発表があった。今年は、ほとんどの演者が時間内での発表でスライドも良くまとめられており、昨年度の反省が生かされていた。今回発表された先生方は、本大会での発表に満足せず、是非今後も改善や更なるデータ蓄積などを検討し、九州山口薬学大会や薬剤師学術大会等への発表を目指して頂ければと思う。

ランチョンセミナーは、ヤンセンファーマ株式会社との共催で、琉球大学医学部附属病院第一内科の前城達次先生をお招きして「最新のC型肝炎治療」を講演頂いた。丁度、C型慢性肝炎治療薬に安全性速報(ブルーレーター)が発出された直後でもあり、興味深く拝聴した。

特別講演は、中央大学理工学部人間総合理工学科生物統計学教授の大橋靖雄先生に「医療統計にだまされないために」と題して講演して頂いた。昨今の降圧剤の臨床試験を発端とした不正問題に関連して、情報文献を適正に読む、あるいは批判的に読む力が薬剤師に求められていることから、我が国における臨床試験デザインと解析の第一人者の大橋先生に講演を依頼したが、期待にたがわぬ素晴らしい講演内容であったと思う。

その他、研修室では機器展示会が開催され8社に展示出展していただき、最新の薬局設備機器や調剤支援技術ソフト等の展示・紹介があった。

特別講演終了後に発表認定証と大会奨励賞の授与式が行われた。今年の大会奨励賞は病薬関連部門では沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの齊藤うたた先生による「抗HIV薬を粉碎・経管投与した症例」が、保険薬局関連部門ではにしばる薬局の新垣慶朗先生の「糖尿病患者の低血糖に対する認識度調査と再発防止の指導方法の検討」がそれぞれ選ばれた。両氏には神村武之会長から賞状と奨励品が授与された。

第28回 沖縄県薬剤師会学術大会

＜講演要旨＞



今こそ活かそう薬剤師の力
～地域医療の担い手として～

会期：平成26年10月26日(日)
会場：沖縄県薬剤師会館

その後、渡具知一枝大会副実行委員長による閉会の辞で学術大会は無事終了となった。

本学術大会では参加者が年々増え、会場の収容が限界である事など、いくつかの課題もあるが、本大会を成功裏に終えることができたのは、共催や広告、機器展示に出展頂いた協賛企業のご支援と、さらに今回発表予定者が急遽発表できなくなったトラブルに対して、共同研究者に代理発表を依頼するなど適切で迅速な対応を頂いた薬剤師会事務局並びに大会運営スタッフの協力の賜物であり、心より感謝申し上げたい。

＜機器展示出展社＞

(株)リレーションズ
(株)トーショー沖縄営業所
(株)タカゾノ
日立メディカルコンピュータ(株)
(株)ユヤマ沖縄営業所
(株)ITSシステム
(株)EMシステムズ
パナソニックヘルスケア(株)

(敬称略・順不同)

第28回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム

受付 9:00 ～

開会 10:00 ～



司会 広報委員会
石川 恵 市

○ 開会の辞

第28回沖縄県薬剤師会学術大会・実行委員長

外間 惟 夫

○ 会長挨拶

第28回沖縄県薬剤師会学術大会・会長

神村 武 之

I 会員発表（午前の部）

◎演題番号（1～7）

10:10～11:20

座長 照屋 陽子
（沖縄県立中部病院）



1. 抗がん剤調製監査システム導入に伴う、安全性と正確性の向上

沖縄県立宮古病院 薬局

○喜友名 朝 史

長 田 麗 裕 中 友 里

渡慶次 美 琴 伊 波 寛 史

垣 花 真紀子 渡真利 国 浩



2. 当院における、簡易懸濁法導入後の問題点について

沖縄県立北部病院 薬局

○伊 元 裕 香

宜 保 早 紀 徳 嶺 恵 子

花 城 薫 與 座 順 子

吉 元 尚 志 森 梨 奈

新 崎 さや乃 大 城 寿 子



3. 当院における院内製剤の現状と課題

沖縄県立中部病院 薬局¹⁾

○勝 連 真 人¹⁾ 川 平 浩 子¹⁾

医療情報科²⁾ 山 口 仁 利²⁾

周産期産科³⁾ 橋 口 幹 夫³⁾



4. 沖縄県病院薬剤師における糖尿病教室の実態調査

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 薬局¹⁾ ○翁 長 寛 人¹⁾⁸⁾
 沖縄県病院薬剤師会 糖尿病分科会⁸⁾ 上 地 美 和¹⁾ 田 中 健 嗣¹⁾
 琉球大学医学部附属病院 薬剤部²⁾ 砂 川 智 子²⁾⁸⁾ 外 間 登²⁾⁸⁾
 山 田 智 史²⁾⁸⁾ 外 間 惟 夫²⁾
 沖縄県立北部病院 薬局³⁾ 徳 嶺 恵 子³⁾⁸⁾
 沖縄県立宮古病院 薬局⁴⁾ 垣 花 真紀子⁴⁾⁸⁾
 社会医療法人敬愛会 中頭病院 薬剤部⁵⁾ 宮 城 英 之⁵⁾⁸⁾
 医療法人翔南会 翔南病院 薬剤科⁶⁾ 伊志嶺 純 平⁶⁾⁸⁾
 社会医療法人友愛会 豊見城中央病院 薬剤科⁷⁾ 喜久山 有 沙⁷⁾⁸⁾



5. 入院患者における癌化学療法施行前の取り組みについて

浦添総合病院 薬剤部 ○佐次田 頌 翁 長 真一郎
 浜 元 善 仁 村 田 利恵子
 前 泊 美 保 宮 里 弥 篤
 川 上 博 瀬 新 城 桃 子
 真喜志 理 沙 比 嘉 保



6. 病棟薬剤業務に関するアンケートについて

地方独立行法人 那覇市立病院 ○高 良 美 波 永 井 賢 作
 金 城 雄 一 金 城 清 二



7. 琉球病院における抗精神病薬の減量化へむけた取り組み

○益 崎 和 也

ブレイクタイム (休憩)

11:20～11:30



◎演題番号 (8～11)

11:30～12:10

座長 仲宗根 正人
 (ミント薬局)



8. こくら虹薬局の吸入指導の取り組みと症例報告 ～医薬連携も含めて～

こくら虹薬局 ○石 川 友理恵 阿 部 美 咲
 上 塚 由 希 久手堅 奈 央



9. 糖尿病患者の低血糖に対する認識度調査と再発防止の指導方法の検討

ぎのわん健康支援センター にしばる薬局 ○新 垣 慶 朗 沖 山 尚 美
新 垣 麻衣子 沖 山 勝 彦



10. 保険薬局におけるインフルエンザの治療及び感染拡大の予防への取り組み

(株)薬正堂 すこやか薬局グループ¹⁾ ○田 崎 仁¹⁾ 富 山 さゆり¹⁾
琉球大学医学部附属病院 薬剤部²⁾ 砂 川 智 子²⁾³⁾ …代理発表
琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学³⁾ 藤 田 次 郎³⁾



11. 保険薬局における速乾性擦式手指消毒薬および

石けんの使用による手荒れの実践的検討

ミドリ薬局 美里店¹⁾ ○玉 城 武 範¹⁾²⁾
北里大学 薬学部 保険薬局学²⁾ 有 海 秀 人²⁾ 吉 山 友 二²⁾

ブレイクタイム (休憩・機器展示閲覧)

12:10～12:40



ランチョンセミナー (昼食)

12:40～13:40

共催：ヤンセンファーマ株式会社



講師 前城 達次先生

『最新のC型肝炎治療』

琉球大学医学部附属病院第一内科 前 城 達 次 先生

座長 第28回沖縄県薬剤師会
学術大会実行委員
川平 浩子



<プロフィール> まえしろ たつじ

平成8年琉球大学卒業、琉球大学医学附属病院第一内科入局。以降、浦添総合病院、与那原中央病院、沖縄県立宮古病院で研修後、平成15年から琉大病院勤務して現在に至る。

(所属学会) 日本内科学会、日本肝臓学会、日本消化器病学会、日本内視鏡学会、日本エイズ学会

(資格) 日本肝臓学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本内視鏡学会専門医

ブレイクタイム (休憩・機器展示閲覧)

13:40～14:00



II 会員発表（午後の部）

◎演題番号（12～15）

14:00～14:40

座長 前原 律子
（会営薬局うえはら）



12. 沖縄新卒薬剤師採用大作戦

たいよう薬局 ○新 川 祥 平 吉 田 将 司
田 仲 康 人 小 野 貴 史



13. かかりつけ薬局のセルフメディケーション考察

薬局えぱーわーな～ ○大 城 恭 子



14. ちゅーがる薬やんどー

漢方みず堂 ヴァインドラッグ末吉薬局 ○盛 本 直 也

15. 沖縄県における危険ドラッグ対策について

沖縄県薬務疾病対策課¹⁾ ○中 村 章 弘¹⁾
松 田 聖 子¹⁾ 玉 城 宏 幸¹⁾
沖縄県衛生環境研究所²⁾ 佐久川 さつき²⁾ 上江洲 由美子²⁾
那覇市保健所³⁾ 神 里 奈々子³⁾

ブレイクタイム（休憩）

14:40～14:50



◎演題番号（16～21）

14:50～15:50

座長 小杉 卓大
（豊見城中央病院）



16. 肝機能低下患者におけるポリコナゾールの用量調節を行った一症例

沖縄県立北部病院 薬局 ○森 梨 奈
吉 本 尚 志 徳 嶺 恵 子
花 城 薫 與 座 順 子
宜 保 早 紀 伊 元 裕 香
新 崎 さや乃 大 城 寿 子



17. 手指衛生の調査報告（直接観察法を用いて）

沖縄県立中部病院 薬局 ○名 波 元 康
喜舎場 知 香 川 平 浩 子
兼 島 優 子 椎 木 創 一



18. 血液透析患者にクエン酸第二鉄水和物を使用した症例報告

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 薬局 ○上 地 美 和 義 田 育 美
大 関 秀 和 田 中 健 嗣
透析科 菅 谷 明 子 嘉 川 春 夫



19. 抗H I V薬を粉碎・経管投与した症例

沖縄県立南部医療センター ○齊 藤 うたた 石 垣 大 輔
こども医療センター 薬局 星 野 明日香 長 田 茂



20. 抗菌薬適正使用のためのサーベイランスの実施

琉球大学医学部附属病院 薬剤部²⁾ ○福 島 裕 貴²⁾
柴 田 馨 日²⁾ 外 間 惟 夫²⁾
同病院感染対策室・感染対策チーム(ICT)¹⁾ 潮 平 英 郎¹⁾²⁾ 武加竹 咲 子¹⁾
富 島 美 幸¹⁾ 芦 塚 陵 子¹⁾
同病院・検査部³⁾ 上 地 幸 平¹⁾³⁾
琉球大学医学部保健学科成人看護学⁴⁾ 大 湾 知 子¹⁾⁴⁾
琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座⁵⁾ 仲 松 正 司¹⁾⁵⁾ 比 嘉 太¹⁾⁵⁾
健 山 正 男¹⁾⁵⁾ 藤 田 次 郎¹⁾⁵⁾
琉球大学大学院 医学研究科 臨床薬理学講座⁶⁾ 植 田 真一郎⁶⁾



21. バンコマイシン注のTDMに関するアンケート調査と

院内システム改善に向けた取り組み

中頭病院 薬剤部 ○木奈崎 昭 男
玉 城 哲 子 長 濱 照 美

ブレイクタイム (機器展示閲覧・休憩)



15:50～16:00

<会員発表審査会>

16:00～16:20



病院薬剤師関連部門審査員

○亀谷 浩昌 ○松山 朝雄 ○姫野 耕一
○磯村 美和 ○入月 健



保険薬局・その他関連部門審査員

○城間 盛伸 ○川満 直紀 ○江夏 京子
○山里 勇 ○吉田 洋史

Ⅲ 特別講演

16:20～17:50

『医療統計にだまされないために』

中央大学 理工学部 人間総合理工学科 生物統計学 大橋 靖雄 先生



講師 大橋 靖雄 先生

<プロフィール> おおはし やすお

学歴 昭和47年：福島県立福島高等学校卒業。東京大学理科I類入学。昭和51年：東京大学工学部計数工学科（数理コース）卒業。昭和51年：東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程修士課程入学。昭和53年：同修士課程修了。昭和53年：同博士課程入学。昭和54年：同博士課程中退。昭和57年：東京大学工学博士（論文博士）。論文題目「探索的データ解析の研究－ロバストな手法を中心として」

職歴 昭和54年：東京大学工学部助手（計数工学科）。昭和59年：東京大学医学部講師（附属病院中央医療情報部）。昭和63年：東京大学医学部助教授（附属病院中央医療情報部）。平成2年：東京大学医学部教授（保健学科疫学講座）。平成26年：中央大学理工学部教授（人間総合理工学科）。平成26年：東京大学名誉教授。

座長：
第28回沖縄県薬剤師会
学術大会 実行委員長
外間 惟夫



○ 閉会の辞 第28回沖縄県薬剤師会学術大会・副実行委員長
17:50 渡具知 一枝



大会発表認定賞・奨励賞授与式



発表者21人全員に認定賞が授与された



受賞の喜びを述べる奨励賞受賞者
新垣 慶朗氏



受賞の喜びを述べる奨励賞受賞者
齋藤うたた氏

沖縄学術大会

第28回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会

日時：平成26年10月26日(日) 18:30～20:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

会場を下階の研修室に移し、約60名の参加の下、広報委員会の砂川智子氏の司会で第28回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会は進行された。

松山朝雄副会長の開会の辞で始まり、神村武之会長が挨拶、その後、大城桂子監事の乾杯のご発声にて歓談となった。

歓談で賑やかとなった中、沖縄県薬剤師会会長表彰式が執り行われた。前原信照、村田美智子、狩俣イソ、我喜屋美香、平良由紀子

(当日欠席)の5氏に神村会長から表彰状と記念品が授与され、前原信照氏が代表して謝辞を述べた。

会も半ば、懇親会にも出席いただいた学術大会特別講演講師の大橋靖雄先生からご挨拶をいただき、会場が更に盛り上がった。

楽しい交流を深めた懇親会も瞬く間に時間となり、吉田洋史副会長の閉会の辞により終了した。

(報告：第28回学術大会事務局 大城喜仁)



開会の辞
松山 朝雄 副会長



会長あいさつ
神村 武之 会長



乾 杯
大城 桂子 監事



閉会の辞
吉田 洋史 副会長



司 会
砂川 智子 広報委員



村田 美智子氏



薬事功労者沖縄県薬剤師会会長表彰
狩俣 イソ氏



我喜屋 美香氏



受賞者代表謝辞
前原 信照氏



大橋靖雄先生を囲んで



受賞者を祝いに多くの方が参加された

第28回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告

＜保険薬局・その他関連部門審査報告＞

保険薬局関連から7演題、行政から1演題の発表がありました。その8演題を5名の審査委員で「発表テーマ」「発表内容・構成」「発表方法」の観点から10項目について、それぞれ点数化し合計点数をつけました。

審査のポイントとして、薬局・薬剤師ならではのテーマとして取り上げて研究成果を患者さんや地域に還元できるのかどうか。方法や進め方が適切で患者の倫理的な問題、個人情報等にも十分配慮していること。研究の展開に沿って分かりやすくまとまっていること。抄録は発表内容が的確に表現されていること。配色や文字、図表等見やすく作成されていること。ポイントを簡潔に説明し、時間内に終えること。などを考えなくてはいけないので、かなり集中力・記憶力を使います。しかも、

保険薬局・その他関連部門
審査員 吉田 洋史



発表するにあたって何ヶ月も前からテーマを決め、データを集め、仕事の合間に作成していることを考えると、なおさら適当な審査は出来ません。なので、大会奨励賞の決定には、点数だけでは表現できない部分の評価をどうするかが議論の中心となり、最終的には審査員全員一致で大会奨励賞が決定されました。今回は、にしばる薬局の新垣慶朗先生による「糖尿病患者の低血糖に対する認識度調査と再発防止の指導方法の検討」が受賞されました。

今年は急に全体的に発表レベルがグッと上がったように感じ、学術大会の参加者と、演題の数が増えていることから、勉強する意識が非常に高まっています。来年は事前審査で振り落とさないといけないほどの演題申込があることを期待します。

＜病院薬剤師関連部門審査報告＞

第28回沖縄県薬剤師会学術大会において、病院薬剤師部門の発表は13演題ありました。発表した病院は、県立北部病院、県立中部病院が共に2題、県立宮古病院、県立南部医療センター・こども医療センター、ハートライフ病院、琉球病院、琉大病院、浦添総合病院、那覇市立病院が各1題となっています。研究テーマは、癌化学療法に関する取り組み、簡易懸濁、院内製剤、糖尿病教室の実態調査、病棟薬剤業務、抗精神薬の減量化、薬剤の症例報告、感染に関する手指衛生の調査や抗菌薬の適正使用などからでした。日常業務の中に研究テーマを見出し、発表に至っていることを伺っています。今回、演題提出のなかった施設も次回大会に向けて準備してほしいと思います。

大会当日の発表された演題の中から奨励賞を授与する発表演題を選定するのですが、評価の基準は、研究成果を患者や地域に還元できるか、研究の進め方が倫理にかなっているか、発表構成は適切か、発表内容に関して抄録と発表内容との関連性、プレゼンテーショ

病院薬剤師関連部門
審査委員 姫野 耕一



ン技術、時間配分について審査し、これを点数化して選定しました。

5名の審査委員で協議した結果、県立南部医療センター・こども医療センターの齊藤うたた先生による「抗HIV薬を粉砕・経管投与した症例」が奨励賞に決定しました。HIV感染患者の高齢化に伴う問題の一つとして、錠剤の服薬困難に対する、抗HIV薬の粉砕・経管投与した時のデータが少ない中で、適切な方法を思案し、薬物血中濃度を測定し結果を分かりやすい形で示し、ガイドラインを含めた薬学的知見を加えての発表でありました。この発表が、今後のHIV感染患者の治療に対して、一つの問題定義と解決方法を示し、薬剤師のみならず、患者にも大きく貢献すること等が審査において高い評価を得ました。

学術大会への演題数は年々増え、発表の内容も向上してきています。今大会のテーマである、「今こそ活かそう薬剤師の力」にふさわしい大会であったと思います。

＜保険薬局・その他関連部門奨励賞受賞講演要旨＞

9. 糖尿病患者の低血糖に対する認識度調査と再発防止の指導方法の検討

ぎのわん健康支援センター にしばる薬局 ○新垣 慶朗 沖山 尚美
新垣 麻衣子 沖山 勝彦

【はじめに】

近年、SU薬やインスリン製剤にDPP-4阻害薬を併用した場合に低血糖のリスクが高まる事が指摘されており、低血糖指導の重要性が再認識されている。当薬局でもSU薬やインスリンにDPP-4阻害薬が併用される例が増えている。

今回、糖尿病患者の低血糖の理解度や対処の実態を把握し再発防止のための指導方法を検討する目的で調査を行った。

【方法】

平成26年8月1日～8月15日の間に当薬局で糖尿病薬の調剤を行った患者139人中93人にアンケート依頼し拒否・聞き漏れの2人を除く91人を対象とした。

低血糖に関してはアンケート用紙を用いて聞き取り、使用薬剤は薬歴より調査した。

(調査1) ①低血糖についての理解度 ②低血糖経験の有無 ③低血糖症状 ④低血糖時の摂取物
⑤低血糖の起きた時期 ⑥低血糖の原因 ⑦低血糖予防の有無 ⑧低血糖予防の具体的内容
(調査2) 低血糖の経験者で低血糖用飲食物を携帯していない14人にアンケート調査時に低血糖の症状・原因・対処法を指導した。次回来局時に糖質携帯の有無を聞き取った。

【結果】

患者背景：男／女49／42、平均年齢64歳、平均HbA1c7.8%、期間中の聞き取り率65%。

(調査1) 91人中低血糖の理解有85人、低血糖経験者55人、糖質携帯者50人。

低血糖経験者55人の低血糖時飲食物は糖質類飲食物が約7割で、何も食べないが6人、救急搬送が1人いた。低血糖発現時期は食事前が約5割、仕事や運動中は3割、飲酒時が1人いた。低血糖の原因として食事摂取不足が約4割、運動量過剰が約2割、薬の過量やインスリン開始が約1.7割と続いた。原因がわからないが6人いた。低血糖時の対策を考えているのは55人中41人で具体的対策として低血糖用飲食物携帯は約9割であった。

(調査2) アンケート時の指導により、糖質不携帯率は58%低下した(5人/12人)。

【考察】

対象患者91人の低血糖への理解度は高かったが糖質携帯率は約半数であった。治療別での糖質携帯率はインスリン群76%に対しSU薬群は42%と低率であった。インスリン使用者は低血糖を経験した患者が多く、それが糖質携帯率に反映していると考えられた。糖質不携帯者への指導で糖質携帯するようになったことから、低血糖について繰り返し指導することの重要性が確認できた。

低血糖指導の強化が必要な例として、インスリン使用例にはインスリンの作用動態の特性も踏まえた指導、高齢者でのSU薬+DPP-4阻害薬併用例には処方監査の徹底と指導、大量飲酒例や低血糖の原因がわからない例には簡易自己血糖測定器での定期的な血糖測定の指導も必要と考えられた。また低血糖の未然防止には捕食の摂り方などの指導も必要と考えられる。

<病院薬剤師関連部門奨励賞受賞講演要旨>

19. 抗H I V薬を粉砕・経管投与した症例

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局 ○齊藤 うたた 石垣 大輔
星野 明日香 長田 茂

【目的】

抗H I V薬の進歩によってA I D Sの発症を遅らせることが可能となり、H I V感染者の生命予後は劇的に改善した。しかしながら、それに伴いH I V感染者の高齢化が課題となりつつある。高齢化によって起こる問題の一つに、錠剤の服薬困難が挙げられる。通常、服薬困難な患者には、粉砕や経管投与などの対応が考えられるが、抗H I V薬を粉砕・経管投与したデータはほとんどない。そこで今回、経管投与が必要となった症例において、抗H I V薬の血中濃度を測定した。

【方法】

- ・血中濃度測定対象薬剤：エファビレンツ（E F V）
- ・血中濃度測定時間：投与直前（2 2時）、4・8・1 2・1 6時間後（2・6・1 0・1 4時）
- ・抗H I V薬は一包化し、投与直前に病棟看護師が粉砕

なお、血中濃度測定は「抗H I V薬の血中濃度に関する臨床研究」研究班を経由した。また、患者家族から書面にて研究についての同意を得た。

【結果】

E F Vの血中濃度は、投与直前から4時間毎に4, 4 3 2 n M、9, 5 5 8 n M、6, 8 5 1 n M、5, 6 8 9 n M、4, 5 0 8 n Mであった。

【考察】

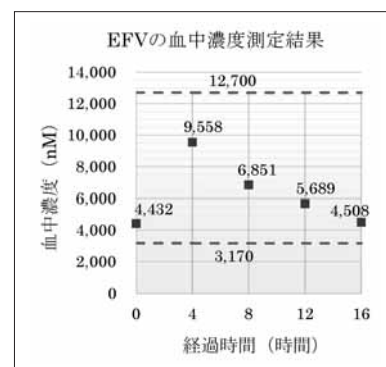
血中濃度測定は、血中濃度が定常状態になるよう、投与経路と服用時間を変更してから2週間後に実施した。なお、服薬中の抗H I V薬（アバカビル／ラミブジン（A B C／3 T C）＋E F V）のうち、血中濃度測定が可能であるのはE F Vのみであった。

抗H I V治療ガイドラインによると、米国保健福祉省（D H H S）ガイドラインでは、E F V投与1 4時間後の推奨有効血中濃度を3, 1 7 0 n M以上としている。また、精神神経系副作用の発現頻度は、1 2, 7 0 0 n Mを超えると有意に上昇すると報告する文献もある。

E F Vを粉砕・経管投与する上で想定される問題として、フィルムコート錠を粉砕することで薬物動態が変化し、血中濃度が大きく変動する可能性があった。しかし、今回の症例において、E F Vは粉砕・経管投与を行っても、比較的安定した血中濃度を保つことができた。

【まとめ】

H I V感染者の高齢化に伴い、抗H I V薬を粉砕・経管投与する機会は今後増えていくことが予想される。粉砕や経管投与に対する安全性・有効性は、未だ不明な点が多いが、患者一人一人の状況に沿った対応をしていく必要がある。今回のように、血中濃度測定も一つの手段として活用できると考えられる。



薬と健康の週間

くすりと健康フェア ～涙から力を与えた県民公開講演会～

日時：平成26年10月23日（木） 18:30～20:00

会場：パレット市民劇場（那覇市）

主催：沖縄県薬剤師会・沖縄県・那覇市



常務理事 山里 勇

今年も「薬と健康の週間」（10月17日～23日）の行事として、10月23日に沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会の共催で県民公開講演会がパレット市民劇場で開催されました。

冒頭、主催者の沖縄県保健医療部長の仲本朝久氏、那覇市保健所長の東朝幸氏、そして神村武之沖縄県薬剤師会会長の挨拶が行われ、当会製作の「対面販売に関するテレビコマーシャル」と「お薬手帳活用促進映像」が放映されました。これは当会ホームページでも閲覧することができます。

基調講演は、沖縄県保健医療部薬務疾病対策課の津波昭史氏による「くすりの販売ルールについて」と題し、医薬品の分類から、特にインターネット販売における医薬品購入の注意点等、スライドを多用した分かりやすい説明がありました。

特別講演では、シンガーソングライター松田陽子氏に「生きているだけで価値がある～子宮頸がん・うつ病を体験して～」と題し、ご講演いただきました。初めにスクリーンにライブやイベントで歌う姿や、セミナー講師としての活躍、チャリティーライブや支援イ

ベント、子宮頸がん検診啓発など様々な活動を行っている様子が映し出され、舞台へ登壇されました。自作の歌を披露した後、いよいよ講演の始まりです。

幼い頃、父親の家庭内暴力が原因で家族から十分な愛情が得られず、また貧しい生活の中で弟の面倒をみながら、学校では暗い姿ゆえにいじめに遭い、愛情に飢えた生活が続き、自殺を考えたことを告白。後に外国語学習のため、アメリカ、スペイン他、30カ国以上の海外体験によって独特の感性を持つようになったそうです。スリランカでは、幼い子供達が物乞いで同情を得るため自ら手・足を取り去っていることを知り、それを見た時、ショックを受け、生きることの大切さを考えさせられたといいます。

やがて結婚して娘を出産。我が子には、優しく語りかけ、目を見つめ、話を聴いてあげ、抱きしめることを大切にしているそうです。その後、子宮頸がんを発病し、壮絶な闘病体験の真っ只中に離婚を経験し、うつ病となり、体調が思わしくなく、初めて行った心療内科医院の医師に「あまり寝てないのでは？」と、優しい人の心を初めて受け、突然涙が出て止



神村武之会長あいさつ



控室にて

左より 東朝幸氏、松田陽子氏、神村武之会長、国吉秀樹氏

<プログラム>

○開 会

○主催者あいさつ

○沖縄県薬剤師会製作

「対面販売PRテレビコマーシャル」・「お薬手帳活用促進映像」放映

○基調講演「くすりの販売ルール」について 沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 津波 昭史

○特別講演『生きてるだけで価値がある～子宮頸がん・うつ病を体験して～』

講師：松田 陽子 先生（シンガーソングライター）

司会 沖縄県薬剤師会 広報委員会 砂川 智子

沖縄県保健医療部保健衛生統括監 仲本 朝久

那覇市保健所所長 東 朝幸

沖縄県薬剤師会会長 神村 武之



司会を務めた
砂川智子氏

<講師プロフィール>

松田 陽子（まつだ ようこ）

シンガーソングライターとして、メッセージ性の強い曲を発表し、ライブやイベントで歌う一方、イベントの司会やセミナー講師としても活躍。ニューヨークにて歌手活動をしていた経歴や、30カ国以上の海外体験、人生での出来事によって、独特の感性を持つ。これらの活動に加え、国連UNHCR協会・広報委員、NPO法人『self』の代表としてチャリティーライブや支援イベントを定期的開催し、難民支援活動、児童養護施設の子供たちとの交流・支援を積極的に行う。また、一般社団法人Stand for mothers 代表理事として子宮頸がん検診啓発活動や若いママのための防災活動など展開。

まらなかったそうです。作用の軽い薬を頂きぐっすり眠ることができ、やはり人は睡眠が大切だと痛感されたそうです。

人生に何の価値も見出すことができず、自ら命を絶とうとした日々。そんな中、生きる原動力となったのは、「一人の体ではない。あなたは幸せになるために生まれてきた」と、励ましてくれた友人、多くの人々の暖かい励ましの言葉に救われてきたことを語り、「この世に無駄な生命は一つもなく、それぞれが必ず使命を持って生きていけるはず。」と、今、人生に行き詰まっている人に少しでも自分の言葉を届け、「健康で心も体も輝く人生を共に歩んでいきましょう。検診は必ず受けましょう！」と呼びかけていました。会場は



涙、涙から力強い拍手へと移り、自作の明るい歌で会場一杯の手拍子を受けながら講演を終えられました。

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルスは、性体験のある女性であれば50%以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。必ず、検診を受けましょう。



基調講演



沖縄県薬剤師会制作
「お薬手帳活用促進VTR」も放映された

くすりと健康フェア スナップ写真

県民公開講演会



客席へ繰り出す松田氏。拍手喝采のフィナーレで幕を閉じた。



講演会終了後、サインやCDを求める参加者で大行列ができた



沖縄県薬剤師会よりNPO法人selfへ寄付がなされた

健康とおくすり相談会

～第118回健康とおくすり相談会～

日時：平成26年10月23日(火) 16:30～18:30

会場：パレット市民劇場ロビー

担当：南部地区薬剤師会

県民公開講演会開催前に行われた同相談会には、多くの相談者が訪れました。



健康とおくすり相談員

- | | | | |
|--------|--------|--------|------------------|
| ○高良 武和 | ○照屋 秀子 | ○川上 善久 | ○上原 陽子 |
| ○玉寄 睦子 | ○伊敷松太郎 | ○吉田 洋史 | ○薬学生5人 (順不同・敬称略) |

薬と健康の週間

薬 祖 祭

(波之上宮本殿)



「“薬と健康の週間” 行事は、毎年、波之上宮本殿で、朝10時からの薬祖祭を皮切りに行われる。宮司の祝詞の中に薬祖神、少彦名命（スクナヒコナノミコト）に薬の取扱いに間違いがないよう病める人の苦しみの癒えんことを奏上して、薬剤師会、卸協会、小売商組合、薬種商協会等の各団体名を言上されている。朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、各団体長はじめ関係業界人で厳修される。医薬の道を天職とする薬業人にとって年一回の薬祖祭には、この一年の無事を感謝し、薬の取扱いの過ちのないように祈願したいものである。」

と、故仲松弥元氏（第六・八・十一代会長）は、薬祖祭雑感を寄稿されている。仲松氏は、昭和37年に製薬会社が軒を並べる大阪市道修町の少彦名神社より御分霊「神農（中国医薬の守護神）」を勧請して、那覇市波之上宮に依頼して奉祀された。道修町で毎年11月22、23日に神農祭が行われることから、波之上宮に神農が奉祀された翌年より、11月23日（勤労感謝の日）に薬祖祭が執り行

われるようになった。

参拝者には、病除祈願の張り子の虎を笹に結びつけたお守りが配られる。この風習は、日本で初めてコレラが大流行した年に道修町の医薬商が相議り、疫病除御薬「虎頭殺鬼雄黄圓（虎の頭骨を配合した丸薬）」を作り、神前で祈祷して庶民に無料で施し、虎と竹を組み合わせたお守りと共に配った。当時、コレラを「虎列刺」と書き、その猛威と怖さを誇示していたので、薬に“虎を殺す鬼”と名づけられた。

神農を祀る神農祭とは別に、東京、京都、名古屋をはじめ、各地で薬剤を祀る祭礼が行われている。祭神は日本の医薬の神として敬われてきた少彦名命と大国主命（オオクニノシノミコト）。祭日は土地ごとに違っていたが、近年、10月17日に統一され、薬剤師会や薬業界が祭主となって催している。

今年の薬祖祭は、10月21日（火）、晴れわたった朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、沖縄県薬業連合会と沖縄県、那覇市で厳修された。

薬と健康の週間

街頭キャンペーン



那覇市ぶんかテンブス館前広場



北部地区薬剤師会（イオン名護店前）

※宮古・八重山地区の街頭キャンペーンが地元紙で紹介されていました。次頁の転載記事コーナーをご覧ください。

平成26年度「薬と健康の週間」（10月17日～23日）行事表

月 日	時 間	行 事 名	場 所	実施団体
10月17日(金)	16:30～17:15	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	那覇市ぶんかテンブス館前広場	沖縄県、那覇市 沖縄県薬業連合会
10月18日(土)	13:30～14:30	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	サンエー石垣シティ前	八重山地区薬剤師会、沖縄県
	15:00～16:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	イオン名護店	北部地区薬剤師会、沖縄県薬物 乱用防止協会北部支部、沖縄県
10月19日(日)	14:00～15:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	サンエーショッピングタウン宮古前	宮古地区薬剤師会、沖縄県
10月20日(月)	13:30～14:00	沖縄県薬事功労者知事表彰式 (被表彰者：下地仁氏、橋本孝夫氏)	沖縄県庁保健医療部長室	沖縄県
10月21日(火)	10:00～10:30	薬祖祭	波之上本殿	沖縄県薬業連合会・沖縄県
	10:30～11:00	永年勤続者表彰	波之上本殿	沖縄県医薬品卸業協会
	13:00～17:00	第45回全国統一薬事講習会	沖縄県薬剤師会館	沖縄県医薬品登録販売者協会
	13:30～14:00	認可外保育園マスク寄贈式	沖縄県庁子ども生活福祉部長室	沖縄県医薬品卸業協会
10月22日(水)				
10月23日(木)	16:00～17:00	「麻薬・覚せい剤乱用防止」 街頭キャンペーン	イオン北谷店前	沖縄県医薬品登録販売者協会 沖縄県
	16:00～18:30	くすりと健康フェア 健康とおくすり相談会	那覇市パレット市民劇場ロビー	南部地区薬剤師会
	18:30～20:00	くすりと健康フェア 県民公開講演会	那覇市パレット市民劇場	沖縄県、那覇市、薬剤師会

転載記事

平成26年10月19日(日) 八重山日報

医薬品や薬剤師の役割紹介

薬と健康週間街頭キャンペーン

薬と健康の週間(10月17日～10月23日)に合わせ、街頭キャンペーンが18日午後、市内のスーパーで行われた。

同週間は、医療品や薬剤師の役割に関する正しい認識を広く県民に浸透させ、県民の保健衛生の維持向上を図ろうと毎年、実施されている。今回も県内各地でイベントが行われ、石垣市では八重山地区薬剤師会、県八重山保健所が「知っておきたい薬の知識」と題したパンフレットなどを利用客に配布した。



どの普及啓発を図りたい」と話した。

薬と健康の週間に合わせ、街頭キャンペーンを行った八重山地区薬剤師会、県八重山保健所は18日午後、サンエー石垣シティ

平成26年10月20日(月) 宮古新報

正しい知識、正しく使用 薬と健康の週間PR



2014年度「薬と健康の週間」街頭キャンペーンが19日、市内平良のスーパーマーケット前で終わった。宮古地区薬剤師会や宮古福祉保健所の職員らが、買い物に訪れた市民に医薬品の適正使用や正しい知識などを記したリーフレットを配布。また琉球銀行宮古支店内では同週間に關するパネル展も行っている。

同週間は、医療品や薬剤師等の専門家の役割に関する正しい知識を広く県民に浸透させることにより、県民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的に今年23日まで実施する。期間中は、医薬品は医師や薬剤師等の専門家に相談して使用することをはじめ、医薬分業の趣旨、かかりつけ薬局での薬物療法の有効性・安全性の向上、お薬手帳の積極的な活用、薬剤師の役割の正しい知識などの普及啓発していく。

薬の正しい知識などのリーフレットを買い物客に配る参加者(サンエーショッピングタウン宮古食品館前)

実務実習

薬学生実務実習今年度Ⅰ期Ⅱ期35名終了！



薬学生実務実習受入委員会
委員長 我喜屋 美香

本会報誌に今年度Ⅰ期の報告の冒頭にも書きましたが、今年度の実習はⅠ期Ⅱ期合わせて35名でした。そのうちⅡ期の実習生19名が11月14日をもって全て終了しました。

今回は、宮古地区が初の受け入れ、また、OTC中心の薬局の受け入れ等々、特色のある実習の時期でした。また、5年目にして最多の実習生でした。今年度からは実務実習受入委員会では地区単位で実習薬局を支援しています。まだまだ課題はありますが、皆様のご協力あつての実習ですので、次年度もどうぞよろしくお願い致します。

さて、県内の実務実習の指導薬剤師は保険薬局薬剤師だけで58名。他府県に比べるとまだまだ人数的に少ない状況です。同じ薬局

が毎年、実習生を受け入れているのも事実です。平成28年からは指導薬剤師の更新認定が始まりますし、社会的ニーズに貢献できる薬剤師育成の観点から新モデルコアカリキュラムがこの春の新入生からスタートします。(実習は平成31年度から)新コアに向けて、いまから4年間かけて実習薬局の整備が必要になります。そういった状況の中、**今後のワークショップ(県外)での参加を公募したいと思います。随時、県薬剤師会までご連絡ください。**(現在11名の先生が手を挙げています。次年度は7月に開催されます)

以下に、実習薬局・協力薬局・協力施設・協力委員会・協力団体・実習生の感想文を掲載します。本当にありがとうございました。

実習薬局(17薬局)

- | | | | |
|------------|------------|---------------|---------|
| ○すこやか薬局宮城店 | ○ひかり薬局宜野湾店 | ○すこやか薬局新都心店 | ○クララ薬局 |
| ○すこやか薬局新川店 | ○会営薬局うえはら | ○すこやか薬局具志川店 | ○ゆい西崎薬局 |
| ○レモン薬局糸満店 | ○ミドリ薬局美里店 | ○ドラッグイレブン新都心店 | |
| ○こくら虹薬局 | ○豊見城薬局 | ○吉田薬局はんたがわ店 | ○つくし薬局 |
| ○コジャ薬局東店 | ○あかみち薬局江洲店 | ○とくりん薬局南風原店 | ○がじまる薬局 |

協力施設・委員会・団体

- | | | | |
|--------------|---------|------------|---------------|
| ○がじまる薬局 | ○こくら虹薬局 | ○すこやか薬局新川店 | ○ドラッグイレブン新都心店 |
| ○ぼたん薬局 | ○福寿薬局 | ○すこやか薬局野嵩店 | ○なごみ薬局 |
| ○(株)アトル沖縄営業部 | | ○(株)ダイコー沖縄 | ○那覇地区薬剤師会 |
| ○南部地区薬剤師会 | | ○学校薬剤師部会 | ○薬剤師学術研修委員会 |
| ○会営薬局医療センター前 | | ○学校薬剤師の先生方 | |

(以上、順不同・敬称略)

平成26年度 実務実習Ⅱ期生からの体験記・感想

徳島文理大学5年 座波 克圭

(とくりん薬局 南風原店 実習)
指導薬剤師 兼城 崇

薬局薬剤師という職能は活字を通して学ぶよりも、現場で実際に薬剤師や患者さんと関わることで多くの発見ができました。実習では薬学だけでなく人との関わり方や、物事の捉え方においても沢山学ばせていただき、これまでの薬局薬剤師の印象も変化しました。更に私の意思を尊重してくれ色々挑戦させてくれた、とくりん薬局の指導薬剤師の兼城さん他、薬剤師の方々、事務の皆さんには感謝しきれません。本当にありがとうございました。

第一薬科大学5年 姫野 太一

(すこやか薬局 新都心店 実習)
指導薬剤師 金城 奈々美

「薬剤師はこんなことも出来るのか・・・」11週間の保険薬局実務実習で感じた率直な感想です。薬局から飛び出し地域で行うお薬相談会や学校薬剤師の薬物乱用防止の講演会、在宅での関わりや漢方薬局の奥深さなど薬剤師としての機能の幅を体験することが出来ました。また毎日の業務ではどのような環境のもとでも効率よく的確で安全に薬を供給出来るように創意工夫することの大切さも学ばせていただきました。実務実習の体験を糧に更に充実した薬学生生活を頑張りたいと思います。

神戸学院大学5年 仲田 尚仁

(会営薬局うえはら 実習)
指導薬剤師 大城 久美子

これからの日本は超高齢化社会に突入します。在宅医療実習や、薬事法の動きを実務実習を通して学ぶことで、地域医療が非常に重要だと感じました。「かかりつけ医」という言葉がありますが、これからは「かかりつけ薬剤師」という存在も増えてくると考えられます。しかし在宅医療に薬剤師が参加する。という考えはまだ浸透していません。それは、在宅医療の現場で薬剤師の必要性、薬剤師にしかできない業務が他の医療従事者にも患者さんにも浸透していないからだと考えられます。このような課題を払拭することで、薬剤師が活躍できる市場は在宅医療、在宅看護にまで広がってくると考えられます。「薬剤師に薬のことを相談しよう」、「薬のことは薬剤師に任せよう」と言われる薬剤師が理想の薬剤師だと考えます。2ヶ月半の実習で、机上と現場の違いや、難しさをすごく感じました。しかし、それ以上に薬剤師の必要性や薬剤師という職業のやりがいも学ぶ事ができました。

徳島文理大学5年 下地 滋子

(コジャ薬局 東店 実習)
指導薬剤師 古謝 真己

実習を通して学んだ事は薬や病気に対する知識の大切さはもちろんですが、その他に患者さんへの思いやりと誠意が大切だということです。学校ではテストに終われ、知識だけを身につける事に必死でしたが、実際の現場に立つと目の前にいる患者さんの力になりたい！という思いがわきあがってきました。在宅医療では在宅医療を専門とする診療所の医師や薬局の薬剤師に同行させていただきました。患者さんへの誠意が伝わらなければ家にさえ入ることは出来ません。患者さんとの信頼関係を築くためには思いやりと誠意は必要不可欠だと感じました。一方的に薬の知識だけで服薬指導をするのではなく、患者さんが少しでも毎日健康で笑顔で過ごしてもらいたいという思いを伝えることが大事だと思います。普段から周りにいる人たちへの思いやりと誠意を大切にし、それを薬剤師として働いたときに活かせるようにしたいです。最後に実習でお世話になったコジャ薬局の皆様、Dr.ゴンの皆様、はくあい薬局の皆様に感謝申し上げます。

第一薬科大学 5年 高良 龍

(豊見城薬局 実習)
(指導薬剤師 玉城 賢也)

薬局実習の11週は終わってしまうとあっという間でした、思い返すと薬の知識だけでは無く色々な事を学びました。業務を円滑に進めるためにどの様に動いたら良いのか、患者さんに渡すお薬は束ね方次第で印象が変わるという事も教わりました。まだまだ書き足りませんが、最後に豊見城薬局の皆さん、至らない部分は多々あったと思いますが親切丁寧にご指導頂き本当にありがとうございました。

徳島文理大学 5年 安里 祐美

(がじまる薬局 実習)
(指導薬剤師 比嘉 はつみ)

実務実習では、投薬を多くやらせて頂き、最初は処方されている薬だけに注目しがちだったのですが、薬歴を見て患者背景を予想し、注意すべき点など考えることができるようになりました。また、計算など私の苦手分野を繰り返し実習して頂いて、大変勉強になりました。実習を通して薬剤師のあるべき姿を学ぶことができました。がじまる薬局の薬剤師の先生方及び職員の皆さまに感謝申し上げます。

第一薬科大学 5年 上地 里奈

(クララ薬局 実習)
(指導薬剤師 宮城 敦子)

2か月半の調剤薬局実習を経て様々な経験をする事が出来ました。調剤薬局では、調剤や一包化調剤、服薬指導など基本的なことから優しく教えてくれました。また、外部実習で薬局製剤や漢方、学校薬剤師、在宅医療、夜間薬局、OTC、問屋さんなど調剤薬局以外での薬剤師さんの仕事を見学させてもらい勉強になりました。この実習期間中に学んだことを今後の勉強や進路に活かしたいと思います。2か月半、色々なことを教えて頂き有難うございました。

神戸学院大学 上里 祐哉

(すこやか薬局 新川店 実習)
(指導薬剤師 比嘉 朋子)

2ヶ月半の長いような短いような実習に終わりが近づいています。薬局実習では、病院とは違った薬剤師の先生方の仕事を間近で拝見でき、再来年迎える国家試験や就職活動の参考になりました。今回の薬局実習において、調剤・投薬業務以外にも学校薬剤師や在宅、お薬相談会、卸業者など薬剤師が広範囲で活躍していること、学術大会に参加することで薬局薬剤師も研究や論文作成ができることを知りました。この実習でいくつもの刺激を受けたことは、必ずプラスに働くと思います。指導薬剤師の比嘉朋子先生には可能な限り実習生の要望に応じていただき(抗HIV薬の勉強会、すこやか薬局見学ツアーのセッティング)、本当に感謝しています。すこやか薬局新川店、実務実習受入委員会の方々のご支援により充実した実習生活を送ることが出来ました。誠にありがとうございました。

九州保健福祉大学 5年 中村 雄太

(つくし薬局 実習)
(指導薬剤師 具志堅 興也)

薬局の実務実習でわかったことは、スピードがとても重要になってくることである。患者さんが処方箋を持参し、薬を交付するまで、待たせることになる。来局者が増えればさらに時間がかかる。服薬指導を怠ることはできないので、調剤・薬歴記載に時間がかからないようにスピーディーに行う必要があるとわかった。そのためには、他の人のやり方を真似するなど、アレンジまたは自分なりに早くできるような工夫を考えると良いのではないかと考えた。今回の実習により自分自身で少しは実習開始前より、すべての業務内容がレベルアップし素早くなれたのではないかと思います。しかしこれで満足せずに、もっとレベルアップできるようにしたい。

徳島文理大学5年 大形 智南美 (すこやか薬局 新川店 実習 指導薬剤師 比嘉 朋子)

今回、すこやか薬局新川店で実習させていただきました。こちらの薬局は、すぐ調剤からするのではなく、最初の二週間はしっかり基礎知識をつけるため散剤の計算の復習、吸入剤の使い方、服薬指導をする時のポイントなどから、薬物動態まで幅広く教えていただきました。また、国家試験でそのような事なも教えていただき、そのあと調剤実践を行いました。皆さん丁寧に色々教えてくれたので、とても楽しく学ぶことができました。また、薬局内だけでなく、外部実習として、在宅、学校薬剤師、夜間休日の薬局、OTC、お薬相談会など地域の方達との関わりもあって、

薬剤師は薬局だけでなく幅広く活躍している事を実感する事ができて、すごく面白かったです。ただ、薬を提供するだけでなく、知識を増やしそれを多くの人に知ってもらう事で薬剤師の必要性を多く知ってもらいたいです。6年制となって、このようにふるさと実習を長い期間行うようになり、より深く薬剤師の仕事を知ることができました。疲れて帰ってきててもご飯を用意してくれた家族、優しく指導してくれたすこやか薬局の皆さん、外部実習で出会った地域の方々など、とても感謝しています。ここで実習ができてよかったです。ありがとうございました。

名城大学5年 宮平 かな

(あかみち薬局 江洲店 実習)
(指導薬剤師 上間 秀子)

11週間の薬局実習では、あかみち薬局江洲店のスタッフの皆様をはじめ、その他外部実習等で沖縄県薬剤師会の方々には大変お世話になりました。始まる前は長期間で不安でしたが実際はとても楽しくて短く感じ、もっと実習したいと思いました。実習を通して薬剤師の業務内容はもちろん、他にも患者さんと話す機会や、たくさんの方と触れ合うことが出来て大変貴重な体験ができ、外部実習を通して保険薬剤師には色々な業務があることも実際に感じる事が出来て良かったです。また、学校では学ぶことのできなかった臨床的な部分を見て学ぶことで吸収もしやすくてとても勉強になりました。一番、印象に残っているのは服薬指導の際にとっても丁寧に、薬の説明だけではなく症状を細かく聞き取ったり、患者さんから話しかけてくる場面が多く見られたので信頼されているんだな。と実感しました。3期には病院実習があるので薬局実習で学んだこと、病院でしか学べないこと、また知識不足だったところを更に勉強していき今後、沖縄に帰ってきて薬剤師として働くときに活かしていきたいと思っています。

第一薬科大学5年 仲里 朝希

(ドラッグイレブン薬局 新都心おもろまち店 実習)
(指導薬剤師 橋本 裕行)

今回は、JR九州ドラッグイレブンおもろまち店で11週間の薬局実習を行わせていただきました。通常の薬剤師業務に加え、老健施設でのカンファレンスや保健所での業務申請の見学などたくさんの事を学ぶ機会をくださいました。また、OTC併設型の薬局ということでOTCについて勉強する時間もたくさんとっていただきました。実習中、OTC医薬品の特色や各製薬会社の工夫などを知るにつれて、とても魅力を感じ、将来OTCに詳しい薬剤師になり、たくさんの人から頼られる薬剤師になりたいと思うようになりました。今回、優しく丁寧に教えてくれるだけでなく、薬剤師の魅力を十二分に伝えてくれた指導薬剤師の先生初め、実習に関わっていただいた薬剤師の先生方、スタッフの皆様にとっても感謝しています。今回の薬局実習を終えて、自分の将来の薬剤師像を決める事ができ、必ず薬剤師になりたいと改めて強く思いました。

九州保健福祉大学薬学部5年 祖堅 由伎

(レモン薬局 糸満店 実習)
指導薬剤師 平田 崇

2ヶ月半の薬局実習はあっという間でした。薬局実習は病院とは違い患者さんとの距離が近く、緊張し上手く会話する事や知識不足で質問に答えられなかった時など様々な場面で指導薬剤師の先生や薬局の皆さんには支えて頂きました。今後の自分の課題も知る事ができました。外部実習では様々な薬剤師の先生方から大学では学べない事、知らなかった薬剤師の活動など経験し学ぶ事ができ薬剤師の幅の広さを知りました。このような貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

第一薬科大学5年 福山 佳史

(ひかり薬局 宜野湾店 実習)
指導薬剤師 仲座 方利

11週間という実習でしたが、病院を経験し、病院以上にコミュニケーション能力が上達したことを実感しました。薬局以外にも多くの業種を体験することができ、特に在宅薬剤師に興味を持ちました。薬の知識はもちろん、患者の病態、患者とのコミュニケーションが多く求められると実感した。薬局では服薬指導をさせていただける機会が多くあり、即戦力となる薬剤師に一歩近付くことができました。ひかり薬局宜野湾店の皆様本当にありがとうございました。

第一薬科大学5年 与世田 美希

(すこやか薬局 宮城店 実習)
指導薬剤師 佐藤 雅美

この11週間という長いようで短かった実習を終えて、薬剤師の役割が広くあることを学びました。実務実習を迎える前に、私には目標がありました。それは、「自分の目指したい薬剤師像を探す」ことです。この実習を通して、その中で自分の目指したい薬剤師像を見つけることが出来ました。これからはその目標へ向かい進むだけだと感じています。この実りある実習をこれからに活かす為にも、国家試験に向けて頑張り、薬剤師になると心から思いました。

徳島文理大学5年 新垣 優美絵

(吉田薬局 はんたがわ店 実習)
指導薬剤師 吉田 洋史

約2ヶ月半という期間は、薬剤師の先生方やスタッフの方々、そして患者さんから学ぶ事がたくさんあり、毎日がとても充実していてあっという間の時間でした。地元沖縄で学ぶことができ、沖縄で薬剤師として働きたいという気持ちがより一層強くなりました。実習を進めて行く中で、自分がどのような薬剤師になりたいかを明確にする貴重な体験となったと感じています。この先も、学んだことを活かせるように日々頑張っていきたいです。

京都薬科大学5年 金城 昭宏

(こくら虹薬局 実習)
指導薬剤師 平良 栄子

本年9月から11月にかけて、こくら虹薬局で実習を行っていた京都薬科大学の金城昭宏です。実務実習では私のために貴重なお時間を頂き、誠にありがとうございました。実習中は至らない点が多かったですが、机上では学べない貴重な体験を沖縄県薬剤師会ではさせて頂きました。今後、この経験を最大に生かし、精進して参ります。

九州保健福祉大学5年 佐久真 守

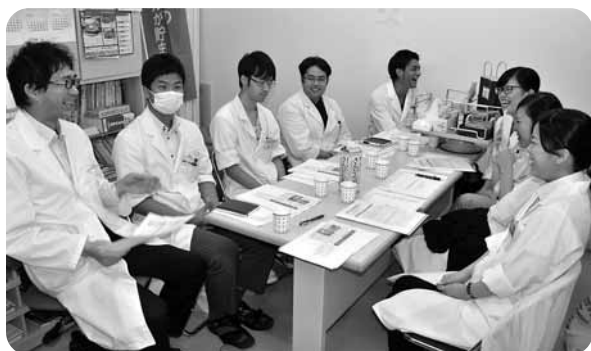
(ゆい西崎薬局 実習)
指導薬剤師 山城 巨佳

ゆい西崎薬局さんでの2カ月半は非常に充実した実務実習をさせていただきました。薬局業務では早くから服薬指導を重点的に経験させて頂き、多くの患者さんと関わることができ薬剤に関する知識以外にも患者さんに対する姿勢や接し方などがとても大切なことだと教えて頂きました。この2カ月半で学んだことが社会に出た時の糧になるように十分活かしていけたらと思います。

第一薬科大学5年 吉田 優司（こくら虹薬局 実習 指導薬剤師 平良 栄子）

私は第Ⅱ期の薬局実習でこくら虹薬局にて2ヶ月半の実習をやらせていただきました。こくら虹薬局は沖縄県で1番処方箋が多い薬局と前もって聞いており、正直とても心配でした。忙しいことはとてもいいことだとは思っていましたが、薬局で働く人たちがあまり相手にしてくれないとかが怖かったです。

しかし、皆さんが本当にいい人で良かったと思いました。時には至らないこともありましたが、優しくご指導していただいたおかげで、知識的なこと以外にも人間関係や社会での常識など多くのことを学ばせていただきました。今回の実習で学んだことを糧にしてこれからも勉学に励みたいと思います。



会営薬局医療センター前での実習風景



オリエンテーション



記念撮影

平成26年度Ⅱ期実務実習薬学生と指導薬剤師

九山大会

第76回九州山口薬学大会に参加して



株式会社 琉葉
管理薬剤師 吉富 弓江

11月22日・23日の両日、第76回九州山口薬学大会に参加しましたので、報告します。

今大会は、「長崎からの発信 歴史を刻め、薬剤師～チーム医療・在宅医療・多職種連携へ薬剤師力の発揮を～」をテーマに、約4,000人が参加しました。

特別講演Ⅰ「いつもチャレンジ精神で」

TVキャスター 草野 仁

今大会に参加することが決まって一番楽しみにしていたのが、この特別公演だった。TVで見ている草野キャスターが、どのような話をしてくれるのか、どのような話し方をしてくれるのか。堅い話し方のイメージの草野キャスターであったが、実際には抑揚に富み、ユーモアを交えた話し方であった。自身がNHKに入社した時、記者希望だったにもかかわらずアナウンサーとして配属され、方言に苦労したこと、今になって思えば、自分はアナウンサー向きであることを会社側に見抜かれていたことなどを話してくれた。

「人は複合的に適性を持っているものなので、自分が向いていると思うことと、他人が自分に向いていると思うことに違いが生じる。その時にはとにかくやってみるといい。」とアドバイスし、「人は何かをなそうとすると年齢は妨げにはならない。何かをやりたいと思った時が適齢期です。」と断言した。

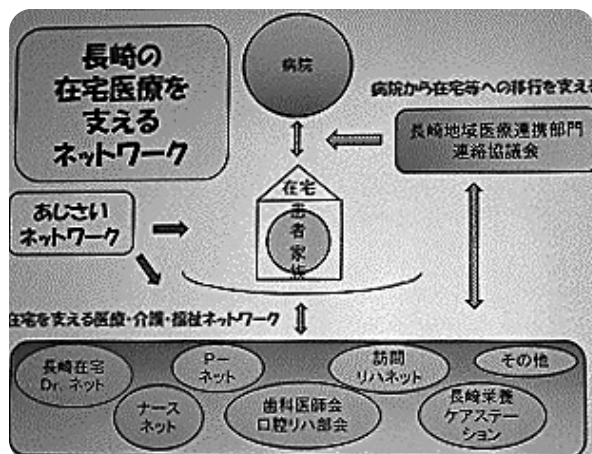
シンポジウム1

「在宅医療に必要な多職種連携」

長崎市では、平成15年頃から各分野のネットワークが立ち上がり、ネットワーク間の顔の見える連携が進んでいる。

- ・地域連携部門連絡協議会：地域医療連携室（退院支援、病診連携）
- ・長崎在宅Dr. ネット：医師（訪問診療、往診）
- ・ナースネット：看護師（訪問看護）
- ・P-ネット：薬剤師（訪問服薬指導）
- ・栄養ケアステーション：管理栄養士（訪問栄養指導）
- ・歯科医師会口腔リハ部会：歯科医師（訪問歯科診療）
- ・訪問リハネット：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士（訪問リハビリテーション）

また、情報共有を目的とした医師、訪問看護師、薬剤師が参加可能で、「あじさいネット」を利用した病院カルテ情報の閲覧や、モバイルを利用した在宅情報共有等の利用が行われている。



【長崎在宅Dr. ネット】

目的は、「在宅患者・家族の安心」である。そのために在宅医療を提供する医師は、24時間365日対応、研修会・勉強会を実践している。診療所の医師が頑張っている在宅医療に取り組むのではなく、頑張らなくても在宅医療ができる仲間、システム作りが必要であると考え、医療・介護・福祉等と連携して最適な在宅医療を提供する「在宅ネットワーク」を構築した。

【P-ネット】

P-ネットは、長崎在宅Dr. ネットとの連携を図ることで在宅医療の中で薬剤師の職能を生かせるのではないかと考え、平成19年7月に長崎市内の薬剤師27名で立ち上げた。

- 連携により次のことが上手くいくようになった。
- ・残薬・服用忘れ・服用間違いが解消される
 - ・安心して麻薬の供給・管理ができる
 - ・体調変化（食事・排泄・睡眠・運動・認知機能）を知ることにより、薬の影響をアセスメントできる

【あじさいネット】

平成26年から運用開始。平成26年8月1日現在の会員数387名、情報提供病院数27軒、情報閲覧施設数234（内薬局43）施設、全登録数37,814名。参加職種は、医師、薬剤師、看護師（訪問看護師、地域連携室）となっている。

在宅医療におけるあじさいネットの新たな活用としては、iPadを利用した在宅モバイルシステムの構築が挙げられる。

以上のように、長崎市では病院から在宅移行時の病診連携と、在宅での生活を支えるための介護・福祉の連携が既になされているといえる。

現在、薬剤師の眼は在宅に向いていることをあらためて実感できる学会であった。その中で医薬品卸の薬剤師はどう関わることができるのであろうか。私が医薬品卸に勤務し初めのころは、メーカーの訪問頻度が低かった薬局等への医薬品情報提供が主な仕事であった。現在も基本的には変わらないが、より現場（臨床）に近い問い合わせが増えている。

今後、医薬品卸の薬剤師も多職種連携に関われるよう、その職能を磨いていく必要性を感じた。

教育講演1

「薬局ヒヤリ・ハット事例詳細分析法

ープレアボイドとインシデントを上手にまとめましょう！ー

東京大学大学院 薬学系研究科 教授
NPO法人医薬品ライフタイム
マネジメントセンター長 澤田 康文

安心・安全で良質かつ適正な薬物療法を実践する際、基盤となるのは「医薬品情報」であり、「医療安全に関わるトラブル情報」も医薬品情報である。

医療安全に関わるトラブル情報として、日本薬剤師会が行っている「ヒヤリ・ハット事例収集事業」が挙げられる。通常、ヒヤリ・ハット事例というとインシデントやアクシデント事例を思い浮かべるが、プレアボイドもヒヤリ・ハットに含まれることを忘れないでほしい。

【プレアボイド】薬剤師が患者基本情報を的確に収集し、適正な薬学的患者ケアを実践して有害反応・治療効果不十分、精神的不安、経済的損失などを回避あるいは軽減した事例

プレアボイドを含めたヒヤリ・ハット事例を収集し、医薬品適正使用・育薬に有用な詳細解析を加えた「事例に基づくDI教材」を作成し、会員間で共有する「モバイルDI室」が一部の県薬事情報センターで始まっている。モバイルDI室は、各都道府県薬事情報センターの職員が各薬局を訪問してコミュニケーションを図るもので、職員が薬局薬剤師と対話し、問題の解決を目指す取り組みである。

このような取り組みによって、ヒヤリ・ハット事例の臨場感が増し、医療安全と医薬品適正使用推進には最適な教材となる。

月例相談会

第116回健康とおくすり相談会報告

日時：平成26年9月28日(日) 14:00～15:30

場所：明石公民館（石垣市）

担当：八重山地区薬剤師会



なみき薬局 宮良 善朗

去る9月28日(日)に石垣島北部、明石公民館にて健康とおくすり相談会が開催されました。午後からの開催ではありましたが、事前の呼び掛けなどもあり多くの方に参加いただきました。

今回は、八重山地区薬剤師会にとって初めての石垣島北部地域での開催です。石垣島北部の明石地区は石垣市の中心部から、車で約40分前後の距離にあります。この地域には高齢者が多く、沖縄県立八重山病院の巡回診療が週1回あるのみで、医療機関はありません。初の試みとして沖縄県立八重山病院から今村昌幹内科医師と下地浩之理学療法士も一緒に参加していただきました。医師からは健康全般に関するお話をしていただき、内容としては若い頃との体力の違いや、病気とうまく付き合っていくうえでのお薬の大切さなど、わかりやすくお話ししていただきました。続いて、理学療法士による講演では自宅でも簡単に行える健康体操を参加者全員で行うなど大切な筋肉のつけ方を学びました。

その後、お薬相談会の開始です。今までと違うのは薬剤師のみならず他職種と連携した相談会なので、お薬のことだけではなく生活

全般のことも指導出来たことも良かったと思います。会場には体組成測定機や血圧計も用意され、多くの方が利用し健康に関する意識も高まったようです。また、お薬手帳によるアンケートもとりました。結果としては、全員、お薬手帳は持ってはいるが、受診来局時に忘れてしまう方が多いのが目立ちました。今後、お薬手帳の持参率を上げるためにも、お薬手帳が活躍した事例をあげ、お薬手帳の有用性を説明しました。参加した医師からもお薬手帳があることで、複数の医療機関を受診していても、重複投与を防ぐことができ効率的な診察、継続した薬物治療ができることなどを例に挙げてもらいました。

最後に、今回のような薬剤師不在の地域での相談会を開催することで、より地域の方々の健康意識を高めることができ、さらには薬剤師の存在をアピールして活動を理解してもらうという意味でも、とても有意義な相談会になりました。そして私自身、他職種との連携による講演会や相談会を通してとても勉強になりました。今後は石垣島のみならず、石垣島以外の離島も含め、お薬手帳の普及啓蒙に継続的に取り組んでいきたいと思います。



(写真提供：八重山地区薬剤師会)

健康とおくすり相談員

○山城 専

○幸地 良信

○宮良 善朗

○宮良 長博

○和田 由子

○岡林 薫

○上地 美奈子

(順不同・敬称略)

月例相談会

第117回健康とおくすり相談会報告

～第1回なは健康フェアの「お薬相談会」に参加して～

日時：平成26年10月19日（日） 11:00～15:00

会場：沖縄セルラースタジアム那覇

担当：那覇地区薬剤師会



こくら虹薬局 平良 栄子

去る10月19日（日）午前11時～午後3時までセルラースタジアムに於いて那覇市主催なは健康フェアの一環で那覇地区薬剤師会による「健康とおくすり相談会」に参加しました。

今回はⅡ期の実務実習期間中だったので学生も9名参加しました。学生は3名の3グループに分かれて体成分測定、ラウンドでの呼び込み、お薬相談の様子を見学しました。参加薬剤師（8名）も3グループに分かれてお薬相談を行いました。相談者は全体で75名でした。

健康フェアとあって日頃から健康に関心を持っていて、日常的に運動をして食事も気をつけている方が多く、とてもはつらつとしていました。相談者は60～80歳代でほとんどがウォーキング参加者でした。

今回の健康とおくすり相談会はこれまでの相談会とは違い、健康意識の高い方がほとんどで薬のことより体成分測定結果に関心があり結果説明と現在行っている運動についての質問がほとんどでした。退職後、時間に余裕ができたため健康に関心を持つようになって運動を始めた方も多く、中には毎日、カーブス

に通って30分の筋トレを行ったりマラソンを始めた方もいました。退職後の余暇を生き生きと楽しんでいらっしゃいます。私が受けた相談内容も薬に関するものは、Ca拮抗剤とグレープフルーツとの併用、飲み忘れた時の対処法など普段よく受ける質問でした。

また、「お薬手帳」を持っている方も多く、実際どのように利用しているか確認したが、ほとんどの方が薬の記載のみでした。活用方法として、①受診時に医者への質問事項を記入、②OTC薬（サプリメントなど）の記入、③受診時の症状などを記載しておくなどのような症状の時にもらった薬かもわかることや薬の日記帳としても利用することができることを説明しました。まだ持っていない方へは「お薬手帳」の意義や活用法方法について話しました。

相談者との会話の中で、年齢に関係なくいろいろな事にチャレンジして毎日をエンジョイし、楽しみながら取り組んでいく事が長続きする要因で健康や若さを保つ秘訣だということに改めて気付かされました。

「お薬の相談を受ける」というより逆に健康を保つ秘訣、食事や運動を継続することの大切さを教えていただきました。



（写真提供：那覇地区薬剤師会）

健康とおくすり相談員

- | | | | | |
|---------|---------|--------|---------|-----------|
| ○伊是名 秀平 | ○渡具知 一枝 | ○平良 栄子 | ○宮城 幸枝 | ○姫野 耕一 |
| ○我喜屋 美香 | ○姫野 さやか | ○山道 俊也 | ○実習生 8人 | （順不同・敬称略） |

月例相談会

第119回健康とおくすり相談会報告

日時：平成26年11月15日(土)

場所：うるま市健康福祉センター「うるみん」

担当：中部地区薬剤師会



なでしこ薬局
砂川 祥子

平成26年11月15日、うるま市の健康福祉センター「うるみん」にて、薬剤師による「健康とおくすり相談会」が行われました。

その日は「うるみん」で健康・福祉まつりが開催されており、たくさんの地元の人たちで賑わっていました。みなさん顔見知りの方達も多いのか楽しそうに話をされていたり、声を掛け合ったりと地元ならではの良さを感じました。私はこのようなお薬相談会に参加するのは初めてだったため、「健康とおくすり相談会」というものがどのようなものなのか、また薬剤師として何か役立つアドバイスができるのだろうかと少し不安もありました。

「健康とおくすり相談会」の主な内容は、まず体成分分析装置で体重・体脂肪・筋肉量などを測定し、血圧脈波検査装置で動脈硬化度を測定、血圧測定、それらの結果をもとに健康管理や今服用中の薬のことなども含めてのアドバイスといったものでした。

体成分分析装置では左右の筋肉バランスや、筋肉と脂肪のバランスなどを測定することができ、普段はなかなか測定する機会がない項目を調べられることもあって、通りがかった方に「興味があれば測ってみませんか？」と声をかけると、みなさん喜んで測定されて行かれました。私は主にみなさんの問診の担当をしました。規則正しい生活を心がけ、バラ

ンスの良い食事を摂るなど普段から健康に気を付けている方や、全く気にしていない方、年齢も20～80代まで幅広い年代の方達がいらしてました。体成分分析装置で測定した結果はその場で印字出力されるため、その結果の見方などを説明すると、その場で色々と相談を受けることもありました。最終的な相談は全ての測定が終わった後にすることになっていたのですが、この場では簡単に答えることが多かったです。

相談内容としては、普段、仕事で受ける質問内容よりもより生活に密着した質問のように感じました。仕事で患者様と接する時、専門的な言葉を使わずに誰にでもわかりやすい言葉でどう説明するかということを心がけているのですが、このような相談会ではより気をつけないといけないと感じました。相談する方に合わせてわかりやすく説明し、その人が必要としている情報を汲み取り提供することはどの場面においても必要なことです。

今回、このような機会に参加し、薬剤師が薬局や病院だけではなく、地域社会でも貢献していけるような存在でありたいと思いました。



健康とおくすり相談員

- 福地 健治 ○照屋 洋子 ○中塚 泰子 ○伊佐 常隆 ○江夏 京子 ○蒔 初子
○普久原 隆 ○吉田 憲史 ○西村 浩彦 ○砂川 祥子 ○新川 玲女奈 (順不同・敬称略)

薬事情報おきなわ No.230

2014年11・12月号 : Vol.29 No.5

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成26年11月25日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	ベルソムラ錠15mg (@325)	15mg1カプセル	89.10	MSD	スボレキサント:オレキシント受容体拮抗薬 —不眠症治療薬—《不眠症》(新有効成分)
	ベルソムラ錠20mg (@335)	20mg1カプセル	107.90		
	リクシアナ錠60mg (DSC 475)	60mg1錠	758.10	第一三共	エドキサバントシル酸塩水和物:経口FXa阻害剤 /《○非弁膜症性心房細動患者における虚血性 脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ○静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血 栓塞栓症)の治療及び再発抑制 ○下記の下肢整形外科手術施行患者における 静脈血栓塞栓症の発症抑制膝関節全置換術、 股関節全置換術、股関節骨折手術》(新効能・新 用量)
	アグリリンカプセル0.5mg (@063)	0.5mg1カプセル	774.40	シャイアー・ ジャパン	アナグレリド塩酸塩水和物:本態性血小板血症 治療剤《本態性血小板血症》(新有効成分)
	ボシユリフ錠100mg (100 Pfizer)	100mg1錠	3,791.00	ファイザー	ボスチニブ水和物:抗悪性腫瘍剤/チロシンキ ナーゼ阻害剤(未分化リンパ腫キナーゼ)阻 害剤《前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄 性白血病》(新有効成分)
	ブイフェンドドライシロップ2800mg	40mg1mL(懸濁 後の内用液とし て)	1,328.30	ファイザー	ボリコナゾール:深在性真菌症治療剤《次の重症 又は難治性真菌感染症 ・侵襲性アスペルギルス症、肺アスペルギロー マ、慢性壊死性肺アスペルギルス症 ・カンジダ血症、食道カンジダ症、カンジダ腹膜 炎、気管支・肺カンジダ症 ・クリプトコックス髄膜炎、肺クリプトコックス症 ・フサリウム症 ・スケドスポリウム症》(新剤型・新用量)
	パニヘップカプセル150mg (MSD 700)	150mg1カプセル	2,812.00	MSD	パニプレビル:抗ウイルス剤《セログループ 1 (ジェノタイプ I (1a)又はII (1b))のC型慢性 肝炎における次のいずれかのウイルス血症の改 善 (1)血中HCV RNA量が高値の未治療患者 (2)インターフェロンを含む治療法で無効又は再 燃となった患者》(新有効成分)
注 射 薬	コムブレラ配合錠 (GSI)	1錠	5,817.80	ヤンセンファ ーマ	リルビピリン塩酸塩/テノホビル ジソプロキシルフ マル酸塩/エムトリシタビン配合錠:抗ウイルス化 学療法剤《HIV-1感染症》(新医療用配合剤)
	ミダフレッサ静注0.1%	10mg10mL1瓶	3,340.00	アルフレッサ ファーマ	ミダゾラム:抗けいれん剤《てんかん重積状態》 (新効能・新用量)
	ジーラスタ皮下注3.6mg	3.6mg0.36mL1筒	106,660.00	協和発酵キリン	ベグフィルグラスチム(遺伝子組換え):持続型G- CSF製剤《がん化学療法による発熱性好中球減 少症の発症抑制》(新有効成分)
	ホメビゾール点滴静注1.5g「タケダ」	1.5g1瓶	137,893.00	武田薬品工業	ホメビゾール:エチレングリコール・メタノール中毒 用剤《エチレングリコール中毒、メタノール中毒》 (新有効成分)
	ザノサー点滴静注用1g	1g1瓶	42,531.00	ノーベルファ ーマ	ストレプトゾシン:抗悪性腫瘍剤《脾・消化管神経 内分泌腫瘍》(新有効成分)
	マブキャンパス点滴静注30mg	30mg1mL1瓶	89,254.00	サノフィ	アレムツマブ(遺伝子組換え):抗悪性腫瘍剤 /ヒト化抗CD52モノクローナル抗体《再発又は難 治性の慢性リンパ性白血病》(新有効成分)

外用薬	グラナテック点眼液0.4%	0.4%1mL	451.00	興和	リバスジル塩酸塩水和物:Rhoキナーゼ阻害薬/緑内障・高眼圧症治療剤《次の疾患で、他の緑内障治療薬が効果不十分又は使用できない場合:緑内障、高眼圧症》(新有効成分)
	タブコム配合点眼液	1mL	1,060.00	参天製薬	タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩:緑内障・高眼圧症治療剤《緑内障、高眼圧症》(新医療用配合剤)

●報告品目・新キット製品 平成26年11月28日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	トラマールOD錠25mg (@132/25)	25mg1錠	38.60	日本新薬	トラマドール塩酸塩:がん疼痛・慢性疼痛治療剤 《非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛疼痛を伴う各種癌慢性疼痛》(剤形追加)
	トラマールOD錠50mg (@133/50)	50mg1錠	67.80		
	カロナール錠500 (SD115)	500mg1錠	10.30	昭和薬品化工	アセトアミノフェン:解熱鎮痛剤/《(1) 次の疾患並びに症状の鎮痛:頭痛, 耳痛, 症候性神経痛, 腰痛症, 筋肉痛, 打撲痛, 捻挫痛, 月経痛, 分娩後痛, がんによる疼痛, 歯痛, 歯科治療後の疼痛, 変形性関節症 (2) 次の疾患の解熱・鎮痛:急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む) (3) 小児科領域における解熱・鎮痛》(新用量新効能剤形追加)
	スタレボ配合錠L50 (50)	1錠	217.30	ノバルティスファーマ	レボドパ/カルビドパ水和物/エンタカボン:抗パーキンソン剤《パーキンソン病[レボドパ・カルビドパ投与において症状の日内変動(wearing-off現象)が認められる場合]》(新医療用配合剤)
	スタレボ配合錠L100 (100)	1錠	217.30		
	ディナゲストOD錠1mg (MO236)	1mg1錠	475.50	持田製薬	ジェノゲスト:子宮内膜症治療剤/口腔内崩壊錠《子宮内膜症》(剤形追加)
	ノベルジン錠25mg (NPC96/25)	25mg1錠	269.50	ノーベルファーマ	酢酸亜鉛水和物:ウィルソン病治療剤(銅吸収阻害剤)《ウィルソン病(肝臓核変性症)》(剤形追加)
	ノベルジン錠50mg (NPC96/50)	50mg1錠	422.30		
	エルカルチンFF錠100mg (OG61)	100mg1錠	97.30	大塚製薬	レボカルニチン:レボカルニチン製剤《カルニチン欠乏症》(剤型追加)
	エルカルチンFF錠250mg (OG60)	250mg1錠	292.00		
注 射 薬	ルセンティス硝子体内注射液 10mg/mL	0.5mg0.05mL1瓶	181,270.00	ノバルティスファーマ	ラニビズマブ(遺伝子組換え):眼科用VEGF注1)阻害剤(ヒト化抗VEGFモノクローナル抗体Fab断片)《1.中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症 2.網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 3.病的近視における脈絡膜新生血管 4.糖尿病黄斑浮腫》(販売名変更に係る代替新規)
	オノアクト点滴静注用50mg	50mg1瓶	6,633.00	小野薬品工業	ランジオロール塩酸塩:β ₁ 選択的遮断剤《1.手術時の次の頻脈性不整脈に対する緊急処置:心房細動、心房粗動、洞性頻脈 2.手術後の循環動態監視下における下記の頻脈性不整脈に対する緊急処置:心房細動、心房粗動、洞性頻脈 3.心機能低下例における下記の頻脈性不整脈:心房細動、心房粗動》(販売名変更に係る代替新規)
	インフリキシマブBS 点滴静注用 100mg「NK」	100mg1瓶	59,814.00	日本化薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え):抗ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤《既存治療で効果不十分な次の疾患:関節リウマチ(関節の構造造的損傷の防止を含む) 次のいずれかの状態を示すクローン病の治療及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限り)中等度から重度の活動期にある患者外瘻を有する患者中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限り)》(パイオ後続品)
	インフリキシマブBS 点滴静注用 100mg「CTH」	100mg1瓶	59,814.00		

注射薬	パレプラス輸液	500mL 1キット	647.00	エイワイファーマ	アミノ酸・水溶性ビタミン加総合電解質液《次の状態時のアミノ酸、電解質、水溶性ビタミン及び水分の補給・経口摂取不十分で、軽度の低蛋白血症又は軽度の低栄養状態にある場合・手術前後》(類似処方医療用配合剤)
		1000mL 1キット	883.00		
	フィルグラスチムBS注 75 μ gシリンジ「サンド」	75 μ g0.25mL 1筒	6,143.00	サンド株式会社	フィルグラスチム(遺伝子組換え) [フィルグラスチム後続3] 製剤: G-CSF 製剤《造血幹細胞の末梢血中への動員造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進がん化学療法による好中球減少症ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の治療に支障を来す好中球減少症骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症再生不良性貧血に伴う好中球減少症先天性・特発性好中球減少症》(パイオ後続品)
	フィルグラスチムBS注 150 μ gシリンジ「サンド」	150 μ g0.5mL 1筒	9,987.00		
	フィルグラスチムBS注 300 μ gシリンジ「サンド」	300 μ g0.5mL 1筒	15,093.00		
外用薬	フルティフォーム50エアゾール120吸入用	120吸入1瓶	5,780.70	杏林製薬	フルチカゾンプロピオン酸エステル/ホルモテロールフマル酸塩水和物: 喘息治療配合剤《気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入 β_2 刺激剤の併用が必要な場合)》(新医療用配合剤)
	フルティフォーム125エアゾール120吸入用	120吸入1瓶	6,759.10		
	レルベア100エリブタ30吸入用	30吸入1キット	5,987.20	グラクソ・スミスクライン	ビランテロールトリフェニル酢酸塩/フルチカゾンフランカルボン酸エステル: 喘息治療配合剤《気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入 β_2 刺激剤の併用が必要な場合)》(新有効成分、新医療用配合剤)
	レルベア200エリブタ30吸入用	30吸入1キット	6,692.60		

*識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

●後発医薬品 平成26年12月12日付

初の後発品収載は、抗癌剤「オキサリプラチン」、好中球エラスターゼ阻害剤「シベレスタット」の2成分29品目。薬価収載の対象となったのは、今年8月25日までに薬事承認された医薬品、72社の125成分245規格521品目が収載された。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口 「おくすり相談室」の受付事例から 消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

【質問】家族のこと。何年もバイアスピリン100を飲ませていたが、今回から胃をあらさない薬タケルダというのに変わった。これは胃薬ですか？

【回答】タケルダにはバイアスピリンの成分である少量のアスピリンと胃酸を抑えるランソプラゾールというお薬と一緒に配合されています。アスピリンには、血液が固まらないようにする効果がありますが、胃・十二指腸潰瘍の副作用も指摘されています。少量のアスピリンではありますが、胃薬と一緒に服用することで、胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発予防に効果を発揮します。

●安全性情報●

【質問】ロキソプロフェンナトリウム、ムコスタ、シナール、ロキソニンテープ100mgを妊娠3週頃3回くらい飲んだ。生後20日の赤ちゃんの寝付きが悪いが、この時に薬のせいではないか。

【回答】お薬を服用された時期は妊娠0～27日となり、胎児への影響は特に問題ないでしょう。妊娠0日～27日目と28日目以降ではお薬の胎児に与える影響は大きく変わります。例えば、ロ

キソプロフェンナトリウムの妊娠末期での服用は胎児動脈管収縮が報告されているため禁忌となっています。妊娠初期、また、妊娠2～3ヶ月だけでなく、妊娠後期の服用で赤ちゃんに影響を及ぼす薬があり、早産になるケースや妊娠肺高血圧の報告もあります。妊娠中のお薬の服用は慎重に、必ず医師、薬剤師へご相談下さい。

●その他●

・70代父の事。逆流性食道炎ということで、ガスターのジェネリック医薬品を2週間分もらった。この胃薬が合わなかったみたいで、背中が湿疹で真っ赤になり、腰等に広がっている。胃薬で副作用の湿疹ができるとは思っていなかったの、乾燥しているものだと思います、2週間服用を続けてしまった。皮膚科へも行ったが、なかなか良くならない。かかりつけの薬局では薬の副作用とかくすりについての説明はなかった。

・精神科の薬(ランドセン、ロラゼパム等)を飲んでいる。舌根沈下する薬があると聞いたけど、自分は寝てる時に呼吸が苦しくなった。過呼吸になった。舌根沈下しているのではないかと。



Medical News

●サリドマイド等手順書、個人情報原則不要に（薬事日報 12月3日）

厚生労働省の検討会は11月28日、サリドマイドおよびレナリドミドの安全管理手順に関する報告書を取りまとめた。これまで製薬企業に確認を義務づけていた氏名、住所などの個人情報を原則不要とし、医療機関は、患者が安全管理手順を遵守しているかどうかの確認を企業を介さずに行えるように見直した。両剤は強い催奇形性を有するため、胎児への薬剤曝露の防止を目的とした厳しい管理手順の実施が医療機関や薬局、企業に義務づけられており、患者本人に対しても妊娠回避の徹底が求められている。

●和歌山県薬専属スポーツファーマシスト、全競技団体に配置 - 全国初（薬事日報 12月3日）

和歌山県薬剤師会は今年度から、和歌山県の要請を受けて、国体に出場する40競技団体の全てに専属のスポーツファーマシストを配置した。各競技団体にアンチ・ドーピング講習会を実施し、個別の相談にも応じている。来秋開催の紀の国わかやま国体に向けて、薬物を使って好成績を収めようとする意図的なドーピングや、うっかりドーピングを防止し、選手のフェアプレイを支援する。

●血液で遅延型食物アレルギー検査「推奨しない」学会が注意喚起（朝日新聞 12月5日）

わずかな血液を調べるだけで「遅延型の食物アレルギー」の原因食品がわかるとうたう「IgG抗体検査」について、日本小児アレルギー学会は「推奨しない」とする見解をまとめ、学会サイトで注意喚起した。同学会食物アレルギー委員長の海老沢医師は「抗体検査だけでなく、実際に食品を食べてアレルギー反応を確認するのが、治療指針に基づく診断法だ。むやみに食事制限をすると低栄養や発育不良などを招く恐れがある」としている。

●12年凍結卵子で出産 血液がん克服の女性（共同通信 12月8日）

がんの治療で生殖機能を失う恐れがあった当時高校2年の女性（30）から卵子を採取して凍結保存、12年後に解凍して夫の精子と体外受精した受精卵を子宮に戻すことで、ことし8月に女性が出産していたことが5日、分かった。国内で10年以上凍結保存した卵子で出産したケースは珍しい。この女性は2001年に血液のがん「悪性リンパ腫」を発症、この病気の治療には抗がん剤の投与と骨髄移植が必要だが、抗がん剤の投与で卵子がつくられなくなる可能性がある。女性は本格的に治療を始める前に、不妊治療施設で卵子2個を採取、液体窒素で凍らせ、零下196度で保管していた。

●MRSA 99.99%殺菌 東大チームが新抗生物質発見（毎日新聞 12月9日）

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）を殺菌する効果のある新しい抗生物質を発見したと、東京大学研究チームが8日付の米科学誌ネイチャー・ケミカルバイオロジー電子版に発表した。MRSAは院内感染が問題になっており、新薬開発が期待される。約2年7カ月かけ、各地で採取した土壌にいる約1万4000種類の細菌を調査。

沖縄県土から見つかった細菌が、MRSAを殺す抗生物質を作り出すことを発見し、ライソシンEと名付けた。

●医療用検査薬のスイッチ化、一般原則と新スキーム了承（薬事日報 12月10日）

薬事・食品衛生審議会は5日、一般用検査薬の導入に関する一般原則と、一般用検査薬の承認審査に関する新たなスキームを了承した。一般原則では、医療用検査薬から一般用にスイッチ化する場合、医療用検査薬から一般用にスイッチ化する場合、対象となる検体として、これまでの尿や糞便に加え、「採取する際に侵襲性がない」として、鼻汁、唾液、涙液を追加。一方で、指先などから採取する血液や喉を綿棒などで拭う「咽頭拭い液」、口腔内擦過検体については、「侵襲性がある」として除外した。十数項目が審査の対象となる見込み。一般用検査薬の使用者に適切な情報提供を行うため、製品を取り扱う薬剤師等には、検査の意義や目的、検査薬の性能、結果の判定などを購入者に分かりやすく説明すると共に、適切な受診勧奨を行うよう求めた。

●抗がん剤投与後に5人死亡 製薬会社「慎重投与を」（共同通信 12月11日）

前立腺がんの抗がん剤「ジェブタナ」を投与された患者のうち5人が死亡していたことが分かった。販売する「サノフィ」は、投与との因果関係を否定できないとしており、慎重に投与するよう医療機関に注意を呼び掛けている。ジェブタナは販売開始の9月4日から12月3日までの3カ月間に約200人の患者に投与され、40人に白血球の一種「好中球」が減少する症状が確認された。うち60代の3人、70代の2人が感染症などが原因で死亡した。サノフィは「投与した患者には頻りに血液検査を実施し、発熱があった場合には適切な抗菌薬の投与を開始してほしい」としている。

●健康被害出たらすぐ中止を（共同通信 12月11日）

消費者庁は10日、化粧品や健康食品で健康被害が出ても「回復過程の一時的な『好転反応』だ」「毒が出ている証拠」などと説得されて使い続け、症状が悪化したケースが、2009年度以降100件に上ったと発表した。09年度以降、被害後も使用を勧められたとの相談は339件あり、うち100件が使い続けて悪化した。33件が化粧品で発疹や腫れ、健康食品が32件で下痢や吐き気といった症状を訴えている。ほか、マッサージ器などの健康器具でも23件あった。

●向精神薬の多剤処方4倍 生活保護、安易な使用も（共同通信 12月11日）

外来で睡眠薬や抗不安薬などの向精神薬を3種類以上処方（多剤処方）された人の割合は、生活保護受給者では企業の健康保険組合加入者の4倍に上ることが一般財団法人「医療経済研究機構」の調査で分かった。生活保護受給者の方が重い精神疾患を持つ人が多いことが一因とみられるが、医療費の自己負担がないことから、医療機関と患者双方が安易に薬を使っている可能性も指摘されている。

インスリン注入器の 取り違い

医療
安全情報

No.96 2014年11月

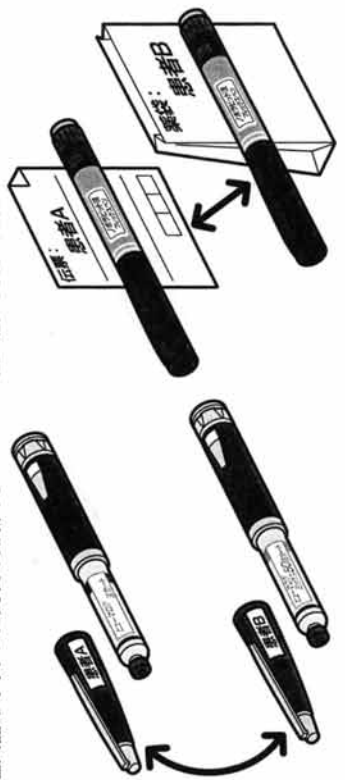
インスリン注入器を使用して患者にインスリンを投与する際、別の患者のインスリン注入器と取り違えた事例が2件報告されています(集計期間:2011年1月1日～2014年9月30日)この情報は、第20回報告書「個別のテーマの検討状況」(P83)で取り上げた内容を元に作成しました。

インスリン注入器の患者名の記載が不十分、または氏名の記載がなかったため、別の患者の注入器と取り違えた事例が報告されています。

事例	インスリン注入器への氏名の記載場所	背景	取り違えの内容
1	患者A 記載あり/注入器のキャップのシール	患者Aと患者Bのキャップが入れ替わっていた	患者Aに患者Bのインスリンを投与
2	患者B 記載なし/伝票と一緒に保管	氏名の記載がない注入器が患者Aのものか確認しなかった	

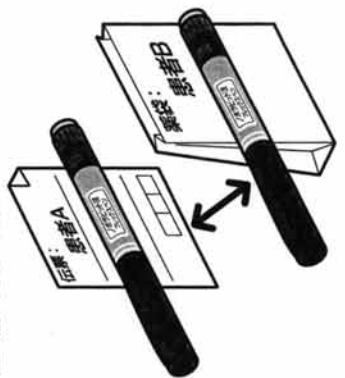
事例1のイメージ

注入器のキャップに氏名の記載あり



事例2のイメージ

注入器に氏名の記載なし



「インスリン注入器の取り違い」

事例 1

患者Aにヒューマログ注カートを皮下注射する指示が出ている。看護師Xは注射伝票で指示を確認後、インスリン注入器を確認したところ、患者Aの氏名が書かれたキャップの本体にヒューマログミックス50注カートのカートリッジが付いていた。指示とは違うインスリンであったため、指示受けをした看護師Yに「これで大丈夫?」とインスリン注入器を見せた。看護師Yはキャップに書かれた氏名を見て「大丈夫」と答え、看護師Xは患者Aにヒューマログミックス50注カートを皮下注射した。複数の患者のインスリン注入器をまとめて保管していた際に、患者Aと患者Bのインスリン注入器のキャップが入れ替わっていた。

事例 2

夜、患者Aに翌朝からノボラビッド注フレックスペンを注射する指示があり、夜勤看護師Xは薬局より受領した。未使用の注入器は伝票と一緒に輪ゴムで止めて保管することになっており、氏名のシールを注入器に貼付せずそのまま保管した。患者Bのノボラビッド注フレックスペンは、インスリン注入器に患者Bのシールを貼付せず、患者Bの薬袋に入れて保管していた。当日の朝、看護師Xは血糖値の測定後、患者Bのシールのないノボラビッド注フレックスペンを患者Aのものと思い込み、使用した。その後、日勤看護師Yが、患者Aのノボラビッド注フレックスペンが使用された形跡がないことに気づき、誤って患者Bの薬剤を使用していたことが分かった。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・キャップをはずしても患者名がわかるよう、インスリン注入器の本体に、患者の氏名を記載する。
- ・投与前に、患者氏名、患者のインスリン注入器、注射指示書を必ず確認する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたって保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

J C H C Q C 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話: 03-5217-0252(直通) FAX: 03-5217-0253(直通)
<http://www.med-safe.jp/>



公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業

医療
安全情報

No.97 2014年12月

肺炎球菌ワクチンの 製剤の選択間違い

肺炎球菌ワクチンを接種する際、対象者の年齢が決められていることを知らず、製剤の選択を間違えて接種した事例が2件報告されています（集計期間：2011年1月1日～2014年10月31日）。この情報は、第23回報告書「個別のケースの検討状況」（P106）で取り上げた内容を元に作成しました。

肺炎球菌ワクチンは、製剤によって接種対象者の年齢が決められています。

接種対象者の年齢	出生時	2ヶ月	2歳	6歳	65歳
製剤名※1					
プレベナー13 水性懸濁注 （減毒13価肺炎球菌 結合型ワクチン）		2ヶ月齢以上 6歳未満			65歳以上※2
ニューモ バックスNP （肺炎球菌ワクチン）			2歳以上		

※1 PMDA「医療用医薬品の添付文書情報」より（平成26年11月17日現在）

※2 平成26年6月20日～65歳以上に接種通知を拡大した。

◆ニューモバックスNPの添付文書の「接種不適当者」に「2歳未満の者では、含有される英膜型抗原の一部に対して十分応答しないことが知られており、また本剤の安全性も確立していないので投与しないこと。」と記載されています。

◆報告された事例2件は、2歳未満の小児にニューモバックスNPを接種した事例です。

医療事故情報収集等事業

No.97 2014年12月

医療
安全情報

肺炎球菌ワクチンの製剤の選択間違い

事例 1

0歳2ヶ月の小児の母親から、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンを同時接種希望の予約が入った。予約を受けた外来看護師は、肺炎球菌ワクチンに接種対象年齢によって種類があることを知らず、患者の年齢を記載した予約票に「ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン」と記載し、薬剤科にワクチンを申し込んだ。担当薬剤師も肺炎球菌ワクチンに製剤ごとに接種年齢の区別があることを知らず、業者に「肺炎球菌ワクチン」と発注した。接種当日、外来看護師は、薬剤科からヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンを受け取り、医師の診察後に接種した。約1ヵ月後、小児の母子手帳にニューモバックスNPのロット番号が貼られていると他院より連絡があった。カルテを確認したところ、プレベナーを接種すべきところ、ニューモバックスNPを接種していたことが分かった。

事例 2

医師は、自治体からの予防接種事業で肺炎球菌ワクチンの接種を行う際、2歳未満の小児にはプレベナーを接種するという認識がないまま、肺炎球菌ワクチンの払い出しを依頼した。薬剤師は接種対象者の年齢を確認しないまま、ニューモバックスNPを払い出した。医師は0歳6ヶ月、0歳7ヶ月、0歳10ヶ月、1歳5ヶ月の計4名の小児にニューモバックスNPを接種し、ワクチン製剤の費用の請求書を自治体に提出した。その後、自治体から2歳未満の小児にニューモバックスNPを接種していると連絡があった。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・院内で実施している予防接種の種類、製剤の販売名、対象年齢の一覧表を掲示する。
- ・医師は対象者毎に肺炎球菌ワクチンの処方オーダーを行い、薬剤師は鑑査を行ってから払い出す。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の教養を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252（直通） FAX：03-5217-0253（直通）

<http://www.med-safe.jp/>

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

○医薬ジャーナル 50巻 10号

- *特集：インフルエンザの疫学的考察と今日の臨床
・連載：副作用・薬物相互作用トレンドチェック
注目論文を読み解く(31) (p.154)
1. シプロフロキサシン併用でジゴキシン毒性が発現した可能性
2. メトホルミンとシメチジンの併用による重度の乳酸アシドーシスと急性膵炎
3. アセトアミノフェンやNSAIDsが腎臓がんのリスクとなる可能性
4. リラグルチドによる急性間質性肺炎
5. アシクロビルによる脱毛症
6. アモキシシリンを母乳に懸濁しても薬物動態は変化しない

○医薬ジャーナル 50巻 11号

- *特集：医療経済、費用対効果研究とヘルステクノロジーアセスメント (HTA)
・連載：副作用・薬物相互作用トレンドチェック
注目論文を読み解く(32) (p.156)
1. 妊娠後期でのSSRI使用により新生児遷延性肺高血圧症リスクが上昇
2. モルヒネ併用でクロピドグレル活性代謝物の血漿中濃度が低下
3. トピラマート併用でグリベンクラミドの血漿中濃度が低下
4. レボフロキサシンによる短期記憶喪失
5. リファンピシンによる血管性浮腫
6. 米国の複数薬局利用者は服薬アドヒアランスが低く、薬物相互作用の可能性が高い

○医薬ジャーナル 50巻 12号

- *特集：miRNAの実力：診断から治療まで
・連載：これだけは知っておきたい皮膚疾患の服薬 指導(24) 経皮吸収型製剤適用時のスキンケア (p.15)
・連載：副作用・薬物相互作用トレンドチェック
注目論文を読み解く(33) (p.156)
1. フルオロキノロン系抗菌薬で肝毒性発現リスクが上昇
2. リファンピシン併用でエルロチニブの血漿中濃度が低下
3. セントジョーンズワート併用でドセタキセルの血漿中濃度が低下
4. トピラマートで急性近視と閉塞性隅角緑内障を呈

した小児

5. シルチアゼムによる色素沈着
6. メマンチン併用でドネペジルによるPR間隔延長が悪化

○エキスパートナース 30巻 13号

- *特集：酸素と加湿・「困っていること」解決！
*特集：褥瘡での発赤の見わけ方

○エキスパートナース 30巻 14号 (臨増)

急変サインの見抜き方

○エキスパートナース 30巻 15号

- *特集：ドレーン・カテーテルを「抜去する」基準
*特集：不穏への対応

○月刊薬事 56巻 10月号

- *特集：糖尿病の合併症治療
・適応拡大クローズアップ タダラフィル (p.96)
・適応外使用の処方せんの読み方(52) 睡眠時無呼吸症候群 (p.141)

○月刊薬事 56巻 11月号

- *特集：薬剤師教育の実践的ヒント
・適応拡大 ラニビズマブ (p.89)
・適応外使用の処方せんの読み方(54) 男性更年期障害 (p.139)

○月刊薬事 56巻 12月号

- *特集：薬物アレルギー
・適応拡大クローズアップ 無水カフェイン (p.100)
・適応外使用の処方せんの読み方(54) 機能的ディスペプシア (p.139)

○産科と婦人科 81巻 11号

- *特集：産婦人科における漢方の理論と実践

○産科と婦人科 81巻 12号

- *特集：よくわかるホルモン補充療法Q&A

○新薬と臨床 63巻11号

- ・一般成人のかぜ診療に対する意識調査2014 (p.89)

○調剤と情報 20巻 10月号

- *特集：ノロウイルス感染症/かぜにまつわるウソ・ホント
・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす(1) まずは検査値のことを知り、使いこなす準備をしよう! (p.75)
・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく(49) 薬の追加がもたらした誤服用 (p.91)
・新薬くろーずあっぷ：テノゼット錠 (p.115)

今月の特集・論文

○調剤と情報 20巻 11号

- ＊特集：調剤手順の変更がもたらしたもの
- ・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす（2）
薬剤適正使用のために定期的な検査が必要な薬剤を把握（p.59）
- ・新薬くろーずあっぷ：タペンタ錠（p.99）

○調剤と情報 20巻 12号

- ＊特集：不整脈を知る
- ・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす（3）
腎性貧血に関連する検査値を薬物適正使用に活用（p.59）
- ・新薬くろーずあっぷ：クレナフィン爪外用液（p.107）

○治療 96巻 10号

- ＊特集：子どもの風邪

○治療 96巻 11号

- ＊特集：ふるえブラッシュアップ

○治療 96巻 12号

- ＊特集：ポリファーマシー

○日経ドラッグインフォメーション 204号

- ＊特集：患者のための「お薬手帳」再考
- ・服薬指導：アスピリンとPPIの合剤の服用方法（p.PE003）
- ・処方箋を読む 不妊治療にパーキンソン病治療薬？（p.PE005）
- ・医師が語る 処方箋の裏側～慢性蕁麻疹を再燃させない抗ヒスタミン薬の使い方（p.PE016）

○日経ドラッグインフォメーション 205号

- ＊特集：後発品をどう選ぶ2014
- ・服薬指導：高リン血症の新薬を処方された透析患者（p.PE003）
- ・医師が語る 処方箋の裏側～尿管結石にα1遮断薬Ca拮抗薬 海外ではともに第1選択（p.PE016）

○日経ドラッグインフォメーション 206号

- ＊特集：癌患者の支持療法
- ・医師が語る 処方箋の裏側～睡眠薬2剤を併用する不眠症にジプレキサを追加する理由（p.PE016）

○日経メディカル 563号

- ＊特集：診療報酬改定で激変する医療現場

○日経メディカル 564号

- ＊特集：アレルギー診療の新常識
- ・私の処方：高リン血症を伴うCKDへの処方（p.99）

○日経メディカル 565号

- ＊特集：今冬のかぜ診療〇と×
- ・私の処方：緊張からくるアスリートの睡眠障害（p.99）

○日本医事新報 4720号

- ・質疑応答～内科：空腹時にαグルコシダーゼ阻害薬を投与した場合（P.60）
- ・質疑応答～薬学・薬品：抗生物質と抗菌薬、抗ウィルス薬、抗真菌薬の相違点（P.63）

○日本医事新報 4722号

- ＊特集：困った患者の生活習慣指導

○日本医事新報 4724号

- ・質疑応答～内科：降圧薬が適応となる血圧範囲（P.53）

○日本医事新報 4725号

- ・質疑応答～内科：経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬投与の必要性の有無（P.55）

○日本医事新報 4728号

- ・質疑応答～精神科：高熱時に向精神薬服用を中止すべき理由（P.70）

○薬局 65巻 10号

- ＊特集：てんかん
- ・徹底理解！添付文書にある情報・ない情報（p.157）
※デノスマブによる低カルシウム血症の副作用
※テルビナフィンによる嗅覚・味覚障害

○薬局 65巻 11号

- ＊特集：肺癌の分子標的治療
- ・徹底理解！添付文書にある情報・ない情報（p.130）
※スタチンによる横紋筋融解症とそのメカニズム
※ピタバスタチンはリファンピシンとの併用で血中濃度が上昇する

○薬局 65巻 12号

- ＊特集：「緩和薬物療法」上級講座
- ・徹底理解！添付文書にある情報・ない情報（p.140）
※レバグリニドとクロピドグレルの相互作用
※ドネペジルの血漿中濃度の個人差

○JIM 24巻 10号

- ＊特集：帰してはいけない疾患を除外した後の外来診療

○JIM 24巻 11号

- ＊特集：“見逃してはならない”疾患の除外ポイントPart III

○JIM 24巻 12号

- ＊特集：総合診療医のための結核診療Update

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

コウノメソッドでみる認知症 Q&A

【著者】河野 和彦 【発行】日本維持新報社 【発行日】2014年12月

【版型/頁】B5判/292頁 【定価】4,752円(税込)

- 認知症の診断や処方の方針加減に関するものを中心に、「よくある質問」を集めた
- コノメソッド実践医(2014年10月現在256名)の先生からの質問をベースにしている
- 年間およそ1,400名以上の新患を診ているDr.河野の経験から得られた「認知症診療のエッセンス」が詰まっている

添付文書がちゃんと読める統計学

【編著】山村 重雄、竹平 理恵子 【発行】じほう 【発行日】2014年12月

【版型/頁】A5判/176頁 【定価】2,592円(税込)

医薬品の有効性、安全性を評価するために情報が欠かせませんが、限られたスペースで記載された添付文書情報には、どうしても「なぜ」が不足しています。しかし、添付文書に書かれた統計のコトバがわかれば、それを補うことができます。難しい理屈や計算式がわからなくても、「なぜ、通常の平均値ではなく幾何平均値を使っているのか」や、「なぜ分散分析という方法を使っているのか」などがわかるだけで、医薬品のプロフィールをより明確にとらえることができる。

同効薬比較ガイド1

【編著】黒山 政一 他 【発行】じほう 【発行日】2014年12月

【版型/頁】B5判/230頁 【定価】2,808円(税込)

全15薬効群における同種同効薬の違いを、効能・効果、用法・用量、禁忌、副作用、さらに薬理作用や薬物動態、臨床成績といったさまざまな角度からすっきりと整理!全薬効群とも必要な情報を一覧できる「比較一覧表」とやさしい解説で構成し、患者ごとの症状や既往歴、服用薬や生活習慣などに合わせて、いちばん適切な薬剤は何か、効能・効果は同じでも選ぶべきではない薬剤は何かを、的確に迅速に判断することができる。

危険ドラッグとの戦い

【著者】藤井 基之 【発行】薬事日報社 【発行日】2014年11月

【版型/頁】四六判/192頁 【定価】1,620円(税込)

現・文部科学副大臣で薬学博士でもある藤井基之氏が危険ドラッグ対策・薬物乱用対策のために書き下ろした1冊!危険ドラッグの特徴や新たな物質(NPS)、国際的な規制・対策、国内での取り組み、関連規制法の変遷などをまとめ、危険ドラッグの“今”がわかる。

精神科外来ハイリスク薬ハンドブック

【編著】三輪 高市 【発行】南山堂 【発行日】2014年12月

【版型/頁】B6判/173頁 【定価】2,160円(税込)

ハイリスク薬の約3割は精神科用薬である。精神科外来で処方される精神科用薬、すなわち、精神神経科用剤、抗てんかん薬におけるハイリスク薬管理のチェック事項を、簡潔かつ経時的に解説したポケットブック。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬幹旋図書】治療薬ハンドブック 2015

【監修】高久 史麿 【発行】じほう 【発行日】2015年1月

【版型/頁】B6判変判/1,500頁 【定価】4,752円(税込) 【会員価格】4,280円(税込)

ポイント1: 検査項目が充実 特に注意すべき副作用回避のために必要な検査項目と検査時期を表組みでわかりやすく記載

ポイント2: 副作用初期症状 重大な副作用の初期症状、発現時期を一覧で確認できる

ポイント3: 適応事例 社会保険診療報酬支払基金による「審査情報提供事例」と「臨床情報に基づく適応外使用例」を記載

ポイント4: マークを新設 ハリシク・TDM・運転注意などひと目でわかるマークを新設

腎機能低下患者における薬剤業務マニュアル -CKD 患者の薬物療法適正化のポイントと実例-

【監修】(一社)日本病院薬剤師会 【発行】じほう 【発行日】2014年12月

【版型/頁】B5判/288頁 【定価】3,456円(税込)

腎機能低下患者の薬物療法では、①過量投与による中毒性副作用防止のための腎機能に応じた用法用量設定、②薬剤性腎障害による腎機能悪化防止のための適正使用が大きな柱となります。腎機能低下患者は、高齢者を含めすべての診療科に存在し、多くの薬剤師が病棟薬剤業務や薬剤管理指導業務の中で遭遇しているものの、薬学的管理に関する適切な業務内容については、各施設で模索しながら対応しているのが現状です。腎機能低下患者に対する薬物療法の適正化に向けて、薬剤師がどのような業務を展開していくべきかについて、日本病院薬剤師会学術小委員会において平成19～25年度までの調査研究結果を基に作成した業務マニュアル。

薬理学

疾患と薬の作用がひと目でわかる

【著者】黒山 政一、香取 祐介 【発行】じほう 【発行日】2014年11月

【版型/頁】A5判/196頁 【定価】1,944円(税込)

冒頭の序章で薬とはどんなものなのか、どういう動きをするのかという概要を学び、各論でからだの部位ごとに、代表的な疾患とその治療に使われる薬剤のメカニズムを具体的に解説。解説文とそれに対応したわかりやすいマンガ・イラストで、難しい薬理でもイメージしながら飽きずに学ぶことができる。処方されている薬が疾患に対しどういう働きをしているのかを知りたい方、薬理の基礎から学び直したい医療従事者にぴったりの内容。

総合診療医が教える 薬局で出会う 症候の診かた

【著者】岸田 直樹 【発行】じほう 【発行日】2015年1月

【版型/頁】A5判/220頁 【定価】2,808円(税込)

風邪、痛み、めまい、胃のむかつき、倦怠感・・・薬局に来る患者さんの多彩な症状、「軽症に見えたのに、実は重症だった」ということは意外に多いもの。臨床を知り尽くした総合診療医だからこそ書ける、OTCで対処できる場合と受診勧奨が必要な場合の見極めのポイントを分かりやすく解説。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1) 医薬品情報の提供 (2) 「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3) 医薬品に関するお問い合わせ (4) 県薬ホームページの制作・管理 (5) 消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6) 医薬品 PL センター窓口業務 (7) ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。

お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●抗コリン剤が 10 年間の転倒、骨折リスクおよび骨密度に及ぼす影響:コホート研究のデータに基づく解析 (Ann. Pharmacother. 48(8)954- (2014.8))

カナダの地域住民における集団ベースのコホート研究(CaMos)の対象者のうち、50 歳を超える対象者について、強力な抗コリン剤使用と転倒、非外傷性骨折、BMD 変化との関連を解析した。そのうち強力な抗コリン剤を使用していたのは、ベースライン、5 年目、10 年目でそれぞれ 7753 例中 618 例(8.0%)、592 例(9.5%)、334 例(7.7%)であった。転倒と抗コリン剤使用との間には、いずれにおいても共変量補正前には関連が認められたが、補正後では有意な関連はなかった。同様に、ベースライン時および 5 年目の抗コリン剤使用者における 10 年間の大腿骨頸部 BMD(T スコア)変化の平均値も、補正前には非使用者との間に有意差が認められたが、補正後には有意でなくなった。抗コリン剤使用と転倒、骨折、BMD 低下との間には独立した関連は認められず、むしろ抗コリン剤使用の要因がみかけの関連をもたらしていると考えられる。

●臨床的薬物治療における酸化マグネシウムと胃酸分泌抑制剤との相互作用:電子カルテを用いたレトロスペクティブ解析 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 70(8)921- (2014.8))

浸透性緩下剤である酸化マグネシウム(MgO)は胃内で酸性状態下に $MgCl_2$ に、次いで腸内で $Mg(HCO_3)_2$ に転換し、 $Mg(HCO_3)_2$ が腸管内への水分滲出を誘導する。このことは、胃酸分泌抑制剤で MgO の緩下作用が減弱することを示す。そこで、MgO と胃酸分泌抑制剤の相互作用の可能性について、電子カルテを用いたレトロスペクティブ解析を行った。2011 年 4 月-2013 年 3 月に、大腸手術または胃全摘出術後の排便をコントロールするために重質酸化マグネシウムを処方された患者 112 例を対象とした。大腸手術例では MgO 単独投与群 67 例、MgO+ H_2 受容体拮抗薬(H_2 RA:famotidine, ranitidine, lantidine)併用群 14 例、MgO+プロトンポンプ阻害薬(PPI:omeprazole, lansoprazole, rabeprazole, esomeprazole)併用群 27 例であり、胃全摘出例 4 例には MgO が単独投与された。大腸手術後の MgO の用量および排便コントロール良好率は、MgO 単独投与群(対照群:67 例)ではそれぞれ 1019 ± 219 mg/日および 72.2%、 H_2 RA 併用群(14 例)では 1286 ± 257 mg/日および 36.4%($P < 0.05$)、PPI 併用群(27 例)では 1271 ± 421 mg/日および 36.4%($P < 0.01$)、胃摘出後 MgO 投与群(4 例)では 1313 ± 375 mg/日および 0%($P < 0.05$)であった。すなわち、 H_2 RA または PPI を服用中の患者で、MgO(1000mg)の投与量レベルで排便が良好であった便秘コントロール良好率は、MgO 単独投与群よりも有意に低かった。 H_2 RA または PPI 服用中の患者、ならびに胃全摘出患者では、より高用量レベルの MgO または他の緩下剤が使用されるべきである。

●心血管疾患の一次予防に対する Aspirin と Statins の比較 (Ann. Pharmacother. 48(9)1238- (2014.9))

2013 年の AHA/ACC ガイドラインにおける心血管疾患一次予防に対する statin の推奨を受けて、これまで一般的だった aspirin による予防との比較を行った。aspirin による主要血管イベントリスクの低下は 15-20%、絶対リスクの低下は約 0.1%、大出血(胃腸出血または頭蓋内出血)の過剰症例数は 1000 患者・年あたり約 2 例であった。statin による心血管イベントリスク低下は 30-40%、絶対リスクの低下は 1-2%、横紋筋融解症は 100000 患者・年あたり 3.4 症例と稀なことから、statins の方が一次予防のリスク/ベネフィットの面で優れていること、statin の他の有害事象(出血性脳卒中、ミオパチー、肝機能障害、認知機能への影響、糖尿病)についても稀あるいはベネフィットが上回ること、statins のベネフィットの方が様々なサブグループで一貫して認められることなどについて述べている。

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電 話 098-963-8930

おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電 話 098-963-8935

試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承ください。

電 話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>＞

寄稿

危険ドラッグについて

沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 松田 聖子

今年6月、池袋で危険ドラッグを使用した者による交通死亡事故が起きて以降、危険ドラッグを取り巻く環境が大きくクローズアップされています。

危険ドラッグとは「合法ハーブ」「脱法ドラッグ」と称して、ハーブやお香などを装って販売されている薬物です。これらは麻薬や覚醒剤などに指定されている薬物の化学構造の一部分を変えることで、麻薬及び向精神薬取締法などの薬物関係法令の規制から逃れた上で販売されており、人体へ摂取することにより重大な健康被害を及ぼすおそれのある大変危険な薬物です。事実、沖縄県内においても救急搬送事例が多数報告されています(表1)。

危険ドラッグは大きく分けてカンナビノイド系と呼ばれる大麻に似た成分と、カチノン系と呼ばれる覚醒剤に似た成分があり、色も形も様々で粉末・液体・乾燥植物など、見た目ではわからないように販売されています。これらの薬物は使用することでどのような作用が現れるか、作った本人ですら不明です。つまりこれらを体内に入れることは自分から進んで人体実験しているようなものです。

どのような成分が含まれているのか分からないため、重篤な状態に陥って病院へ救急搬送されても医師は適切な治療を行うのが難しい現状です。実際に危険ドラッグ

によるものと疑われる急性症状で命を失った人々も多数います。

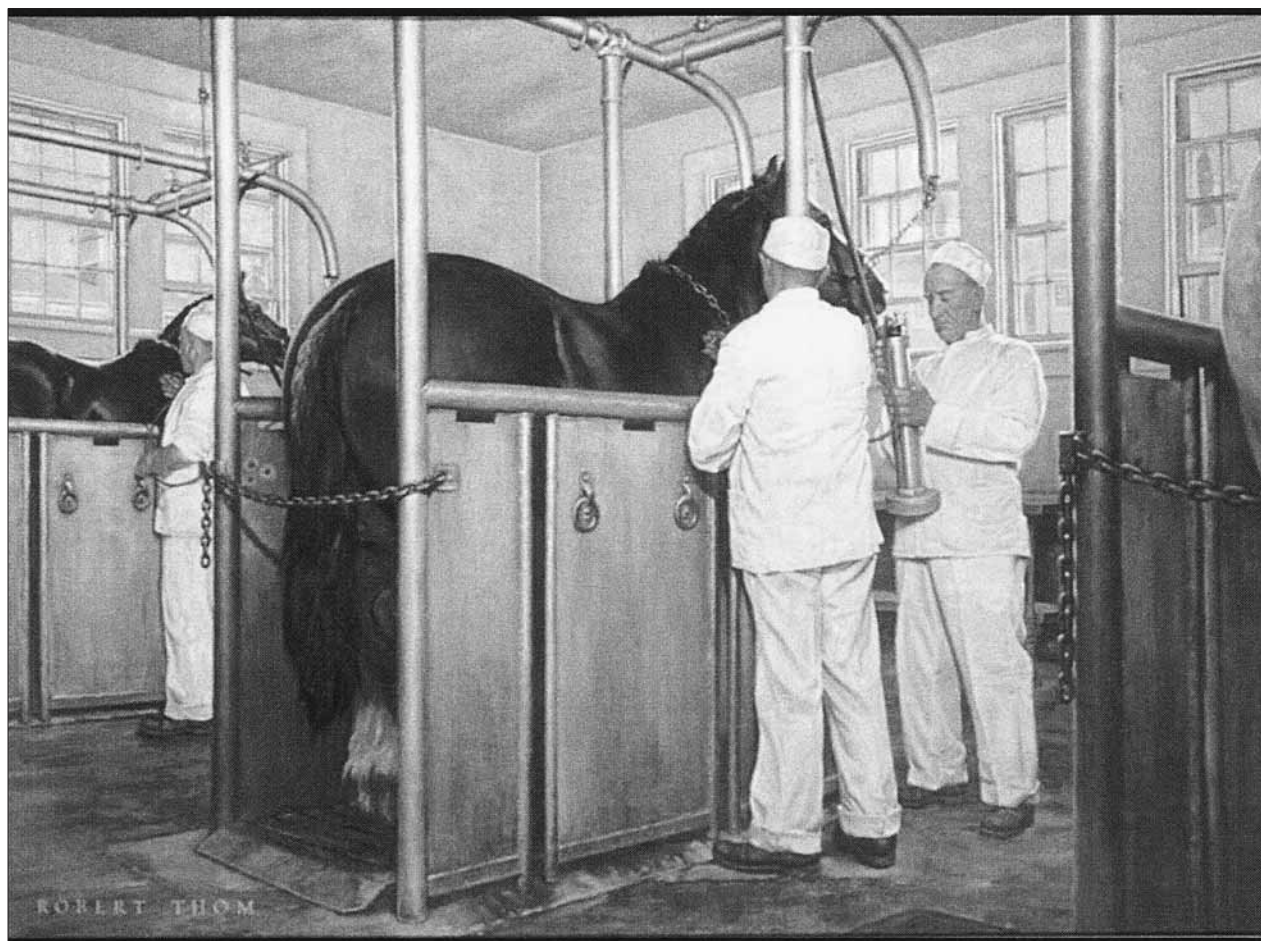
この状況をなんとか打開するため、厚生労働省は平成19年に薬事法を改正し、中枢神経系の興奮もしくは幻覚の作用を有する蓋然性が高く、かつ人体に使用された場合に保健衛生上の危害が発生する恐れがある薬物や植物を「指定薬物」として指定し、規制・取締の強化を図りました。平成26年10月現在では製造や販売、授与等の禁止といった販売業者等に対する規制のみならず、所持、使用の禁止といった購入者に対しても懲役や罰金などの重い処罰が科せられることとなっています。

沖縄県内における危険ドラッグの販売店舗数は平成24年1月の24店舗から平成26年10月現在1店舗と大きく減少しています。これは県警、沖縄麻薬取締支所等関係機関と連携して店舗に立入検査を行ったり、様々な普及啓発活動を実施した結果であり、県としては、今後も引き続き薬物乱用防止対策の強化を図っていきます。



	平成24年			平成25年			平成26年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10代	4	1	5	1	0	1	3	0	3
20代	22	3	25	5	0	5	11	2	13
30代	4	3	7	5	2	7	5	2	7
40代	3	0	3	4	0	4	4	0	4
50代	0	0	0	2	0	2	2	0	2
合計	33	7	40	17	2	19	25	4	29

表1. 沖縄県における危険ドラッグ摂取の疑いがある救急搬送事例(平成26年は1～9月の件数)



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

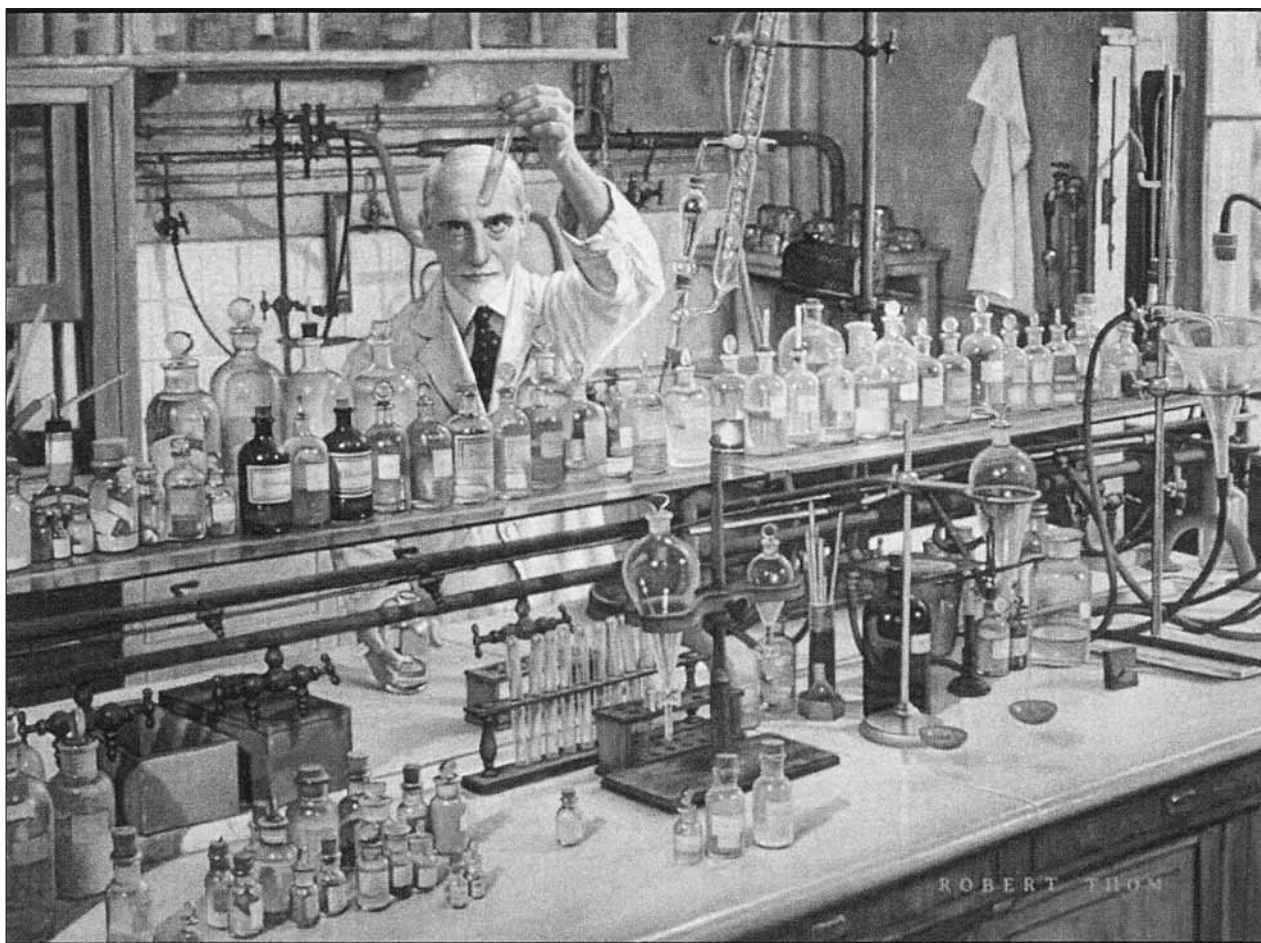
薬学の歴史

35. 生物学的製剤の時代

ジフテリア毒素の馬への接種が、抗毒素の生産への大きな第一歩となりました。そして1894年にベーリングとルーがジフテリア抗毒素の有効性を発表した際、欧米の製薬科学者たちはその新しい発見を早急に生産に移しました。パーク・デイビス社もその先駆けでした。1895年に血清が入手可能になり、何千人もの子供の命が救われました。パーク・デイビス社は1903年に米国生物学的製剤ライセンス第一号を取得しました。その後、新しい改善された生物学的製品が継続的に利用できるようになり、1955年のポリオワクチンで全盛期に達しました。

35. THE ERA OF BIOLOGICALS

When, in 1894, Behring and Roux announced the effectiveness of diphtheria antitoxin, pharmaceutical scientists both in Europe and in the United States rushed to put the new discovery into production. Parke, Davis & Company was among the pioneers. The serum became available in 1895, and lives of thousands of children were saved. Inoculation of horses with diphtheria toxin was the first step of many in producing antitoxin. In 1903, Parke-Davis received U.S. Biological License No.1. New, improved biological products have continued to become available, climaxed in 1955 by poliomyelitis vaccine.



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

薬学の歴史

36. 化学療法の開発

病原菌に対する新規化合物の開発で成功した研究者の一人に、フランス人薬剤師のエルネ・フランセ・オーギュスト・フルノー (1872年～1949年) がいます。フルノーは、30年間、世界的に有名なパスツール研究所の化学研究室の代表を務めました。彼が行ったビスマスとヒ素化合物に関する初期の研究は、梅毒の治療を進歩させました。また、ドイツの睡眠病の謎を解き明かし、命を救うサルファ剤への道を開き、そして彼の研究室からは抗ヒスタミン薬として知られる化学物質群が誕生しました。フルノーの研究は、他の研究者の化学療法の研究領域を広げました。

36. THE DEVELOPMENT OF CHEMOTHERAPY

One of the successful researchers in the development of new chemical compounds specifically created to fight disease-causing organisms in the body was the French pharmacist, Ernest Francois Auguste Fournieu (1872-1949), who for 30 years headed chemical laboratories in the world-renowned Institut Pasteur, in Paris. His early work with bismuth and arsenic compounds advanced the treatment of syphilis. He broke the German secret of a specific for sleeping sickness; paved the way for the life-saving sulfonamide compounds; and from his laboratories came the first group of chemicals having recognized antihistaminic properties. His work led other investigators to broad fields of chemotherapeutic research.

第17回 暮らしの中の薬草学

身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

ほそばわだん（ンジャナ）

学 名 *Crepidiastrum lanceolatum*
(Houttuyn) Nakai
科 名 キク科
属 名 アゼトウナ属
使用部位 葉、茎、根
有効成分 ビタミンCやカロテン
カルシウム、カリウム



ほそばわだん（ンジャナ）の特徴

ほそばわだん（細葉海菜、*Crepidiastrum lanceolatum*）は、キク科の多年草で、島根県・山口県の日本海側から沖縄、朝鮮半島南部・中国の海岸の岩場から山裾にかけて生育する。近縁種のワダン *C. platyphyllum* より葉が細いことから命名された。近縁種のアゼトウナ *C. keiskeanum* に酷似しているが、ホソバワダンは葉が茎の基部を抱くことから区別できる。

高さ約20～30cmで、地表面にロゼット状の葉を広げ、長さは20～30cmに達する。長楕円形のものと羽状に深裂した葉の2形があり、茎や枝の先に放射状に集まって付く。基部から多くの茎を出し、太く木化する。花は10～11月に、黄色の舌状花を約12個もつ頭花を散状に開く。2～3.5cmほどの瘦果になる（冠毛は3～5mm）。発芽から枯死するまでが、多年にわたる植物で、栽培されているものは、葉の長さが30cm位にもなってよく繁る。

強い苦味を持ち、沖縄県では、葉をニガナ（ンジャナ）の名で食用としている（日本に自生するニガナ *Ixeris dentata* は別種）。

ほそばわだん（ンジャナ）の歴史・利用

ほそばわだんは琉球王朝の時代から滋養食とされた薬草の一種。渡嘉敷通寛（琉球王府の侍医頭）が1832年に著した琉球食療法の重要な指導書である『御膳本草』の中に、ンジャナについて「五臓の邪気を除く、気を益して聡明ならしむ、身を軽し老て不衰、飢寒を耐び、脛すじを調へ、力を強くす。胃の気煩逆するを治す、性冷感なれど常に食て甚だ人に益がある。」と記されている。

葉、茎、根に苦みがあり、栽培ものより自生しているもの、とくに海辺に近いところに自生しているものは苦みが強いという。この独特の苦味で昔から健胃剤の薬草として重宝されてきた。油分を加えると苦味が和らぐ。ビタミンCやカロテン、カルシウム、カリウムが豊富。

沖縄本島北部の山原（ヤンバル）地方では、道を歩けば容易に自生のニガナを見つけることができ、採取して料理に使っている。最近はかなり利用する人が広がったこともあり、栽培も見られる。根ごと採ってきて植え、草取りさえしておけば、通年栽培が可能である。

細かく刻んで豆腐と混ぜた白和えが代表的で、昔から、青汁にしたり、根を煎じてお茶がわりにされた。最近、島野菜など沖縄の食材を意識的に使って客にふるまうレストランやホテルがふえ、観光客などから喜ばれている。苦味をおいしい味わいの一つとして楽しめる野菜である。

参考 Wikipedia、沖縄島野菜図鑑、みんなの花図鑑

栄養成分（100g当たり） 2005年（財）日本食品分析センター 分析試験結果

エネルギー	蛋白質	炭水化物	脂質	食物繊維	マグネシウム	カルシウム	カリウム
33 kcal	1.4 g	5.2 g	0.7 g	3.2 g	19.9 mg	199 mg	376 mg
ナトリウム	リン	ビタミンC	ビタミンE	β-カロテン	ビタミンK ₁	ナイアシン	パントテン酸
22.0 mg	20.7 mg	24 mg	1.7 mg	3010 μg	347 μg	0.46 mg	0.20 mg

ほそばわだん（ンジャナ）の効用

ほそばわだんは、カフェ酸やチコリ酸、クロロゲン酸、イソクロロゲン酸など水溶性のポリフェノール類や、ルテオリン、ルテオリングルコシドのようなフラボノイド類の生理活性成分を含む。血圧降下作用、美白作用、抗酸化作用、免疫賦活作用、抗菌作用が認められる。

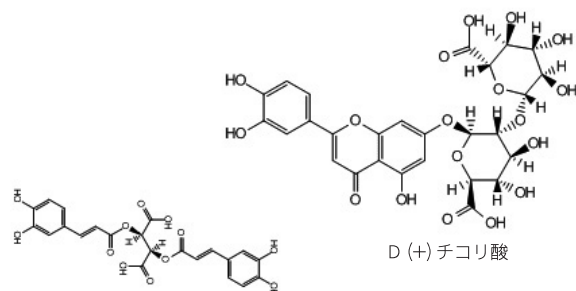
ほそばわだんの抗酸化作用

ラットの脳のホモジネートを用い、ALP法（脂肪酸化で生成するチオバルビツル酸反応物の産生抑制濃度によって判定する）によってチコリ酸の抗酸化作用を確認した。

DPPH消去率（DPPHラジカルに対する消去能を分光光度計で測定し抗酸化力を評価する）89.4%と強い抗酸化力を示した。

LDL抗酸化成分とラットにおける血中動態

ほそばわだんにはLDL抗酸化能が認められ活性の強さは用量に依存した。抗酸化成分としてD(+)-チコリ酸とルテオリン-7-O-β-D-グルクロニドをLDL分離・同定した。



ルテオリン-7-O-β-D-グルクロニド

ほそばわだんに含まれているチコリ酸は、代謝を受けずに血中へ移行していることを明らかにした。ルテオリングルクロニドについては、ルテオリンやルテオリングルコシドと同様に、血中ではルテオリン抱合体となっているものと推察される。体内に吸収されて血中へ移行した成分あるいは代謝物は生体内酸化を予防しているものと考えられる。

ほそばわだんのチロシナーゼ阻害作用

皮膚の着色の原因となるメラニン色素は、表皮と真皮との間にあるメラノサイト内のメラノソームにおいて生産され、生成したメラニン色素（必須アミノ酸であるチロシンがチロシナーゼの作用によりドーパキノンとなり、

これが酵素的または非酵素的酸化作用により黒色のメラニンに変化する）は、隣接細胞へ拡散する。反応の第1段階におけるチロシナーゼの作用を抑制することがメラニン色素の生成の抑制に重要である。種々の植物に由来する物質について、調査検討を行うとともに、実験を行い、自生するほそばわだんおよびその抽出物にチロシナーゼ阻害活性があることを見いだした。そして、さらに実験、検討を重ねチロシナーゼ阻害剤および美白剤、美白用化粧品や美白用飲食品を完成した。

ほそばわだんのウレアーゼ阻害剤組成物

ウレアーゼは、尿素の加水分解を触媒し、アンモニアを発生させる酵素である。胃の中では、ヘリコバクター・ピロリ菌により生産されるウレアーゼの作用によりアンモニアが発生し、胃潰瘍が誘発されることが知られている。また、糞便中に含まれるウレアーゼ（微生物により生産）は、生体外に排出された尿中に含まれる尿素と反応し、アンモニアを発生させる。おむつの中で糞便と尿が混合すると、ウレアーゼの作用によりアンモニアが発生し、pHが上昇することにより糞便中のプロテアーゼやリパーゼが活性化され、おむつかぶれが誘発されることが知られている。

種々の植物に由来する物質について、調査検討・実験を行い、ほそばわだんの抽出物にウレアーゼ阻害活性があることを確認した。これにより安全性が高く十分なウレアーゼ阻害効果を備えた、天然材料由来の胃炎発生抑制作用を有する飲食品、また、かぶれ防止作用を有する化粧品を提供することができる。

ほそばわだんの抗菌作用

ほそばわだんの葉部、茎部、根部、および抽出物は、抗菌力が強いことが明らかになった。化学合成品に代わる抗菌剤としての活用が可能で、細菌類、および真菌類に対して幅広い抗菌スペクトルを有している。

参考 桐蔭横浜大学工学部機能化学工学科 木村拓子 他 研究
沖縄県農業研究センター研究報告
琉球大学遺伝子実験センター前田剛希 他 研究
琉球大学農学部生物資源科学科研究報告
琉球大学教育学部 上江洲榮子 他 研究報告
(一財)日本食品分析センター、バイオ21株式会社
独立行政法人産業技術総合研究所報告



平成26年度 全日本卓球選手権大会マスターズの部に参加して

「ピーン」「ポーン」に魅せられて高校時代から45年余が経ちました。私たちの時代は宮古地区で優勝しても沖縄本島で行われるインターハイ予選には派遣費の関係でマイナーなスポーツの卓球は行けませんでした。行けるのはメジャーなスポーツの野球、バレーボール、バスケットボールに限られていて、悔しい思いをしました。いつかきっと沖縄代表になって全国大会に出てやろうと決心して、大学、社会人と卓球を続けました。

平成元年に沖縄県立宮古病院に単身赴任、卓球三昧の毎日でした。宮古代表、3年後の全九州卓球選手権大会（年齢別）沖縄代表となったのは40歳の時でした。平成15年に八重山病院に単身赴任し、ここでも卓球三昧の日々を送り、50歳の時、全九州卓球大会沖縄予選で優勝し、2回目の沖縄代表となりました。しかし、全日本卓球選手権大会マスターズの部の代表枠は沖縄県は2人枠で、決勝戦までいかないと出場資格はありません。しかし、今年、62歳でやっと全日本卓球選手権大会マスターズ予選で準優勝し、参加が決定した時のうれしさを忘れることができません。

大会は平成26年10月24日に岩手県花巻市で開催され、私には忘れられない日となりました。試合結果は2敗。予選敗退でした

専務理事
田場 英治



が、思いっきりプレーを楽しみました。私の攻めだけの卓球ではやはり本土の選手には勝てませんでした。本土の選手はミスが少なく、無理な攻めはしません。本当に勉強になりました。30代から80代の卓球選手が一同に会して年代ごとに和気藹々とプレーを楽しむ。生涯スポーツといわれる卓球だから、できるのです。びっくりしたのが会場までは杖をついて歩いていた80代の選手はユニフォームに着替えて卓球台の前に立つとシャキッとして試合をしているのにはびっくりさせられました。みなさんに共通して言えるのは卓球を楽しんでいるという感じでした。

私は「楽しむこと」「継続は力なり」「今が一番強い」を三本柱に上げ、やってきました。また、今回の試合に参加して新たに卓球を通じた仲間が増えてきました。

卓球仲間は私の大事な財産です。これから卓球の輪を拡げていきたいと思います。

薬剤師の皆様、一緒に「ピーン」「ポーン」からスタートしてみませんか。卓球は楽しいですよ。最後にご声援ありがとうございました。皆様に感謝します。



北部地区特集

<特集ページ>

○Spot Light

仲村 英和 先生 ～名護ウォーカー薬剤師は語る～

○三郎&いさ吉の弥次喜多道中！ 沖縄県立北部病院

○はいさい！はいた～い！！ 名護薬局

○寄稿 「薬物乱用防止教室報告」

名護市立稲田小学校・本部町立本部小学校

○リレー随筆 お薬手帳と悪戦苦闘



本号273号（平成26年11・12月号）は、北部地区特集を組みました。

平成26年度第8回定例理事会（11月理事会）が北部地区で開催したことをきっかけに、神山えり子北部地区会長をはじめ、同地区会員の皆様ならびに北部地区薬剤師会事務局のご協力を得て特集することができました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

次ページからの北部地区特集をお楽しみください。

※「表紙」「巻頭言」「誌上ギャラリー」においても北部地区会員の作品・執筆を掲載しておりますので、あわせてお楽しみください。

広報委員会



平成26年度第8回定例理事会（北部地区で開催）



オブザーバーで参加した神山えり子
北部地区会長から挨拶をいただいた



理事会終了後、北部地区の会員と親交を深めた

Spot Light

仲村 英和 先生

名護ウォーカー薬剤師は語る
「地域密着の薬局づくりは、地域を愛することから」



なかむら ひでかず
昭和17年生まれ 名護市出身 昭和薬科大卒
薬事功労者厚生労働大臣表彰（平成13年）

「名護」というところに特別な思いを持っていた。小学生の頃、友人が毎年夏になると「名護のおばあちゃんの家に行くんだ」「海で泳いだり、セミをとったり、とっても楽しいところ」と自慢していたからだ。当時の私にとって、未知の世界が広がる憧れの場所だった。実に小学校高学年になるまで私は「名護」を知らずにいた。今では「ちょっと名護まで、」と気軽に行けるようになったが、私にはいまだにリゾートテイストを醸し出す遠い場所である。

（聞き手：広報委員会 宮城敦子）

かねてから噂に聞いていたユニークな人に出逢った。名護市大東にある「なかむら薬局」のオーナー、仲村英和氏だ。「うちの水道の蛇口をひねるとビールが出るんだぞ」。知る人ぞ知る仲村氏の常套句である。それにつられて仲村家に誘い込まれる輩が多いと聞くが、それは驚くべきか笑うべきか。訪れた自宅にはビールケースが積まれていた。さすが、オリオンビールのお膝元、と感心するも「ビールのテイスティングも仕事のひとつ」と言っ

てのける。そりゃ、いい仕事だ。医師である父親の姿を見て医師を目指していたのだが、いろいろ考えた末に薬学の道に進むことにした。昭和薬科大学を卒業し、その後東京大学医学部附属病院で研鑽を積んだ。

昭和43年に「なかむら薬局」を開設して40数年。今でも自ら店頭に立ち薬局を切り盛りしている。「薬」が好きで「人」が好き。薬剤師が天職なのだろう。人々の健康を願い、人々の健康に携わることに喜びを感じるという。「薬を売ることから健康を売るという意識の変化もあった。情報社会である現在、正しい情報を提供するという責任もある」。天性のコミュニケーション力をいかんなく発揮

して地域の人々から信頼されている。

仲村氏は昭和53年から20年ほど北部地区の副会長を務めていた。当時、薬局経営の傍ら北部地区の医薬分業の啓発や普及に尽力した。間もなく沖縄県立北部病院の院外処方箋発行が開始され、面分業における応需体制の整備にも貢献した。この県立広域病院の院外処方箋発行は沖縄県初の導入であり、分業を大きく進展させたのが北部地区だったのだ。

仲村氏の緻密な努力があつての医薬分業は、今ではすっかり安定し日常の風景となっている。時を同じくして沖縄県薬剤師会の理事も務めた。多忙な仲村氏を支えたのは妻の千佳子氏。薬剤師でありながら著名な写真家でもある（今号の会報誌の表紙は千佳子氏の作品）。「今の自分があるのは妻のおかげ」と感謝を口にする。北部地区薬剤師会と「なかむら薬局」の歴史はそのまま夫婦の歴史と重なっているようだ。



奥様の千佳子氏
多忙な仲村氏を支えてきた



北部地区医薬分業推進協議会のメンバーで
福島県の医薬分業を視察。左端が仲村氏

現在の仲村氏は。。。

院外処方箋を応需し調剤にあけくれる毎日に、ふと思った。薬局は治療するところではない。病気を予防し、ケアをするところなのだ。ならば病気にならない方法を人々に伝えなくては、と考えた。呼吸法、ヨガ、食事、、、いろいろある。そのなかで一番のおすすめは、ウォーキングである。なんと20年以上も続けているらしい。朝夕40分ずつ歩いている。健康にいいのはもちろんだが、歩くことで地域のことが詳しくわかるようになった。地域に熟知しているため、警察から捜査協力を求められるのだとか。

さて、ウォーキングを始めるにあたってのアドバイスがあった。初回は15分、次の日は30分歩く。それができたら次は40分、、と無理をせずに少しずつチャレンジするのだ。そういえば、15分歩くとβ-エンドルフィンが、30分経つとドーパミンが、40分経つたらセロトニンが分泌されると聞いたことがある。15、30、40の数字に意味を発見したような気がした。(テニスのスコアカウントも同じだけど、、、いや、無関係だ) 自然治癒力があがって病気の予防ができるし健康づくりに寄与できる。

仲村氏は歩いている間、何を考えているのだろうか。「基本的には無の状態。考え事はせず自然を感じる。風を感じ、花や木を見る。小鳥のさえずりや子供の笑い声などが聞こえる。ご飯の匂いもするしね。すると五感が磨かれる→感性が磨かれる→発見がある」。小さな発見だけど、喜びを感じられるというのは幸せなことだ。



1989年「薬と健康の週間」“くすりは正しく使いましょう！”とPR
名護商店街にて 後列右端が仲村氏

仲村氏は言う。「朝に祈り、日中に励み、夕に感謝。仕事をとおしてこの気持ちを大切にしている」。長年のウォーキングで磨かれた感性がそう言わせているのかもしれない。

仲村氏のフィールドは薬局だけにとどまらない。人と繋がるのが楽しいので異業種との交流を大切にしている。名護市の名士との付き合いも多くその人脈は計り知れない。そのせいか、地元愛が半端ではないのだ。仲村氏曰く、名護市には3つの誇りがあるのだという。「心を癒すネオパーク」、「心を潤す、友達を増やす、オリオンビール」、「琉球セメントから沖縄の開発が始まった」。なるほど、言い得て妙だ。観光大使さながらの発言に感心した。

「地域密着の薬局づくりは地域を愛することから」「出逢いが人生を豊かにする」

仲村氏は幾度となくその言葉を放った。我々へのメッセージだ。

仲村氏の過去にスポットライトを当てるつもりで接したが、毎日放たれるゴールドライト(太陽光)によって今を輝いていた。「過去ではなく、今でしょ」そんな言葉が聞こえたのは気のせいだろうか。ふと見上げると投薬カウンターに掲げられた「最大よりも最良の薬局たらん」と書かれた文字が、より一層の存在感を醸し出していた。

私の中の名護市に対するリゾート色とパライダイス感は払拭された。どっしりとその土地に根付いた大木と土の匂いのする場所だった。

三郎🐶 & いさ吉🐱 の弥次喜多道中！(医療機関・施設訪問)

沖縄県立北部病院 (名護市)



<プロフィール>

北部病院に行くのは久しぶりだな～（＾＾）♪ 沖縄自動車道を走りながら、右手に見える色鮮やかな海、そして左手には生い茂る木々。ん～最高！ 自動車道をおりて、さらに広がる海！海！UMI！ 毎日こんな素晴らしい景色を眺めながらの出勤は最高だろうな～♪ そんな気分での取材の始まりでした。

(文：広報委員会 砂川 智子)

沖縄県立北部病院の歴史は古く、終戦直後の1946年、米軍により一般住民疾病者医療施設として142名収容のコンセット作りの「名護中央病院」として名護町大東に建設されたことから始まります。その後、米軍統治下での琉球政府立から、日本復帰に伴って沖縄県立北部病院となり、幾多の試練を乗り越えながら現在に至っています。

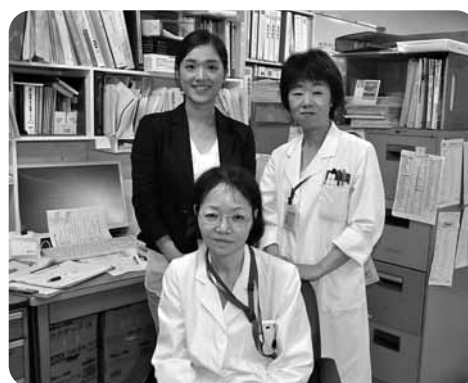
北部病院は「みなさまに信頼され、心ある病院」を病院理念とし、北部地区12市町村、12万人余りの住民の健康、医療、福祉を担い24時間、365日、地域の基幹病院としての役割を果たしています。

北部病院の薬局は、大城寿子薬局長以下10名の薬剤師（うち1人育休）、助手3名で様々な業務をこなしています。調剤業務では、外来処方箋平均46枚／日（院外処方箋発行率は83.2%）、入院処方箋約100枚／日、注射処方箋約230枚／日を応需しています。抗悪性腫瘍薬の調製業務は、入院外来を合わせて7～9件／日行っています。現在は、午後10時以降については当番制で夜間緊急時用携帯電話を持ち帰り、夜間救急の対応をしています。薬剤管理指導業務は、平成26年7月が264件／月であり、薬局の目標としては300件／月を目指しているとのことでした。すべての患者さんに対して入院時に指導を行えていないこともあり、初回面談（指導）が退院指導になることもしばしばあるそうです。



沖縄県立北部病院ホームページより

薬局では、徳嶺恵子副薬局長以下全員が、調剤業務のみならず抗悪性腫瘍薬の調製業務から全病棟への服薬指導に対応しています。その訳は、薬剤師の人数が限られているために、全員が臨機応変な対応を行うことで業務を効率よく回す必然性があったからです。その他にも、院内の各種委員会（なんと！20もの委員会があります）にも参加しています。その他にも定期症例報告会（5時の会と呼ばれ、主に新人薬剤師が症例解析などを行う）の開催、院内研修会及び公開講座の講師担当などを行い、若手薬剤師のモチベーション維持を図っています。



大城寿子薬局長を囲んで 右が副薬局長の徳嶺恵子氏



& へ行くと!

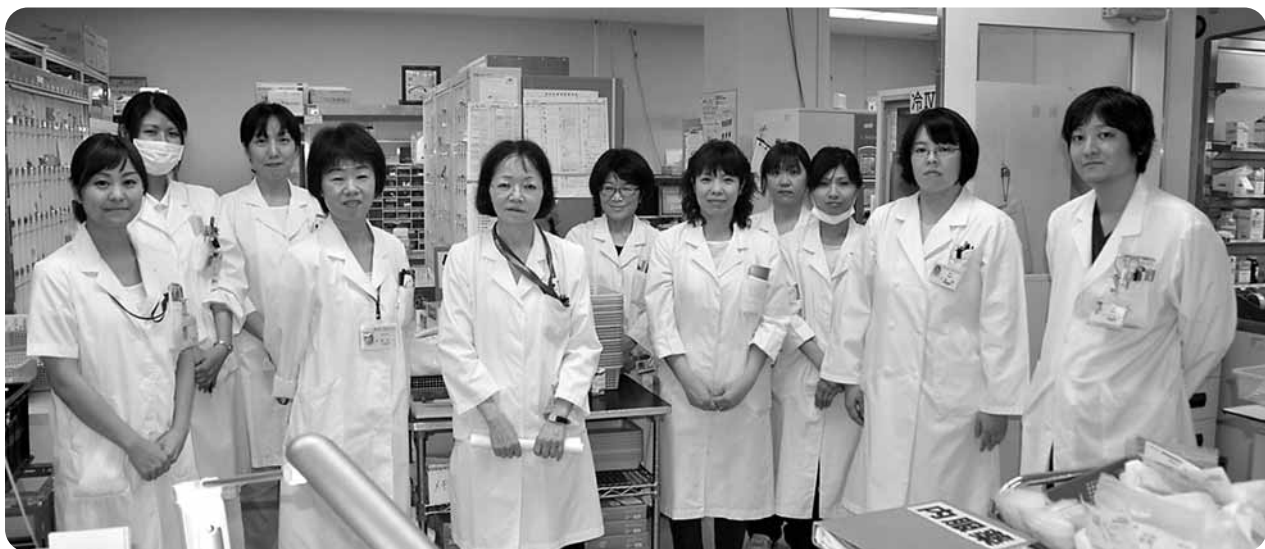


今回特に印象的だったのは、北部病院では救急受診する患者さんが一般的な病院と異なることや、病院設備の利用を含めた地域に対して病院が果たす役割の大きさでした。

救急受診する患者さんには観光客、沖縄科学技術大学院大学の職員（主に外国人）、海洋生物に刺された患者さん、ハブにかまれた患者さんなども含まれます。特に、ハブにかまれた患者さんではその状況も合わせて報告（ハブ咬症患者調査票の記入）するなどし、研究調査の協力も行っています（「沖縄県における平成25年度の毒蛇咬症」として沖縄県衛生環境研究所がまとめて発表している）。また、厚生労働省と連携した北部医療圏に住む重度心身障害児者に対する全身麻酔下で行う歯科治療のための病院設備の施設提供も行っています。

大城薬局長の凄いところを徳嶺副薬局長が教えてくれました。それは、製薬企業からの情報提供に頼らない医薬品の情報収集力と分析力に長けていることです。自身で国内論文のみならず英語論文まで読み込み、医薬品を適正にまた安全に使用するための情報を統合し、医師などに提供しているとのことでした。また、大城薬局長は病院薬剤師としての経験が豊富で、一緒に働く部下としては色々な面でとても信頼でき安心して働いていますとも話してくれました。今回の取材中も、会議が始まるぎりぎりまで、ひとつひとつ資料を出して丁寧に説明してくださいました。私も大城薬局長が大好きになりました♪

大城薬局長をはじめ、北部病院薬局スタッフの皆様、お忙しい中取材を引き受けてくださいましてありがとうございました。





はいさい! はい

薬局訪問

VOL. 44



北部地区特集

(プロローグ)

「薬局って県内にどれくらいあるのかしら？」

「そうですねえ・・・500軒くらいあると思いますよ。」

「へえ～、結構あるのね。機会があれば、全部行ってみたいものだわ。」

「そりゃ大変ですよー。しかし、おもしろそうですね・・・」

と、好奇心旺盛なクララ（宮城敦子広報委員長）とペーター（事務局大城）が取材班を結成して10年！二人での久しぶりの取材に心が弾む。取材先の薬局を目指し、沖縄自動車道を北向けに車を走らせた。

(文・写真 事務局 大城喜仁)

名護薬局 (名護市城)

許田インターから出て国道58号線を更に北に進むと『←名護市街』の表示に従い道が分かれる。58号線は大型店が並び車も多いが、ここは市街に向かう道なのに人も車も少ない。名護博物館の手前で左折すると突き当たりに巨木“ひんぷんガジュマル”がそびえ立つ。ここから先が名護商店街と呼ばれ、名護十字路を中心にかつては真っ白いアーケードとそれを彩るブーゲンビレアの花が目につき、“サングリーン”と名付けられる程に活気溢れる賑やかな繁華街であったそう。今では、歩道を覆っていたアーケードは撤去され空が広がり、撤去されるまで気づかなかったセメント瓦の店が多いことに気づく。そんな名護商店街の中央通りに今回の取材先、名護薬局は佇んでいた。

名護薬局もセメント瓦屋根の古い建物で、開局は昭和37年と沖縄では老舗のほうだ。中に入ると、直ぐに温もりを感じる。それは、管理薬剤師の浦崎清子氏が醸し出す誰が見ても温厚で優しい容姿からなのかもしれない。清子氏は地元名護市出身。第一薬科大学を卒業された。クララと同窓であると知り、取材される緊張が解れたのかシャイな清子氏が話し始める。

「開局したのは母。実は薬剤師ではなく元銀行員なんです。」清子氏の母で名護薬局の

開設者である浦崎政子氏は、銀行員であったが、同じく名護商店街に薬局を構えていた屋嘉比康幸氏と出会い開局を勧められた。屋嘉比氏は北部地区で医薬分業の推進に力を注いでいた北部地区薬剤師雄志の集会「九日会」メンバーの一人。毎月9日に、医薬分業や健康作りの推進、そしてお互いの絆を深め切磋琢磨するために話し合いをしていたそう。北部地区薬剤師会の夜明けであったと言われるこの集会に、政子氏はいた。政子氏は開局の一大決心をする。薬剤師ではないが、銀行員であったこともあり人脈が広く、管理薬剤師を探し充てるのも苦労はしなかった。名護薬局の元管理薬剤師には、薬剤師会で名を馳



セメント瓦の名護薬局。沖縄の古い集落でよく見るセメント瓦。その多くは名護で作られていた。戦前の防火統制で茅葺き屋根を葺けなくなり、代用品として発展したという。戦後はコンクリート住宅の普及で徐々に姿を消したが、名護市街では今もセメント瓦屋根の家をよく見かける。新しい看板を構えた現在の名護薬局 (右)



アットホームな店内
政子氏自作の琉歌の歌詞や琉歌大賞などの賞状が誇らしげに掲げられていた。



カメラを向けると、はにかむシャイな清子氏。母の政子氏と二人で薬局を切り盛りしてきた。

せている先生方の名前や県立北部病院の院長婦人などが挙げられるほどだ。また、政子氏は趣味の琉歌で数々の受賞歴を誇り、地元では名が知られるほどの存在。その琉歌の歌詞が店内には多く飾られており、薬局をアットホームな雰囲気にさせている。最初に店内に入った時、温もりのある空間が飛び込み、何故か古き良き沖縄のアットホームで大衆的な感じを受けたのは、これらの雰囲気づくりやお二人の人柄によるものと実感する。

そんな店内は、狭小な感じがするが、一般医薬品はもちろん、健康食品、サプリメント、衛生材料などが陳列されている。その奥には調剤室があった。一般用医薬品を約180品目、医療用医薬品は約420品目備蓄し、品数が以外に多いことに驚いた。門前の薬局ではなく面で頑張っているため1日の処方箋枚数は少ないというが、カウンターの後ろには多くのカルテが収まっている。常連客の多い、地域密着型の薬局であることが伺える。

「薬局を訪れた患者さんの名前は必ず覚えること。薬以外の話も大歓迎、一緒に話をし一緒に笑いたい。薬局に来て気持ちが悪くなった、元気になった、と思ってもらえるよう配慮したい。」そんな清子氏のプロ意識が、患者さんと長くつきあえる秘訣なのだろう。「特別なことをしているわけではないのです…」と最後まで謙虚な清子氏だが、「そんな毎日の積み重ねが大切ですよね。」と語る。最近、東洋医学、漢方、在宅分野にも興味

を持ち、それに関わりたいたいという夢があるようだ。そう！清子氏は勉強熱心な方である。名護市から遠く離れた県薬剤師会の研修会に多く出席され、お会いする機会も多い。そんな勉強熱心で懇懇な清子氏だが、実は行動的な側面をもつ。「せっかく県薬剤師会まで来たのだから、那覇市内の薬局に飛び込みで訪問することもありますよ（笑）」憧れのクララの薬局を訪れた時には、お洒落で洗練された異次元の空間に感動したそうだ。

現在、政子氏は休養中のため、清子氏一人で事務も兼ねながら薬局を切り盛りしている。薬局で琉歌を披露したり、愉快地ユンタクに興じる母を見て育ち、小さい頃から「くすり」に接していたから迷うことなく薬学部へ進学したという清子氏。「母の分も頑張っていきます！」と迷いはない。

名護薬局の取材のあと、近くに住む熟年薬剤師取材した。名護薬局をよく知るその熟年薬剤師が、「あそこの薬局、いいよね！薬剤師の人柄も。昔から変わらずに頑張っている。」一まるで自分が褒められたように、氏の言葉が嬉しかった。

商店街に、かつての賑わいはもう無いかもしれない。でもここで時代に流されず、店を構え続ける人がいる。「繁華街がまた賑やかになるように…」と願うかのように新しい看板を構えた名護薬局。時代と共に移ろう街角をガジュマルの巨木が今も見守り続けている。



寄稿

名護市立稲田小学校

薬物乱用防止教室「お酒・タバコ・薬物」講演会報告

名護市立稲田小学校 養護教諭 玉城 優希

去る10月16日(木)に学校薬剤師の村上市子先生を講師に迎え講話をして頂きました。1時間目: 幼~2年生、2時間目: 3・4年生、3時間目: 5・6年生と各発達段階に応じて、園児児童はお酒・タバコ・薬物が人体のに与える害について学びました。

学校教育では、薬物乱用防止教育の必要性が叫ばれており、外部から専門家を招いて講話をして頂くことで、児童はより深く薬物について学ぶことができます。また、薬物乱用防止教育と一言でいっても、喫煙・飲酒・薬物(シンナーや危険ドラッグ等も含む)など取り扱う内容は多岐にわたることから、低学年のうちから薬物乱用防止教育を通して学んでいけたらと思います。

4年から6年対象に事前アンケート(抜粋)では、『お酒を飲んだことがありますか?』の問いに約40%の人が飲んだことがあると回答し、理由として◆置かれていたものを飲んだ◆ジュースやレモンティーと思って飲んだ◆間違えて飲んだ◆友だちが飲んでいたので飲んだなどの半数以上がお酒か確認せずに飲むケースが多いと感じました。また、お酒はどこで手に入れたのかについては、◆家に置かれていたもの◆コップに入っていたもの◆お父さんの友だちの飲み会◆もらった◆

まつり◆友だちが飲んでいたので飲んだなど、各家庭での保護者の飲酒が原因の子どもの飲酒の危険性や保護者の意識の有無が感じられた。

低学年では、タバコで肺が真っ黒になった人を助けるためにみんなで『スーパーめござあ』や『ニコチンパッチン光線』のかけ声で悪い者をやっつけるエプロンシアターをしました。タバコだけの内容にしぼった話だったので、児童は興味関心を示し、質問もたくさん出しました。「タバコは何で吸いたくなるの?」「1本吸っても肺は黒くなるの?」「真っ黒になったら(肺)戻らないの?」など一つ一つの質問に答えてくれて最後に一人の児童が「お父さんタバコ吸っているから心配。どうしたらいい?」の質問には、市子先生も「今日お勉強した事をお父さんに話したらいいよ。肺が真っ黒になるよ! 病気になるよ! 少しずつ減らしてっとお願ひしてみて」というと児童もスッキリした顔をしていました。

中学年では、お酒・タバコの講話をして頂きました。実際のお酒やノンアルコールなどを見て「これはお酒?」と児童に問いかけ「ノンアルコールって書いているからお酒じゃない」「お酒って書いているからお酒」などと活発に答えていました。ノンアルコールでも缶に小さな字で『20歳以上の人が飲む物』



低学年: 悪い者をやっつけるぞ! 『スーパーめござあ』『ニコチンパッチン光線』



中学年：ノンアルコール？お酒？



高学年：飲み物は目で見てお酒かノンアルコールかジュースか確認すること！
間違えて飲んでも未成年の飲酒が法律で禁止されていること

って書いているから児童のみんなは飲んだらダメ！！という事を確認。タバコでは、4大有害物質【ニコチン（血管を縮める）・タール（発ガン物質がいっぱい含まれている。黒くてドロドロしたもの）・一酸化炭素（きれいな酸素を奪う）・アンモニア（タバコの臭いのもの）】タールに含まれる発ガン物質は200種類以上（タバコの煙に含まれる化学物質は約4720種類）など教えてくれました。

高学年では、お酒・タバコ・薬物について学びました。タバコを1本吸うごとにイギリスでは、5分30秒寿命が縮まる。アメリカでは、16分寿命が縮まると言われていること（食文化の違いで1本あたりの寿命の縮まる時間が違う）薬物では、脳を破壊して人が正常ではいられなくなる。ニュースなどで最近耳にする危険ドラッグは法をかいくぐって手に入るのが現状。絶対に甘い言葉や誘いにのらない。もらったりしない。口にしない。

薬物は所持しても逮捕されること。お酒では、ノンアルコールやお酒の表示を確認。飲み物は自分の目で見てお酒かどうか確認すること。

薬物乱用防止教室の後、保健室前の掲示板にタバコの害をまとめた掲示をしました。保健室前を通る児童は、今日習った事を思い出しながら友だちと会話する姿も見られます。そして、ほけんだよりでも薬物乱用防止教室で学んだ事をまとめた内容や児童の感想を掲載し、保護者へアンケートの結果で気になる部分を抜粋したものをのせて保護者の意見を聞くことにしました。

児童が学習したことを各家庭でも大人が意識していくことで未成年の飲酒や喫煙や薬物など危険な事が身近で起こることを理解し、児童だけではなく先生方・保護者も意識することで子ども達の健やかな成長を見守ることができると思いました。



《児童の感想》

- ★お父さんタバコ吸っているから吸わないでってお話してみる。 (1年生)
- ★今日のタバコの話聞いて4つの毒が悪さをすることがわかった。悪さをするタバコを吸っている人の近くに行かないようにする。一番怖かったのは、タールです。タールはガンにさせるからです。ぼくはガンになりたくないです。 (2年生)
- ★タバコやお酒は命の危険に関わると分かりました。もし、お父さんたちがタバコを吸うときは近くに行かないようにします。そして、吸わないでお願いします。お家の人に今日勉強したことを教えてあげたいです。 (3年生)
- ★酎ハイでも絶対に飲んだらダメ！ノンアルコールも飲んだらダメ！お酒をすすめられても「飲まない」と言って断る。タバコは、3年生でも習ったけどタールは、肺ガンになることが分かった。 (4年生)
- ★危険ドラッグを持っていて警察に捕まった人をテレビで見たことがあったけど、危険ドラッグがあんなに危険な物だと初めて知った。タバコは吸っている人の近くにいるといっぱいの害があることが分かったから、近くでタバコ吸っている人がいたら体に悪いからやめた方がいいよと教えてあげようと思いました。 (5年生)
- ★ビールには、ノンアルコールがあるけどそれは子どもでも飲んでいいと思っていたけど、20歳以上じゃないといけないことが分かりました。薬物の話では、とっても害が大きくて逮捕されることも分かりました。もし、私ならこんなに害があるのを知って、やらないし、すすめることもしません。 (6年生)

お知らせ

研修認定薬剤師申請料が改定！

日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師申請料等が、下記（二重枠：日本薬剤師研修センターホームページより）の通り改定になりました。平成26年4月1日以降に、日本薬剤師研修センター（東京）へ着の申請より適用になります。申請の際は、申請料の支払い金額に注意願います。

《消費税法の改正に伴う申請料等の改定について》

平成26年4月1日より消費税（地方消費税を含む）率が5%から8%に改定されたことに伴い、日本薬剤師研修センターへの申請料等について、法律の規定に従い改定されました。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。平成26年4月1日以降、当センターで受け付ける研修認定薬剤師申請料は、下記の通りとなります。

項 目	1 申請当たりの金額（税込）	本体価格	税
認定申請料（手数料：新規・更新）	10,286 円	9,524 円	762 円
認定申請料＋ID カード	11,726 円	10,857 円	869 円
認定証再交付	3,086 円	2,857 円	229 円
ID カード再交付	1,440 円	1,333 円	107 円
英文認定証	3,086 円	2,857 円	229 円

（参考：旧申請料）

1 申請当たりの 旧金額（税込）
10,000 円
11,400 円
3,000 円
1,400 円
3,000 円



寄稿

薬物乱用防止教室報告

去る11月5日（水）に学校薬剤師としてお世話になっている前濱朋子先生を講師に迎え、5年生（71人）に対し、クラスごとに薬物乱用防止教室の講話をして頂きました。

本校では、家族や親せきなどに喫煙者がいるなど、身近にタバコやお酒に触れやすい環境に置かれているように感じます。今年、校内の敷地内にたばこの吸い殻が捨てられていたということもあり、一度全校児童に対し、たばこについての指導も行っています。

そこで、たばこ・酒・薬物（シンナー、覚せい剤、危険ドラッグ）についての学習は、本来6年生の保健の授業で学びますが、本校の現状や近年における薬物乱用の深刻な問題などから、5年生からもたばこ・酒・薬物について学び、伝えることは大事ではないかということから、5年生に対し薬物乱用防止教室の講師を学校薬剤師である前濱先生に講話をお願いしました。

ご講話では、とても分かりやすく的確な説明で、終始、児童達が集中して聞いていました。講話後の質疑応答も盛り上がり、時間が足りないと思うほど、あっという間の45分間でした。

喫煙・飲酒・薬物などの専門的な部分での授業となると、一方的な知識や情報伝達のみになってしまい、児童は聞くだけ見るだけの受動的な姿勢になりがちで、児童の発達段階や理解力を見失ってしまうということに陥ることがあるかと思います。私自身もそうですが、知らせる伝えるポイントをいかに絞り、どこまで子ども達の知識理解につながる指導内容にしていけるか、工夫するかが常に頭を悩ます課題です。

しかし、授業の中では、知識としてスライドを見せて分かりやすく丁寧に説明する場面、児童の興味をひく動画や写真を見せる場面、

本部町立本部小学校 養護教諭 仲原 佐和子
朋子先生自身の体験談を話す場面、実際に具体物をたくさん準備して頂きそれらを使ったクイズや説明をする場面【◆どれがたばこか？（お菓子箱とお菓子に見えるタバコ）◆どれがアルコールの入ったお酒か（アルコールとノンアルコールの缶）、絹豆腐（脳の柔らかさの例え）、1年間に溜まるタールが入った瓶等】など、あらゆるところに、児童達の興味関心をひくような展開の工夫がありました。

特に、外国人の女性がタバコ欲しさに、灰皿にあったタバコの吸い殻に手をつけてしまう動画を見て、児童達はとても驚くなど、大きく反応していました。依存症の怖さを実感したようでした。また、ウサギの血管がタバコの煙により収縮している様子がわかる動画を見て、タバコの受動喫煙による影響について分かりやすいインパクトのある内容となっていました。分かりやすく印象に残りやすい動画は児童達にはとても効果的だと感じる場面でした。

飲酒について学ぶ所では、お酒を飲んで大人の人達が、楽しんでいる場面をよく見ていた為か、心身に悪いというイメージがなかった児童も中にはおり、今回の授業を通して、飲みすぎは良くないこと、一気飲みによって命を落とす場合があること、また、飲み続けると病気になること、依存症になることなどを知り、大きな学びになったようです。この時期に薬物乱用防止教室を開催して良かったと改めて感じました。

今回の授業で児童達は、喫煙・飲酒・薬物乱用、いずれも脳に大きくダメージを与え、心身に重大な健康影響を及ぼす事を学び、絶対に手を出さないという意識を持つことが出来たと思います。また、学校薬剤師の前濱先生に話をしてもらうことにより、説得力も増し、薬物乱用防止を重要な問題として考えるよい機会となりました。

今回学んだことは決して忘れず、6年生になっても、より一層学びを深めていくことと思います。職員や学校にとっても、薬物乱用防止教室の必要性について改めて感じる有意義な機会になったことと思います。

時代を担う児童達の健全な成長を願い、学校、地域、保護者、専門的知識をもつ学校薬

剤師の方々と今後も連携協力し、薬物乱用防止教育の推進に取り組みたいと思います。

前濱先生には、とても丁寧に指導して頂きました。ありがとうございました。私自身も養護教諭として、職員、児童、保護者に啓発していけるよう精進したいと思います。

＜薬物乱用防止教室の様子＞





＜児童の感想＞

- ぼくは、たばこのニコチンは知っていたけど、アンモニアやタールがあるって事は初めてしりました。
お酒は脳が縮んだり、暴力事件を起こしてしまう事があることも分かりました。先ばいにたばこをちょっとだけすえって言われても断って、おじいちゃんとかがタバコをすっていたら注意して、今日学んだことを大人になって、自分の子どもに教えてあげたいです。
- お酒はだいじょうぶだと思っていたのに、色々な事故につながる事が分かりました。お酒もきけんな物だったと初めて知ったのでよかったです。ぼくはタバコをすわないでお酒も二十歳からはのまないようにしたいです。
- 朋子先生にタバコをすってはいけないときいて、私はお母さんにもタバコをやめさせたいし自分もしたくないと思います。タバコはとてもきけんなんだなと思いました。次は、だれもタバコをすわない沖縄になったらいいと思いました。
- 私が思ったことは、お酒も脱法ハーブくらいきけんな物なんだなと思いました。私の周りは何れもすっていないです。お父さんは、私が生まれるまですっていたけど、私が生まれてからすっていないそうです。お父さんはお酒ものまないの、健康でいてくれて嬉しいです。自分も大人になったらタバコとかをすわないようにしたいと思います。
- 今日初めて薬物乱用という言葉を知りました。他にも初めて聞く言葉がたくさんありました。今回の授業で驚いた事が二つあります。一つ目は病院からもらった薬でも必要以上に摂取すると事も薬物乱用になるということです。二つ目はタバコには4000くらいの成分のうち200くらいが悪い成分だということです。こんなにたくさん悪い成分が入っているなんてタバコは本当に怖いなと思います。
- 朋子先生のお話を聞いて感じたことは、薬物は悪い物なのに、どうしてなくなるのかなと思いました。薬物には、私の知らない物があって、気づかずにのんでしまうことがないように、薬物のことについてたくさん調べる必要があるなと思いました。

※児童の感想には、

- ・ タバコの成分4000種類のうち有害物質は200種類もあるのに驚いた。肺や歯が汚れていく。
- ・ ウサギの血管が煙を吸うことにより縮んでいったことに驚いた
- ・ お酒も飲み過ぎると体に悪い、事故につながることもあるということが分かった。飲み過ぎない。
- ・ 依存症になるからやめられなくなる
- ・ 「お父さんがすっているのをやめるよう声をかけたいです。」「すっている家族に教えてあげたいです。」
などの意見が多くみられました。



お薬手帳と悪戦苦闘

私は、実家の名護中央薬局に勤めて今年で3年目になります。それまでは、東京、茨城と県外で働いていました。4月の調剤報酬改定後はお薬手帳の普及に日々力を入れておりますが、その中で感じる事を綴ってみたいと思います。

当たり前のことではありますが、シールを貼るだけ、シールをわたしているだけではダメだと思い、お薬手帳を忘れた又は不要という患者様にもわかる範囲で併用薬の確認をして、次回持ってきていただいた際にチェックをさかのぼってシールを貼るようにしています。そして、お薬手帳を持つ事の重要性を説明する事に力を注ぐようにしました。こちらの説明不足もあり、「この薬局はシールもわたさないのか!？」とお叱りを受け、去っていく患者様もいます。例えば、年に数回、風邪でお薬をもらう程度の患者様には、お薬手帳の有無について形式的な確認でも構わないと思いますが、定期薬を服用している患者さんには、もう一歩踏み込んだ説明が必要だと感じています。

名護中央薬局 大申店
神山 康馬



お薬手帳にシールを貼る事が本来の目的ではない事を根気強く説明することにより、当薬局では持参率が上がってきました。それにより、例えば今まで「血圧の薬」としか確認できなかった患者様から薬品名まで確認できるようになりました。

私自身、患者様にお薬手帳を勧めるにあたって、自分自身も持参していないと説得力に欠けると思い、医療人だからこそ常に持参する事が重要だと思いました。これからもお薬手帳の普及に向けて日々努力して参ります。



次号には、鈴木 毅 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

会報原稿募集のご案内

広報委員会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

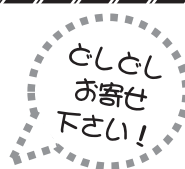
【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。



☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

卒煙物語 その49

防煙教育の視野

文：卒煙へようこそ担当
えんこ

時代はどんどん進んでいます。
どうしてこんな時代になったのか、
それなりの理由があります。
「卒煙」を知らないではすみません。
さあ、一緒に取り組みましょう！



防煙教育現場の中で小学生からは「なんでこんなに悪いものを吸うのだらう」と、とても不思議に思う声が聞かれ、中には泣いて先生に自分の親のことを心配する子がいます。中学になると「お金儲けのために売ってるんでしょ」と反抗的態度が強くなります。高校生になると「税金で少し良いこともしているみたいだし、いいんじゃないの」と吸っている本人、仲間、大人たちを冷ややかな言葉で表現します。そんな成長期の流れを理解したうえで、私たちは、一貫してタバコの悪さ、タバコを吸わない選択ができるよう子どもたちに伝えなければいけません。

今年11月、ある小学校に講演を依頼されました。その設定は、朝の朝礼時間から、まず子どもたちがタバコについて夏休みに調べ学習した結果を発表し、もうすぐ中学生になる6年生がタバコを先輩に誘われたらどうしたらいいかと、みんなでその場面について想像しながら対処方法の一例を演じる、その後私の講演に移るというものでした。最近、子どもたちの調べ学習となるとインターネットからの情報が主となります。それを発表の形まで持っていくと理解は増します。誘われるという場面での対応は、インターネットの情報では実感できません。劇にすると想像しやすく対応を考える手段になります。この劇で大切なのは誘い役を子どもたちにさせて上手になっては、目的に外れます。そ

の誘い役は、演技することを理解できる大人の方がいい。運よくそんな大人が今回見つかり子どもたちと練習をして、発表の場で披露することができました。次に私の講演では、タバコはマヤ文明、紀元前1550年も前の遺跡にはもう登場する。そこから昭和33年に至る長い歴史を経ても、まだ「生活の句読点」の文字とあった。たばこの有害性に気付かない長い歴史があったのだ。それでもタバコの有害性を証明した世界的に有名な日本の疫学調査の結果、50～59歳で死亡してしまった（n=2639）人の死亡率比を提示して、14歳以下から吸い続けた人が3.78で、他の15歳以上は1.51、20歳以上は1.38と比べて、ぬきんでて高かったことで、幼少からタバコを吸うと、60歳まで生きにくいということが分かった。これら疫学的調査は、結果が出るのに時間がかかります。ようやく、悪さが証明されたからには、「できることは？」と問いかけて、売っているのが悪いと人のせいにするのではなく自分で吸わない選択をする事が大切であること、悪さを知らずに吸い始めてやめきれない大人達には、その人が悪いのではなくタバコが悪いのだと伝えたいので、現在は医療者が勧める禁煙のための薬がある事、治療が必要な人がいることを伝えましょう。防煙教育を受けていない世代へも伝わる教育に期待しています。

卒煙者の経験談を募集しています。皆様の声が大きな励みとなることでしょう。
下記までお寄せ下さい。

e-mail kouhou@okiyaku.or.jp

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10

TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932

薬事情報センター内 卒煙へようこそ担当 えんこ 行き



走ること—RUN—



琉球大学医学部附属病院
薬剤部 福島 裕貴

去る12月7日、日曜日、第30回NAHAマラソンが開催され、4年連続で今年も出場してきた。1回目は途中リタイア。2、3回目は5時間台での完走。そして4回目の挑戦となる今回は、自己ベスト4時間43分での完走という結果だった。勿論、もっと速い人はたくさんいるが、僕は今回、初の4時間台完走にこだわった。

NAHAマラソン前日の経験が4時間台完走へのこだわりへつながった。

NAHAマラソン前日は、以前から趣味で継続していた“SUP”（おきなわ薬剤師会報平成26年9・10月号リレー随筆に詳細有）の今シーズン最後となる大会が沖縄で行われた。この大会は名護から海中道路までの30kmの外洋を下るというレースで、多くの危険が予想されるため、過去の大会で一定レベル以上の成績を残した者だけが出場できる日本国内では最長のレースである。経験の浅い僕は、主催者の好意で出場試験を課せられたものの、合格できず、出場できなかった。しかし大会当日は、出場選手の運搬というボランティア活動を任せられ、選手と直接話す中で素晴らしい経験をする事ができた。特に、他のパドル種目で日本代表を務める選手や、海外からの招待選手とお話しできたことはとても貴重な経験であり、この機会を与えてくださった主催者に感謝したいと心から思っている。

SUP大会の終了後、僕は大会関係者に翌日のNAHAマラソンでの完走を約束した。あとから考えると、この瞬間に、“初の4時間台完走”への決意が走り始めた気がする。

さて、少々脱線したが、本題へ戻るとしよう。

“走ること”。この世界には、“マラソン”というスポーツがある—

“マラソン”は誰しもが経験したことのああるスポーツだろう。少なくとも、僕の中では印象の良くないスポーツだった。確かにそうだった。沖縄に来るまでは。

小学校、中学校、高校と毎年冬になるとマラソンの季節が来た。成長するごとに求められる距離は長くなっていったが、成長するごとに走ることにに対するモチベーションは確実に低下していった。高校の頃は10kmだったが、記憶の中ではおそらく半分程度しか走っていない。怖い体育教師の監視がなくなると、すぐにだらけて歩いていた。真面目に走らないことがイケているなどと考えてさえいた。

そもそもマラソンとは何なのか？何を目的に生まれたスポーツなのか？

「・・・わからなかった。」

しかし、僕はスポーツ自体にもともと関心なかったの、どんなスポーツにどんな“誕生の秘密”があるのかなど、そもそも考えたことがなかった。興味もなかった。だが、試しにマラソンについて調べてみた・・・。

マラソンの由来は紀元前にまで遡るようである。

『アテナイの名将ミルティアデスはマラトン（Marathon）に上陸したペルシャの大軍を奇策で撃退した（マラトンの戦い）。勝利をアテナイの元老に伝えるためにフィディピデリスという兵士が伝令に選ばれた。フィディピデリスはマラトンから約40km離れた

たアテナイまでを駆け抜け、アテナイの郊外で「我勝てり」と告げた後に力尽きて息を引き取ったと言われている。この伝承はヘロドトスの『歴史』によるとされ、アテナイは現在のアテネとされる。ただし、この話が史実かという点については諸説がある・・・

(Wikipediaより引用)』

・・・このような説があるとは、予想ができたかもしれないが、想像してみると思わず大きく息を吸いたくなってしまう。頭の中で、フィディピデスが時代を超えて駆け抜けていったからだと思う。彼はどんな気持ちで、どんな道を、どんなスピードで駆け抜けたのだろうか。途中、その姿を見た人々はどんなことを思ったのだろうか。天気は、気温は、風は・・・考えたくなることは尽きることなくあふれ出る。もし、これを題材にした映画が製作されているようであればぜひ見てみたいのだが。

『42.195 km』数字の並び、響きは悪くないと思う。距離について、古代マラソンでは“マラトンからアテネの競技場までの42.195 km”とされていたようである。近代マラソンの距離はこれを直接由来としたものではないとも書かれていた。しかし、なんととっても“42.195 km (26マイ

ル385ヤード)”なんて、かなり微妙な距離であると感じる。実際、走って40 kmまで来ても、残り2 kmと195 m。195 mは普通ではただの195 mかもしれない。だが、40 km走った後の195 mはただの195 mではない。マラソンに参加するたびに「195 mってなんだ？」と、考えていた。

今度走るときは、フィディピデスの気持ちを感じながら走ってみたいと思う。また、彼は苦しさの中で何と戦ったのか。何を思って自らの苦しさに打ち勝ったのか。それを考えること、もちろん答えは見つからないと思うが、そうすることが自らの成長と次への挑戦への覚悟へとつながると思う。

『走ること。いや、走り続けること。』を考えていきたい。

—この文章を読んでいるあなたへ—

沖縄のマラソンシーズンはまだまだ続きます。自分への挑戦は気持ちのいいものです。自分に勝つことができれば大きな自信へつながることでしょう。しかし、勝てなくてもそれに費やした時間は決して、“決して”裏切りません。不条理なこの世の中、だからこそ“走るということ”にもう一度、挑戦してみてはいかがでしょうか。



告知ポスター

薬と健康の週間 10/17(金)▶23(木)

くすりと健康フェア《心身ともに健康》

入場
無料

県民公開講演会

平成26年 10月23日(木)
パレット市民劇場

那覇市久茂地1-1-1(パレットくもじ9F)

午後6時30分～8時

※ご来場の際は、バス、タクシー、モノレール等をご利用下さい。

※会場の都合により、定員を超えた場合はご入場をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。

演題

生きてるだけで
価値がある

手話通訳
あります。

～子宮頸がん・うつ病を体験して～

子宮頸がんを患い、その後に離婚、うつ病に。人生に何の価値を見出すことができず、自ら命を絶とうとした日々。そんな彼女の生きる原動力となったのは、たくさんの人々の暖かい励ましの言葉だった。自らの講演会では、『この世に無駄な生命は一つもなく、それぞれが必ず使命を持って生きていけるはず。』と、今、人生に行き詰まっている人に少しでも自分の言葉が届き、人生の分岐点になればとの思いで生命力溢れるメッセージを届けている。

講師

松田 陽子 (まつだ ようこ)

シンガーソングライターとして、メッセージ性の強い曲を発表し、ライブやイベントで歌う一方、イベントの司会やセミナー講師としても活躍。ニューヨークにて歌手活動をしていた経歴や、30カ国以上の海外体験、人生での出来事によって、独特の感性を持つ。オリジナル曲にはメッセージ性があり、熱烈なファンも多い。

これらの活動に加え、国連UNHCR協会・協力委員、ボランティアグループ「self」の代表としてチャリティーライブや支援イベントを定期的に開催し、難民支援活動、児童養護施設の子供たちとの交流・支援を積極的に行う。また、一般社団法人Stand for mothers理事として子宮頸がん検診啓発活動や若いママのための防災活動など展開。

お薬と健康相談会

日時 平成26年10月23日(木) 午後4時30分～6時30分

場所 パレット市民劇場ロビー

講演会前に薬剤師が
お薬と健康の相談を致します。

病院薬、ジェネリック医薬品、大衆薬、漢方薬、健康食品、
禁煙、メタボリックシンドローム、薬物乱用など

主催：薬剤師会

相談無料

お気軽に
ご相談ください

お薬手帳

お薬手帳は
どの薬局でも
もらえます。

5つのいいこと

- ① 医療機関にかかる時は必ず持っていきましょう
- ② 言いたい事や伝えたい事を書いておきましょう
- ③ 一般用医薬品(OTC医薬品・大衆薬)・健康食品も記録して
- ④ いつも携帯・いつも同じ場所に保管して
- ⑤ 一冊にまとめましょう

主催：沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会

お問い合わせ：沖縄県福祉保健部薬務疾病対策課 ☎098-866-2215 / 那覇市健康部生活衛生課 ☎098-853-7963 / 沖縄県薬剤師会事務局 ☎098-963-8930

「薬と健康の週間」(10月17日～23日) 関連記事

薬と健康の週間 10/17▶23

くすりと健康フェア

《心身ともに健康》

平成26年 10月23日(木)

時間:午後6時30分～8時

パレット市民劇場

那覇市久茂地1-1-1
(パレットくもじ9F)

※会場内にはバス、タクシー、モノール等をご利用下さい。
※会場内には、定数を超えた場合はご入場をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。

お薬と健康相談会

日時 平成26年10月23日(木) 午後4時30分～6時30分

場所 パレット市民劇場ロビー

講演会前に薬剤師がお薬と健康の相談を致します。 主催:薬剤師会

相談無料
お気軽にご相談ください

県民公開講演会

入場 無料

演題 **生きてるだけで価値がある**
～子宮頸がん・うつ病を体験して～

講師 **松田 陽子 (まつだ ようこ)**

子宮頸がんを患い、その後に離婚、うつ病に。人生に何の価値を見出すことができず、自ら命を絶とうとした日々。そんな彼女の生き生きとした原動力となったのは、たくさんの方々の暖かい励まし言葉だった。自らの講演会では、「この世に無駄な生命は一つもなく、それぞれが必ず使命を持って生きていけるはず。」と、今、人生に行き詰まっている人に少しでも自分の言葉が届き、人生の分岐点になればとの思いで生命力溢れるメッセージを届け続けている。

シンガーソングライターとして、メッセージ性の強い曲を発表し、ライブやイベントで歌う一方、イベントの司会やセミナー講師としても活躍。ニューヨークにて歌手活動をしてきた経歴や、30か国以上の海外経験、人生での出来事によって、独特の感性を持つ。これらの活動に加え、国連UNHCR協会・協力委員、ボランティアクラウド「sell」の代表としてチャリティーライブや支援イベントを定期的に開催し、難民支援活動、児童養護施設の子供たちとの交流・支援を積極的に行う。また、一般社団法人Stand for mothers理事として子宮頸がん検診啓発活動や若いママのための防災活動など展開。

主催 沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会

お問い合わせ 沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 ☎098-866-2215
那覇市健康部生活衛生課 ☎098-853-7963
沖縄県薬剤師会事務局 ☎098-963-8930

会場 県民公開講演会 会場 県民公開講演会
うえはらとよみ 医療センター前
西原町字上原241-1 重見城市字宝保271
休日 夜間開催
南風原町新川218-10

平成26年10月19日(日) 琉球新報・沖縄タイムス

転載記事

平成26年10月27日(月) 琉球新報

寄り添う存在大切

歌手の松田陽子さん

自殺防止「愛の三原則」強調

「くすりと健康フェア」心身ともに健康
(主催、那覇市、県薬剤師会が23日、那覇市のパレット市民劇場であり、約200人が参加した。子宮頸がんやうつ病を克服し、国連の難民支援や児童養護施設の支援に取り組む関西出身のシンガー・ソングライター松田陽子さんが講演し「人が自ら命を絶つのは病気や貧乏だからじゃない。生きている価値がないと思うからだ」と指摘。「たった一人でもいい。自分の可能性を信じ、手を握ってくれる人がいれば生きていける」と力を込めた。

がん、うつ克服体験語る

「がんサバイバー」とし 家中心しようにする姿を自
て活躍する松田さんは幼少 時に父の激しい暴力に苦し
む母が精神を患い、母が「車に飛び込んで死んだら



子宮頸(けい)がんやうつ病、脳腫瘍などを患った経験を振り返り、「宿命は使命に変えられる」と力強く語った松田陽子さん=23日、那覇市のパレット市民劇場

Life
医療

命を大切にできるような
「と力を込めた。
娘が1歳半の時にがん
子宮を摘出し、闘病のつ
さや再発への恐怖から夫
いさかいが絶えず離婚
した。「心がバキンと折
生きている意味さえない
と思え、ぼろぼろ泣いて
毎日だった」と、うつ病を

患った経験も語った。
どん底の松田さんを支え
たのは、長距離バスで通
い続けてくれた一人の友
。「彼女が『陽ちゃん、苦
むために生まれてきたん
やない、人は自分にしか
できない使命が必ずある
と手を握ってくれた。生
きていいんやと、かすか
光を見た」と振り返った。
「(寄り添う人が) た
た一人でもいい。私も苦
ときに助けてもらったお
かげで今がある」と述べ
た。昨年は脳腫瘍になり、5
回の入院を繰り返したこ
とがある。「やらなかん
やと強い心で奇跡を起こ
したと報告。持ち歌を披露
し、「必ず健診に行つてほ
しい。自分一人の命じゃな
い。『冬は必ず春となる』
私の人生がまさにそう。心
も体も健康で輝く人生を、
皆さんと共に歩みたい」と
呼び掛けた。

平成26年10月25日(土) 沖縄タイムス

「まずは自分を大切に」

シンガー松田さん 闘病体験語る

薬と薬剤師の役割を正し
く知ってもらおうと「くす
りと健康フェア」が23日、
那覇市のパレット市民劇場
であった。シンガー・ソ
ングライターとして活躍す
る松田陽子さんが、特別講演
で自身の子宮がんとうつ病
の闘病体験を語った。



「健康で輝く人生を送ってほしい」と語る松田陽子さん=23日、那覇市

松田さんは幼いころ、父
の家庭内暴力が原因で家族
から十分な愛情が得られず
自殺を考えたこともあった
ことを告白。結婚して娘
を出産後に子宮頸がんを
発病、壮絶な闘病体験の
真っただ中に離婚を経験
しうつ病になった。「あ
なたは幸せになるために
生まれてきた」と、励まし
てくれた友人に救われた
と語り、生きる希望を見
いだした。
松田さんは「自分を大切
にしてこそ、周囲で苦しん
でいる人に手を差し伸べら
れる」と語り「健康で心も
体も輝く人生を共に歩ん
でいきましよう」と呼び掛
けた。

転載記事

平成26年10月20日(月) 沖縄タイムス

話題

薬の飲み方 正しく知って 県職員ら冊子配布 街頭PR

薬の正しい使い方と薬剤師の役割を理解してもらおうと県の職員らが17日、那覇市のでんぶ



す前広場で街頭キャンペーンを行った＝写真。

冒頭のあいさつで県保健医療部の仲本朝久部長は「医薬品を安心して使うため、専門家の情報提供が必要」と語った。

県と那覇市保健所の職員ら約40人が薬の副作用、服用のタイミングなどが記載された冊子250冊を通行人に配布した。

県薬剤師会の山城英人さん(47)は地域の人が多く集まるところで配布しようと、平和通りを選んだ。「薬で悩んだ時は薬剤師へ相談してほしい」と呼び掛けた。

薬剤師会が県民講座 23日パレット市民劇場

17～23日の「薬と健康の週間」に合わせ、県薬剤師会などが23日午後6時半から「県民公開講演会」を那覇市久茂地のパレット市民劇場で開く。

子宮頸(けい)がん、離婚、



県民公開講演会への来場を呼び掛ける県薬剤師会の前濱朋子常務理事(左)ら＝沖縄タイムス社

うつ病を経験したシンガー・ソングライターの松田陽子さんが自らの体験を基に講演する。入場無料。手話通訳あり。

午後4時半からは薬剤師による健康相談会もあり、薬と健康について無料でアドバイスする。県薬剤師会の前濱朋子常務理事は「ぜひ気軽に足を運んでほしい」と呼び掛けている。

問い合わせは県薬剤師会事務局、電話098(963)8930。

平成26年10月18日(土)

琉球新報



「薬と健康の週間」 那覇で公開講演会

23日、無料相談も

17日から23日までの「薬と健康の週間」に合わせて「くすり健康フェア 県民公開講演会」(県、那覇市、県薬剤師会主催)が23日午後6時半から、那覇市のパレット市民劇場で開かれる。入場無料。

シンガー・ソングライタ

一で、難民支援活動や児童養護施設の子どもの支援などを行っている松田陽子さんが「生きているだけで価値がある～子宮頸がん・うつ病を体験して～」と題して講演する。同日は午後4時半から6時半まで、同劇場ロビーで「お薬と健康相談会」も開かれ、薬剤師が無料で相談に応じる。

県薬剤師会の大城喜仁さん、松堂恵美さん＝写真左、前原里江さん＝同右＝が17日、琉球新報社を訪れた。大城さんは「薬は飲み合わせに気を付けないといけないものもある。街の薬局に気軽に相談してほしい」と話した。問い合わせは県薬剤師会☎098(963)8930。

平成26年10月12日(日) 琉球新報

50年以上続く那覇高6期生の「友だち会」＝9月20日、那覇市のホテルロイヤルオリオン



那覇高6期生 女性13人の絆

那覇高6期生の女性13人で作る「友だち会」。模合を始めた50年前はみんな30代。子育てや仕事で忙しい毎日だったが、月1回、必ず集まった。メンバーにはファッションデザイナーの仲井文子さん(79)、女性初の県薬剤師会会長を務めた大城桂子さん(79)などその世界の第一人者もいるが、ここでは肩の力を抜いてラックス。働いていると苦しい話、何度もうつづけたと振り返る。

「一人の悩みはみんなの悩み。一人の楽しみはみんなの楽しみ」と話すのは主料理子さん(80)と高良野さん(79)。玉木さんは夫に先立たれ、死ぬことを考えたこともある。「みんなの、監視のおかげでね。気が付いたら立ち直つてたわ」と感謝する。

模合から1曲の本も生まれた。名城郁子さん(80)は言談録(故人)と隣り合ったことから、同期生の戦争体験をまとめた本を出版。名城さんは「模合がなかったら生まれなかった本。(模合は)同期生の絆を確認できる場」と胸を張った。

友だち会

ザ・モアイ
模合

□□456

◇模合に関する情報をお寄せください。編集局地方連絡部☎098(865)5166、ファクス098(865)5176、電子メールアドレスchihou@ryukyushimpco.co.jp

会員の大城桂子先生と今井忠子先生が所属する「友だち会」が紹介されていました

転載記事

平成26年10月16日(木) 沖縄タイムス

論壇



吉田 洋史

複数の医療機関を受診した時に、お薬の飲み合わせ(相互作用)を調べるのに必要な「お薬手帳」。高齢者やお母さんを中心に認知度が高くなっています。なかには「薬局に行く」と催促される面倒くさいノート」と思っている方もいるかもしれませんが、患者さんは、お薬手帳を十分に

使っている薬を聞いても、返事は「血圧の薬」「白い錠剤」「朝飲む薬」といった曖昧な答えでとても困りました。16年後の2011年、東日本大震災が発生。それまでの教訓を生かして各地の薬剤師会はお薬手帳の普及啓蒙に取り組んできましたが、

使い方について習っておらず、平成20年に「くすり教育」が学習指導要領に公示され、中学校などで学習する時間が設けられました。これは、あらためて自分の健康を適切に管理し、健康の保持増進や疾病の予防について理解を深めるためのものです。健康で薬は何も飲んでいない

す。お薬手帳は、診察時、調剤時だけでなく、救急時、災害時にはなくてはならない物です。で、常に携帯していることが大切なのです。薬を適正に使って、副作用を少なく、効果を最大に引き出すためにも、積極的ににお薬手帳を活用していきましょう。そのためには、お薬手帳五つの「いいこと」を覚えておくとい

「お薬手帳」常に携帯を

救急・災害時も処置受けやすく

い覚えているから使わない、なんていうのは実にもったいない話です。実はお薬手帳の役割はそれだけではないのです。

1995年に起きた阪神淡路大震災では、震災の混乱でかかりつけの病院や診療所の機能がまひする中、他県から支援に入った薬剤師が患者さんに普段飲

活用しきれていませんでした。再び「自分が飲んでる薬の名称を正確に言える患者は少ない」という実態が明らかになり、災害など万一の事が起きたときのために、普段から薬の服用履歴を管理しておく必要性が痛感されるようになりました。実は、今まで学校では薬の正しい

からお薬手帳は持たないという人もいますが、交通事故や急病などいつ起こることも限りません。救急隊はお薬手帳で服用中の薬やかかりつけの医療機関を確認できるのはもちろん、副作

用の出た薬やアレルギーの情報が記入してあると、旅行先でも適切な処置を受けやすくなります。⑤一冊にまとめましょう。いつもの「かかりつけ薬局」で、あなたにあった「かかりつけ薬剤師」に、お薬手帳を持って相談に来てください。(県薬剤師会副会長、那覇市、41歳)

平成26年10月18日(土) 琉球新報

2014年10月18日

皆さんは、ハーブという言葉
葉を聞いて何を連想するでし
ようか？ 通常ハーブと言え
ば、アロマやお香、食材や飲
み物など身近な存在として広
く知られていると思います。
しかし、同じハーブ
でも合成された「脱
法ハーブ」と言われ
てきた物には、どの
ような有害物質が含
まれているのか明確
に示されておらず、人体にさ
まざまな影響を及ぼすことが
明らかになってきました。7
月22日に「脱法ドラッグおよ
びハーブ」の呼称が「危険ド
ラッグ」に変わり、国民への
認知度および関心が一気に高



石川 恵市

論壇

危険ドラッグの怖さ

社会全体で防止策を

まりました。
以前、脱法ハーブと称して販
売されていた物は、規制薬物に
該当せず、違法性がないため、
安易に使用されていました。
しかし、実際は、乾燥させた
植物片に覚せい剤や大麻など
成分が配合されていたという
事例もありました。実際、危
険ドラッグを摂取すること
で、精神的依存、身体的依存
などの薬物依存症を引き起こ
すことが知られています。症
状としては興奮・抑制・幻覚ま
たは意識消失などが多く見ら
れ、最悪のケースとして死に
至ることもあります。
また、薬物依存によって引
き起こされた事故や事件によ
る当事者やそれを取り巻く家
族らの精神的・経済的ダメー

ジも計り知れません。今年6
月に、東京・池袋で危険薬物吸
引者が車を暴走させて歩行者
8人を死傷させた悲惨な事件
は記憶に新しいところです。
今後、薬事法改正に伴い含
有物質の規制が見直されてい
くと思われませんが、それによ
りさらに危険性の高い物質が
混入されることも懸念されま
す。ブランド物のコピー商品
が出回ることによって規制が
強化され、それをかいくぐる
かのように精巧で悪質なコピ
ー商品がまん延していく。危
険ドラッグもそれと同様と言
えるでしょう。
現在の問題点として、この
ような危険ドラッグに対する
データ共有がなかなか進まな
いことや、搬送される救急医
療現場に薬物中毒に精通した
医師・薬剤師が極端に少ない
ことなどが挙げられます。今
後の課題としては、立法・行
政・司法の三権と医療従事者、
そして社会全体が一体となっ
て解決を図っていかなければ
ならないと思います。
より多くの人々に危険ドラ
ッグの怖さを知ってもらう環
境を提供し、使用してはいけ
ないことを「ダメ。ゼッタイ」と強く訴えていく。それ
がわれわれ(薬剤師)に与え
られた使命です。
(沖縄市、沖縄県薬剤師会
理事、39歳)

転載記事

平成26年 9月11日(木) 沖縄タイムス

薬局拠点に健康相談

県、9月議会に予算提案へ

がんじゅ まる
みんなで健康長寿

住民に身近な薬局で、血圧や体脂肪率など健康をチェックし、食生活や健康サポートなどを推進する事業

の予算案が9月定例県議会に提案される。国が全国に呼び掛けるモデル事業。全国で年間約475億円と試算される飲み忘れ薬の削減と併せ、薬局を健康相談の拠点に位置付ける。

県薬務疾病対策課による

と、薬局ではこのほか、運動習慣などに関する支援や特定健診・がん検診の受診勧奨も行う。予算案が可決されれば県薬剤師会に業務を委託。会員の薬局を通して年度内に事業が始まる。

約490万円の予算案は体重・体脂肪計や血圧計の購入費などに使われ、国が全額負担する。

モデル事業は地域住民の生涯を通じた「かかりつけ薬局」を支援することも目的。健康支援から終末期医療まで対応できる薬局の機能強化も図りたい考えだ。

国の試算によると、薬の適切な管理によつて約475億円のうち約424億円の削減につながるとみられる。今回の県事業では「おくすりバッグ」を利用者に渡して、家にある飲み残り薬を回収。適切な服用を促す。

平成26年10月20日(月) 琉球新報

健康フェアもにぎわう

「ひやみかちなはウオーク2014」に関連し、「なは健康フェア」が19日、沖縄セルラーパーク那覇で開かれた。食育、運動測定、母子保健など分野ごとに五つのコーナーが設けられた。那覇地区薬剤師会、県栄養士会など健康に関わる団体から職員が派遣された。薬の相談のほか、血圧・体脂肪測定、歯の健康相談などがあつた。ウオーキングを終えた人が足を運び、専門家の助言を受けながら自分の健康状態をチェックしていた。



食育アースでは、日ごろ食べている献立を示してもらい、栄養成分や熱量を測定し、栄養士らが説明した。

血圧を測定するコーナーなどが設けられ、大勢の参加者でにぎわった「なは健康フェア」19日、沖縄セルラーパーク那覇

平成26年11月30日(日) 沖縄タイムス

●.....● 県女性の翼.....⑦

シンガポール研修報告

前演 朋子

シンガポール医療に学ぶ

今回、沖縄県薬剤師会女性薬剤師部会からの推薦で「女性の翼」に団員として参加することになった。こみ一つ落ちないきれいな街、ITが進み、独自の英語 Singlish を話す国というのが出発前のシンガポールのイメージであった。

実際に現地での研修が始まると、沖縄の抱えるさまざまな問題と類似した問題への取り組みが多く、すべての面で沖縄が



参考になれる国であると感じた。

薬剤師、学校薬剤師として興味深かった施設について報告したい。

医療面では、IT化が進むシンガポールでは、自宅に居ながら、医師の診察を受けることができる環境を、自宅と医療機関(医師)をPCでつなぐことで実現している。PCカメラを使って診察を受け、さらに自宅でPCに運動した検査機器を使用し測定することで、簡単な検査データ(血圧、脈拍、血糖値など)を医師へ送信することができる。診察後に書かれた処方箋は自宅でプリントアウトし、それを持って薬局で薬を受け取ることができる。

離島を抱える沖縄でも離島の診療所と総合病院を繋ぐ設備があるが、自宅と総合病院

医療のIT活用 感銘

を直接結ぶという考えに進んだ発想であり、沖縄での医師不在の遠隔地や離島の医療問題の改善のヒントになると思った。

学校でのIT化も進んでおり、教室では着席するだけで出席が確認でき、電子黒板と同じ画面を、生徒の座る卓上に設置した画面でも見ることが出来る。さらに卓上の画面で作業を行い、生徒は授業で出された問題を卓上の画面で解き、その結果は先生に送られる。大型iPadが卓上に

組み込まれたようなイメージである。

現在モデル事業として、総合病院・施設・学校・施設で実施されているとのことだ。

このような進んだ環境の一方、衛生面では、手洗い、うがい等が習慣化されていないと現地の方から教えてもらった。学校現場への訪問があれば、日本のように医師、歯科医師、薬剤師が学校での保健、衛生に関わっているのが聞いてみたかった。ほか、水問題では、マレーシアなどから水を輸入しており、水問題は深刻で貯水池の確保のほか、海水の真水化、リサイクル水の利用など沖縄の水不足の改善にもつながるような事業が進んでいた。

老人問題では、国として家族のある老人の扶養は家族の義務となっているが、被扶養家族のいない老人には専用のマンションがあった。周辺では食堂や集い場があり、街での見守りの体制ができていた。様子見、昔の沖縄に戻れば解決という感じである。シエルトーを運営する女性団体訪問では、全ての活動資金を寄付や運営するカフェ等の収益で賄っている。(那覇市)

日本薬剤師会からのお知らせ



JPALS

クリニカルラダーレベル5 更新に向けてのご案内

「過渡的認定」を申請され、
現在クリニカルラダーレベル5の方へ
まもなく更新時期です!!

「過渡的認定」を申請され、現在クリニカルラダー(CL)レベル5になられている方へのお知らせです。
CLレベル5の認定期間は、平成27年3月31日を以て期限を迎えます。
JPALSは、学習したことを記録し、評価を行い、学習計画へつなげていくことを一番の目的としており、
実践記録を本会へご提出いただくことを更新の要件としております。

つきましては、実践記録をご提出いただき、CLレベル5の更新(昇格、維持)に向け、ご準備をお願いいたします。

なお、当初の予定とは異なり、平成27年3～4月にかけて実施予定でありました、
CLレベル6へ昇格するためのテストは延期いたします。

詳細は下枠内、裏面の参考資料をご確認ください。

《CLレベル5の更新》

認定期間の平成24年4月1日～27年3月31日の間に、トータルで実践記録18本以上を日本薬剤師会に提出していること。(年度ごとに6本以上等の提出本数の縛りはありません)

◆実践記録18本以上のご提出要件を満たされた方：

平成27年3～4月にかけて、システム上で更新手続き(申請および申請料のお支払)をしていただきます。

過渡的認定申請時と同等の費用が必要となります。

更新手続きを期日(詳細未定)までに完了されない場合、自動的にCLレベル4に降格となります。

日薬会員：5,000円(税別)、一般：20,000円(税別)

◆実践記録18本以上のご提出がない場合、自動的にCLレベル4に降格となります。

降格された場合は、年度内に実践記録6本以上を提出の上、年度末に実施するCLレベル5への昇格テストを受験し合格すればCLレベル5に昇格できます。

《CLレベル5の更新後》

上記の更新手続きを終えた方は、CLレベル6への昇格にチャレンジいただけます。「(仮称)総合薬剤師試験」を受験し、合格した方をCLレベル6とする予定です。詳細は、裏面の参考資料をご確認ください。

なお、CLレベル6に昇格するための受験は義務ではありません。CLレベル5の維持、更新の継続(3年更新：実践記録18本以上提出)という選択肢もあります。CLレベル5を維持していればいつでも受験(試験実施は年1回の予定)ができますので、3年ごとの更新は必ず行ってください。なお、更新ごとに前述と同等の費用が必要となります。

《CLレベル6への昇格後》

CLレベル6に昇格した後も、更新の継続(3年更新：実践記録18本以上提出)をお願いいたします。
更新ごとに前述と同等の費用が必要となります。

➡➡➡ 裏面もご覧ください。

本件に関する問い合わせ先：日本薬剤師会JPALS サポート係 jpals-support@nichiyaku.or.jp

日本薬剤師会からのお知らせ



【参考資料】

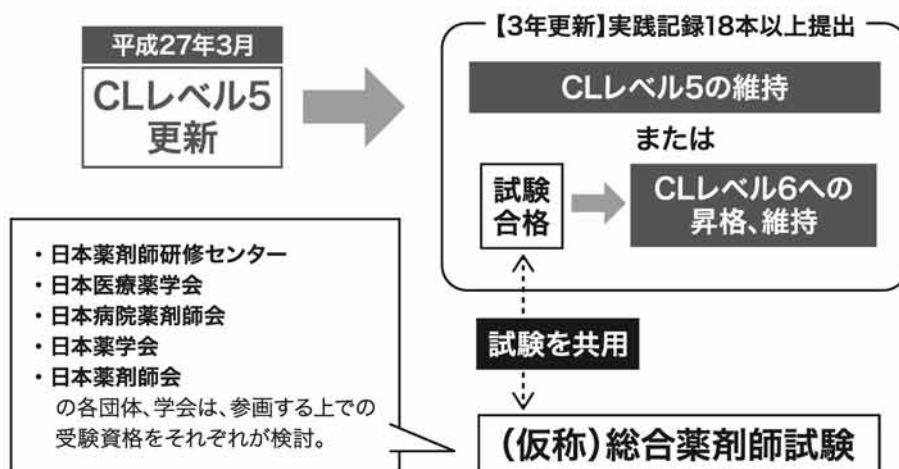
薬学関係5団体での連携による 共通の評価の仕組みの検討経過について

平成24年12月より、日本薬剤師研修センターが中心となり、日本病院薬剤師会、日本医療薬学会、日本薬学会、日本薬剤師会の全5団体が共同で、新たな共通の評価の仕組みを構築することに合意が得られ、検討が開始されました。その後の検討はワーキンググループ（以下WG）に引き継がれ、平成25年5月から26年1月にかけて5回行われたWGは、第3回目から厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）である、平成25年度「6年制薬剤師の輩出を踏まえた薬剤師の生涯学習プログラムに関する研究」の分担研究「新たな薬剤師プログラムの構築に関する研究」として進められました。5回のWG開催を経て平成26年3月に出された研究報告書では、「総合薬剤師とでもいうべき薬剤業務全般に精通し、かつ他の薬剤師に対して支援等を行える薬剤師」を評価する共通の仕組みを構築すること、共同で作る評価の仕組みにおける試験の受験資格については、実務経験年数は統一する方向とし、それ以外は各団体が設けている認定制度等の状況を勘案し各団体がそれぞれ定めること、などについて提言されており、現在、これをベースに5団体で実現に向けた協議が継続されています。

CLレベル5以降について

前述の通り、5団体が共同で構築する共通の評価の仕組みへの参画要件は各団体がそれぞれ定める方向で検討されているため、JPALSはCLレベル5で参画する予定です。それに伴い、平成27年3～4月に予定していたCLレベル6への昇格テストは延期し、5団体にて実施を検討中の「（仮称）総合薬剤師試験」（実施時期、実施団体、実施方法等は決まり次第公表。）を共用する方向で調整いたします。試験の受験資格はCLレベル5を維持、更新できた方に付与し、合格者はCLレベル6とする予定です。

〈想定されるイメージ図〉



薬連だより

国会レポート エボラ出血熱の脅威



文部科学副大臣・参議院議員 藤井 もとゆき

秋も深まり、紅葉前線は北から南へ、山から里へと下ってきています。一方で初霜や初冠雪の便りも届き、札幌や函館では今シーズン初の降雪も観測され、冬間近を思わせられます。日本のプロ野球は、ソフトバンクが阪神を破り、3年振り6度目の日本一に輝き、今季限りで辞任する秋山監督の花道を飾りました。海の向こう米大リーグでは、サンフランシスコジャイアンツがワイルドカードからワールドシリーズを制し、見事8回目の世界一に輝きました。ロイヤルズの青木選手の夢は一步届きませんでした。来期の日本人メジャーの活躍に期待したいと思います。

さて、エボラ出血熱に関連するニュースが連日続いています。今年3月にギニアでの集団感染が報告されたのを皮切りに、住民の国境越えの移動により隣国のリベリア及びシエラレオネに拡がり、これらの西アフリカの国々を中心に、その流行は一向に衰えることなく、依然として拡大が続いています。10月29日に公表されたWHOの調査結果では、感染患者は疑いの例も含めて一万三千人を越えたとのこと。前回発表（25日）から患者数は三千人以上も増え、死亡者は5千人近くにも上っています。ここにきて、アフリカ以外での発症が報告され、スペイン、米国では二次感染も確認されたことが報道されています。最大都市ニューヨークでも、国境なき医師団としてギニアで活動し帰国した医師のエボラ出血熱感染が確認され、感染拡大の懸念

が高まり市民に不安が広がっています。それぞれの政府は感染拡大の防止に最大限の努力を重ねています。

日本では、これまでのところ発生の報告は無いものの、米国等での状況等を踏まえ、政府は入国審査と連携した検疫実施の徹底など水際作戦の強化、万一に備えた医療供給整備体制の再確認など、その発症防止に万全の体制で臨んでいます。また、厚生労働省は、24日に開いた「一類感染症の治療に関する専門家会議」において、ファビピラビルなどの未承認薬・適応外薬の使用は倫理的に許容されるとして、その使用を認める判断を示しました。

今国会には、感染症法の改正が提案されています。この改正感染症法では、政令により暫定的に二類感染症として取り扱われている鳥インフルエンザ（H7N9）及び中東呼吸器症候群（MERS）を二類感染症に位置付けること。都道府県知事は、全ての感染症の患者や医療機関に対して、検体の提出に応じるよう要請できること等が規定されています。国内でのデング熱患者の発生など、昨今の感染症発生の状況を踏まえたものとなっています。

いつの時代になっても、人類と細菌・ウイルス等との戦いは終わることはありません。改めて、ワクチン等による感染予防の大切さ、感染症治療薬の開発の必要性を意識させられます。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

平成26年度 第1回定例理事会 議事概要

日時：平成26年4月12日(土) 18:30～20:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：吉田洋史

理 事：田場英治、江夏京子、山里 勇、亀谷浩昌、宮城敦子、前濱朋子、新垣秀幸、
下地 仁、幸地良信、笠原大吾、外間惟夫、村田美智子、川上善久、我喜屋美香、
石川恵市、成川賢一（北部地区代理）、川満直紀（那覇地区代理）

事 務 局：大城喜仁

<欠席者>

理 事：松山朝雄、玉城純、姫野耕一

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等（3月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>

(2) 第4回在宅医療に関する講習会 3月9日（日）県薬 <資料配布>

笠原理事より、次の報告があった。同講習会は例年100余名の参加があるが、今年は72名で少なかった。講習会当日は、那覇地区、北部地区でも同様な講習会があり分散されたと思われる。基調講演を佐賀県薬剤師会の松雪幹一先生に「薬局が地域の在宅医療に関わるために」と題してご講演いただき、最後に「在宅に関する各地区・支部の取り組み」のパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、在宅に取り組んでいる各地区・支部の若い先生方をパネリストに起用した。

(3) 会館名標示看板完成設置 3月10日（月）県薬

神村会長が次のとおり述べられた。会館名の標示看板ということもあり、掲げる場所の検討が何度もあったが、最終的には会館エントランス前の琉球石灰岩紋様の通路壁に掲げることで落ち着いた。特に書体については、記念看板に相応しい物としたいことから、本会でお馴染みとなった県人書家の豊平峰雲氏へ筆依頼することにした。豊平氏は、筆依頼を快く引き受けて頂いただけでなく、同看板の設置の際にまで立ち会って頂いた。看板の材質がアルミニウム製ということもあり、気になる書体の流れ等の最終確認もされたが、「大変良い製作をしている」とご満悦だった。あと、豊平氏が、去る沖展に出展した書の大作「医食同源」を薬剤師会に寄贈すると言われていたので楽しみである。

(4) 豊見城中央病院薬局長との打ち合わせ 3月10日（月）豊見城中央病院

田場専務理事より、豊見城中央病院の橋本孝夫薬局長に会営薬局とよみの現況報告と、土・日院内調剤の要望を申し伝えてきたが、同病院も薬剤師が不足しており、診療体制を変えるのは難しいとのことであったと報告された。

(5) 会計監査 3月11・24・27・28日（火・月・木・金）4月9・12日（水・土）県薬

(6) 平成25年度第3回地域医療支援病院運営委員会

3月12日（水）ロワジールホテル&スパタワー那覇

(7) 平成25年度開放型病床登録医総会 3月12日（水）ロワジールホテル&スパタワー那覇

(8) 地域連携懇親会

3月12日（水）ロワジールホテル&スパタワー那覇

神村会長より、豊見城中央病院の地域連携登録医・診療所の総会的な集会有り、特別講演、懇親会、医療関連機関祝賀会という日程であった。この集会の会議の委員を担っているが、委員の構成は医師会代表、薬剤師会代表、地区薬剤師会代表、そして豊見城市長、糸満市長、消防署署長、一般消費者団体の代表など、多種多様のメンバーで構成されていると述べられた。

(9) 医療保険委員会

3月12日（水）県薬

<資料配布>

(10) 沖縄県薬物乱用防止協会第2回理事会

3月13日（木）チュラ琉球

<資料配布>

前濱理事より、同理事会において、薬物乱用防止指導員が減っているので、薬剤師会から指導員を選出して欲しい。また、指導員に説明する資料の作成にも協力してほしいと言われたとの報告がなされた。

(11) 沖縄県医療審議会分会

3月14日（金）県庁

神村会長が次のとおり述べられた。同会議は、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、弁護士協会での医療審議である。診療所は19床以下と定められているが、沖縄県の病床数は不足気味で、特に産科の病床が不足している。診療所から病床数を増設してほしいとの申請があり、少子化問題の観点からも認めざるを得ないとのことで、この申請を特例的に認めることになった。何床あるかチェックし、地域性も鑑み判断していく。総合病院からも病床数を増設したいとの要望がある。実際に不足であるとの統計も出されている。許可が得られるのは救急で最高10床までであり、今回は産科の病床において認められた。

(12) 九州厚生局沖縄事務所、県との打ち合わせ

3月17日（月）県薬

吉田副会長より、同打ち合わせの報告が述べられた。昨年度、同事務所の指導官の退官があり、当会の仲真良重氏が指導官に就任した。調剤報酬改定等説明会及び集団指導の九州厚生局沖縄事務所との共同開催について、次年度以降、共同での開催が難しくなるかもしれない。

(13) 長寿復活県民健康づくり運動推進県民会議（仮称）準備会（第3回）

<資料配布>

3月17日（月）自治研修所

田場専務理事より、4月10日に開催される健康長寿おきなわ復活県民会議での県民宣言案と会議設置要綱について話し合いがあり、県民宣言については、宣言内容を分かり易くできないかとの提案があったという報告がなされた。

(14) 沖縄県在宅医療連携体制整備事業準備委員会

3月17日（月）沖縄都ホテル

<資料配布>

江夏常務理事より、次の通り報告があった。医師会から同事業準備委員会にオブザーバーとしての参加要請が、薬剤師会、栄養士会、ソーシャルワーカー協会にあり、当会から私と笠原理事、あにも調剤薬局の荒井千春氏が参加した。在宅医療連携体制整備事業については、各地区で取り組んでいるが地域差がある。北部地区は地域でしっかり連携がとれてまとまっておりシステム構築も進んでいる。中部地区は何回か準備会議が開催されているとのことだが、地域的に広く、大人数で取り組んでいることからワーキンググループで取り組んでいるとのことだった。南部地区は取り組みが遅れているとのこと。おきなわ津梁ネットワークの今後の展開として、患者の承諾を得ながら情報の共有化が計画されているが、平成27年から平成28年頃までには構築したいとのこと。情報の共有化について薬剤師会側からの要望を、病名や検査値等の情報を得たいと発言してきた。今後は、情報の共有化に盛り込んでいきたい事項を考慮していくとのことであった。

(15) 平成25年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会

3月18日（火）沖縄県総合福祉センター

吉田久子氏が参加した。

(16) 会営薬局とよみについての緊急会議

3月19日（水）、4月7日（月）県薬

報告事項（34）、（38）が同関連事項であることから、まとめて報告する。

週に2～3回、会営薬局とよみに勤務している田場専務理事より、最初に、会営薬局とよみの現況報告がなされた。薬剤師が、3月に1名退職、4月に1名退職予定、5月にも2名が退職予定、1名が産休で9月より出勤予定という厳しい状況にあり、存続が危ぶまれている。次に、薬剤師確保のための取り組み状況が報告された。求人広告を日経D I、朝日新聞、沖縄タイムス、琉球新報に掲載している。もちろん、当会ホームページにも掲載している。あと、会営薬局とよみの隣の薬局に休日開局の依頼をし、豊見城中央病院の事務局長にも面会してきた。

神村会長からも現況と対策について述べられた。6名いる薬剤師の内、4名が辞めるとのことで6月から開局が危ぶまれている状態である。薬局に1日180名近く訪れる患者と病院側に迷惑をかける。緊急的に対応し努力しているが、全国的に薬剤師が不足している世情、厳しい状況にある。この現況を踏まえ、豊見城中央病院の事務局長には、5月の連休、日曜、祝祭日に院内投薬ができないかお願いしてきた。調整して検討するとのことだった。6月からの営業自体も厳しい状況にあることも伝えた。FAXコーナーの運営強化をしていくことについても話してきた。強化するのは我々薬剤師会側だが、患者が会計を済んだら病院側からFAXコーナーに行くよう促してほしいと要望してきた。FAXコーナーの強化と共に受入薬局の協力も必要。同FAXコーナーを運営している南部地区薬剤師会には、ご協力いただきたい。

南部地区の役員をしている新垣理事と川上理事より、次の発言、意見等があった。同病院のFAXコーナーは南部地区薬剤師会が運営しているが、そのような連絡や相談は全く受けていない。今までも同FAXコーナーの運営には大変苦勞してきた経緯があり、県薬からの協力もほとんど無かった。会営薬局とよみが危機になったからと、南部地区薬剤師会役員に一切の連絡も無しに同FAXコーナー運営のあり方を勝手に変えられることに不満である。

前濱常務理事より、同FAXコーナーを強化することが、南部地区の薬局にもっと処方せんを行き渡らすことができ、これが本来のFAXコーナーのあり方だと思う。会営薬局とよみの応需枚数が減ることを目的にしているが、この危機的状況乗り越えるためにも協力してはどうか。

神村会長より、この件について各地区代表理事から意見を求めた。

江夏常務理事より、中部地区薬剤師会は常にFAXコーナーの状況を把握しながら運営している。病院によって大変活用されているFAXコーナーもあれば、南部地区と同じように施設の隅に設置され経営不振のFAXコーナーもある。役員で常に運営強化の話しをしているが、運営維持のためにはFAX送信料を値上げする検討もされていると述べられた。

亀谷常務理事より、那覇地区薬剤師会も運営には苦慮しており、現実的には県薬が運営する方が良いとも思うが、現行では各地区薬剤師会が運営することになっているので責任をもって運営している。地区での運営が困難であるとか、病院での設置位置等の交渉が難しいことがあれば、県薬の協力を得て運営すれば良いことであり、今回、神村会長が南部地区薬剤師会へ協力を求めていることは全く順当なことだと思ふと述べられた。

成川氏より、FAXコーナーを強化することで会営薬局とよみの負担は軽減するのか。隣の薬局は休日については協力してくれないのか、との質問があった。

神村会長より、FAXコーナーの強化には面に分散することも考慮しているので、その分の負担は減る。隣の薬局とは綿密に話しあっており、今後も協力の依頼をしていくとの回答がなされた。

成川氏より、北部地区薬剤師会ではFAXコーナー設置の病院において患者が会計を済んだ後にFAXコーナーへ案内してもらっている。FAXコーナーと備蓄センターは公益事業として位置づけし運営している。また、離島から船で来る患者には、薬を持って帰らずに、船で島に戻ったら島の薬局でもらえることから大変好評であるというメリットが述べられた。

我喜屋理事より、会営薬局とよみの今までの経緯を客観的に聞いていたが、幾度か現場を視て大変な事態になっていると実感した。言い方が悪くなるが、ほったらかしにしていたと思う。理事はもとより薬剤師会全体の問題であり、責任がある。FAXコーナーを強化することが問題の解決になるとは思えない。まずは、常勤職員の中から責任者を一人設置した方が良い、と述べられた。

田場専務理事より、5月の連休は協力体制が整って、どうにか乗り越えることができる。会営薬局医療センター前に入っている輪番薬剤師への呼び掛けで1名の薬剤師から協力できるとの回答を得ている。引き続き、派遣会社、紹介会社の利用、FAX一斉同報による協力の呼び掛け、薬学ゼミナールへ求人票の掲示依頼をする。また、県薬務疾病対策課に救急体制時の薬局管理薬剤師の兼務について陳情に行き、沖縄県病院薬剤師会にも応援依頼の文書を送付する、と述べられた。

(17) 平成25年度医薬分業指導者協議会 3月20日(木) 厚生労働省 <資料配布>

吉田副会長より、次のとおり報告があった。田場専務理事と県の担当者の3名で出席した。「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点の推進事業」について、平成26年度予算案として2億3927万7千円が各都道府県に500万円ずつ捻出されていることが主な話題となっていた。

(18) 平成26年度調剤報酬改定等説明会及び集団指導 3月23日(日) 浦添市てだこホール
3月27日(木) 県薬・宮古地区薬剤師会事務所・大濱信泉記念館

吉田副会長より、3月23日に浦添市てだこホールにおいて、平成26年度調剤報酬改定等説明会及び集団指導を開催し、3月27日には当会館と宮古、八重山の両地区においてテレビ会議システムを利用した調剤報酬改定説明会を中継配信したという報告がなされた。

(19) 平成25年度第5回広報委員会 3月24日(月) 県薬 <資料配布>

宮城常務理事より、次のとおり報告があった。第7回熟年の集いの開催が8月3日に決定した。これは、事務局の大城係長と集い代表の金城保景先生が相談して決定された。本会報誌への評価について、埼玉県薬剤師会より高い評価を受け、特に女性薬剤師部会の狩俣イソ氏が執筆している連載記事「暮らしの中の薬草学」を高く評価していた。他県の人に本会報誌が閲読されていることに広報委員もモチベーションが上がっていると述べられた。

(20) 管理者会議 3月25日(火) 県薬 <資料配布>

(21) 平成25年度地域・在宅医療等担当者全国会議 3月26日(水) 日薬 <資料配布>

笠原理事より、次のとおり報告があった。同全国会議において、日本薬剤師会地域・在宅医療委員会の活動状況について、次の3項目について特に話し合われた。(1) 在宅療養推進アクションプランの推進方策、(2) 無菌調剤室の共同利用に関する検討状況、(3) 薬剤師に

よるフィジカルアセスメントに関する検討状況。沖縄県は、(1)については、地域の多職種連携、在宅支援ができる薬局のリストアップ等を進めてきた。(2)については、平成25年11月に会営薬局うえはらに無菌調剤室を設置し、会員にはFAX一斉同報などで共同利用ができることを周知し、説明会や研修会を行っていく。(3)については、沖縄県にはクリニカルシュミレーションセンターという立派な施設があり、既に利用している。他県ではあまり進んでいないようだった。日本薬剤師会が、1月に開催したフィジカルメント講習会を収録したDVDを完成させた。これを利用して伝達講習をするようにとのことなので、早速に計画して各支部毎に伝達講習会を開催していきたい。

(22) **フィジカルアセスメント講習会についての打ち合わせ** 3月27日(木) 県薬 <資料配布>

笠原理事が次のとおり述べられた。クリニカルシュミレーションセンターを利用した同講習会は、平成25年度を第1期とし、それが先日終了した。シミュレーターを2体も購入することができ、平成26年度も積極的に行っていきたい。

(23) **平成26年度調剤報酬改定等説明会(テレビ配信)**

(24) **平成26年度実習薬局施設認定と指導薬剤師研修会** 3月28日(金) 県薬 <資料配布>

我喜屋理事より、報告事項(31)も兼ねて、次のとおり報告をされた。平成26年度は35名の実務実習薬学生が来る予定である。当初、40名と報告したが、進級ができなかったり、受入薬局が遠いという理由で、最終的にマッチングできたのは35名。新規の受入薬局もあるが、2名以上受け入れる薬局が7薬局もあり、今までになく積極的になってきている。指導薬剤師も積極的に養成研修会に参加しており、大変良くなってきている。ちなみに、平成25年度の九州9県の薬学生の受け入れは842名で、沖縄県はその内22名。平成26年度は九州9県で薬学生の受け入れ962名と確実に増えてきている。

(25) **学校環境衛生検査技術講習会** 3月29・30日(土・日) 東邦大学習志野キャンパス <資料配布>

前濱理事より、同講習会は若手リーダーの育成を目的としているので、小禄病院の若手薬剤師である久高祐一氏に参加してもらった。伝達講習会も開催する予定であると述べられた。

(26) **沖縄県薬剤師会第69回臨時総会** 3月30日(日) 県薬

(27) **薬務疾病対策課訪問** 4月1日(火) 県庁 <資料配布>

吉田副会長より、次のとおり報告があった。災害時における指定地方公共機関指定と災害協定について、県防災危機管理課と話し合おうと同課を訪問したが、主務管轄課は薬務疾病対策課とのことで、改めて薬務疾病対策課と話し合うことになった。また、会営薬局とよみの件についても、管理薬剤師の薬局間の兼任について、薬剤師不足の世情を理解していただき兼任できるようにしてほしい旨お願いしてきた。

(28) **沖縄県保健医療部より来訪** 4月1日(火) 県薬

(29) **沖縄健康企画訪問** 4月3日(木) 沖縄健康企画

(30) **青年部会役員会** 4月4日(金) 県薬 <資料配布>

石川理事より、次のとおり報告があった。例年開催されている学術研修委員会主催の新任・新人薬剤師研修会では毎年、青年部の紹介枠を設けていただいているが、同研修会に参加する実務実習期間中の薬学生に対して、研修会の終了後にUターン啓発の懇談を企画したい。この懇談における講話は、以前に北陸大学でUターン・Iターン啓発講話をし、学術研修委員会委員でもある川満直紀青年部会副部会長を予定している。既に、学術研修委員会委員長である外間理事には同企画の説明をしており、実現に向けて準備を進めている。

(31) 第1回九州山口地区薬剤師会 薬局実務実習受入調整機関運営委員会

4月5日(土) ホテルセントラータ博多

(32) 徳島文理大学より来訪

4月9日(水) 県薬 <資料配布>

我喜屋理事が次のとおり述べられた。徳島文理大学香川校の学生を実務実習で今期初めて受け入れることになっている。同大学が120周年を迎えるということ、そして6名の学生が実務実習でお世話になるということの挨拶の来訪であった。

(33) 健康長寿おきなわ復活県民会議

4月10日(木) 県庁

神村会長より、次のとおり報告があった。同会議には医療、保険、企業の73団体が長寿県おきなわを復活させようと長期30年計画で長寿日本一の奪還を目指し、多様な取り組みを企画しているが、復活の兆しどころか悪くなっているのが現状。県も予算を組んでいるが、実際には宣言文を掲げているだけで、特別に企画、運営しているとは思えない。薬剤師会、薬局・薬店、薬剤師ができることは何か。健康づくりの拠点に薬局・薬店があることを県民に認識してもらうために、調剤のみではなくOTC薬や健康食品を置き、健康相談もできるようにしてほしいと、会員に周知していきたいと述べられた。

(34) 豊見城中央病院訪問

4月10日(木) 豊見城中央病院

(35) 平成26・27年度代議員選挙結果の告示について

<資料配布>

日本薬剤師会第34期(平成26、27年度)代議員に、沖縄県から神村武之会長と吉田洋史副会長が当選した。

(36) JPALSインストラクター養成講座開催のお願い

<資料配布>

亀谷常務理事が次の通り述べられた。JPALSのインストラクターを養成する講習会を開催するよう日薬の全国生涯学習担当者会議の中で話されていた。各地区でインストラクターを設置するために、5月以降、インストラクター養成講座を開催する予定である。早速、5月16日に八重山地区、5月17日には宮古地区で講座を開催することになっている。同時に両地区では医療安全講習会も開催する予定。

(37) 神殿(神棚設置台)の件について

<資料配布>

以前から企画してきた神棚設置台制作の見積もりが提示されてきており、制作することで承認された。

(38) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

<資料配布>

報告事項(16)で報告済み。

(39) 会費滞納者について

神村会長より、会費滞納者は本来除名となるが、一人一人交渉して納入するよう説得していく。滞納はあるが少しずつ払っている方もいる。長期滞納者には除名勧告をせざるをえないが、理事方々からも少しでも納入するよう説得の声かけをしていただきたいと述べられた。

報告(薬連)

(1) 第3回熊本県若手薬剤師フォーラム

3月9日(日) 熊本全日空ホテルニュースカイ

土田寛子氏(りんご調剤薬局)と上原卓朗氏(宮里病院)の両名が参加された。会報に報告記事が掲載される予定である。

(2) 自民党沖縄県連 照屋守之幹事長来訪

3月19日(水) 県薬

(3) 國場幸之助氏との意見交換会

3月24日(月) 県薬

(4) 沖縄県振興セミナー「沖縄振興の在り方と新年度予算について」

3月24日（月）沖縄都ホテル

(5) 平成25年度定時評議員会

3月26日（水）スクワール麹町

(6) 自由民主党沖縄県支部連合会総務会

3月29日（土）パシフィックホテル沖縄

(7) 参議院議員 藤井基之氏（沖縄市長選挙応援）

4月12日（土）沖縄市内

(8) その他

議題

(1) 県薬学術大会日程について〔10月26日（日）〕

<資料配布>

外間理事より、今年の学術大会の開催日程について、次のとおり述べられた。昨年の大会終了後に会場、駐車場の確保にあたったが、例年、参加者が増え、駐車場の確保が難しくなっている。同大会は例年11月に開催しているが、近隣の団体の行事等が重なり、10月26日のみ駐車場の確保がされている状態。

大城係長より、追加説明があった。11月2日と11月23日を確保していたが、11月23日は九州山口薬学大会、11月2日は先の定例理事会で開催決定したHIP研究会フォーラム、12月も他団体が行事を予定していることから難しい現状である。10月26日のみ近隣一帯の駐車場が確保できた。

10月26日開催の提案が、承認された。

(2) 平成26年度「薬と健康の週間」（10月17日～23日）について

<資料配布>

大城係長が次のとおり述べた。10月17日から23日は薬と健康の週間となっており、週間中の一大イベントである「くすりと健康フェア（県民公開講演会）」が、県薬務疾病対策課、那覇市保健所との打ち合わせ会議で23日（木）の開催を要望してきている。本会から土、日の開催を要望したが、薬務疾病対策課はこの期間は県議会が開催される予定であるから避けて欲しいとのことであった。開催予定会場であるパレット市民劇場を16日（木）と23日を仮抑えしており、薬務疾病対策課から16日での開催も可能であるとの一報が入ってきている。この提案を踏まえ、後日開催される薬務疾病対策課と那覇市保健所との打ち合わせ会議にて、薬剤師会側の要望を改めて提案したい。

神村会長より、三団体という組織的な開催であることを踏まえると、平日ではあるが23日に開催せざるを得ない。ただ、近年の平日開催が参加者数の減少に繋がっていることは歴然であり、それで薬剤師会側としては土日を要望してきた。また、16日は、厚労省が定める薬と健康の週間中ではないと述べられた。

同調整会議にて、改めて薬剤師側の要望を提示するということになった。

(3) 日薬功労賞受賞候補者の推薦について

<資料配布>

神村会長より、次のとおり述べられた。同賞には今まで実績のある会員、薬剤師の資質向上に尽力した会員を推薦してきた。配布の受賞者一覧には歴代会長が名を連ねている。その中で、故藤本勝喜氏は副会長ではあったが副会長歴が長かったということと県病院薬剤師会会長も長期に亘り歴任していた功績で受賞された。今年の沖縄県薬剤師会からの推薦を来る九州山口薬剤師会会長会議に提示しないといけない。今回、松山朝雄副会長を推薦したい。理事歴27年で副会長歴が長い。県病院薬剤師会副会長も歴任しており功績は十分である。満場一致で承認された。

平成26年度 第2回定例理事会 議事概要

日時：平成26年5月10日(土) 19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄、吉田洋史

理 事：田場英治、江夏京子、山里勇、亀谷浩昌、宮城敦子、前濱朋子、姫野耕一

下地仁、幸地良信、笠原大吾、我喜屋美香、石川恵市、村田美智子、玉城純

監 事：大城桂子

事 務 局：山城英人、玉城麻希、金城みどり、前原里江

<欠席者>

理 事：新垣秀幸、川上善久、外間惟夫

監事の大城桂子先生も参加することとなり始まる前に、お目付役として頑張りますという挨拶があった。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等（4月分）及び病院別院外処方せん発行状況

(2) 沖縄県口腔保健医療センター落成記念式典・祝賀会

4月13日（日）沖縄県口腔保健医療センター

神村会長より、この医療ゾーンに歯科医師会館が建設された。障害者歯科医療治療がより充実した体制で行える施設であることが報告された。

(3) 会計監査

4月14・17日（月・木）県薬

(4) 豊見城中央病院との打ち合わせ

4月15・5月8日（火・木）豊見城中央病院

(5) 「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」会議

4月15日（火）県薬

笠原理事より、国から一都道府県あたり、5,091,000円を基準額として健康情報拠点推進事業に対し助成金が交付される。保健福祉委員会と開局委員会との合同で委員会を開いて国が示された事業メニューより2つを選定した。1つは薬の飲み方や使い方など医薬品の適正使用に関する相談で、残薬整理をする。鹿児島県では、お薬バッグ事業といわれ、患者にお薬バッグを提供して残薬を回収して適切な服用につなげるということ。もう一つは検査機器を用いて食生活、運動習慣指導等を行う健康サポート事業であり、最近では臨床検査等も薬局でできるようになった。検査機器、血圧計と体脂肪計で測定をした後に肥満などの食生活と運動の改善の指導を行う。薬局で案内するパンフレットの作成も行っていく。事業応募書をもとに収支予算案を県の薬務疾病対策課に提出した。スケジュールとしては今年度、単年度の事業となるため、採択されても実際の事業は9月、10月に県の補正予算になり、実質3ヶ月～4ヶ月間の事業となる。予算がおり次第、すぐにとりかかれるように考えていることを報告。

神村会長より、この件は全国の各県に約500万円の予算が下りるので、確実に実施していかないといけないものであり、沖縄県だけができなかったとならないよう、積極的に取り組むようお願いされた。

(6) 会報取材

4月17日（木）沖縄療育園

宮城理事より、4月17日（木）に沖縄療育園の会報取材報告があった。エクセルを利用し、残薬処理の工夫・有効利用、発注の仕方などの情報が得られたので、次号を楽しみにして下さいと報告をされた。

(7) 日本産業カウンセラー協会より来訪

4月17日（木）県薬

田場専務理事より、一般社団法人日本産業カウンセラー協会が来局され、協会ではJ A I C Oの聴き方教室ということで、1名、基本3,000円の料金で2～3時間、定員20名程度で研修行っている。内容は「傾聴の基礎知識、傾聴体験、相手の気持ちを理解等、期待できる効果としてコミュニケーションがスムーズに出来ます」等など説明があった。当会では講師派遣で講演会の形式で、2～3時間の土、日研修となることを提案したと報告された。

(8) 沖縄県雇用政策課より来訪

4月22日（火）県薬

前濱常務理事より、学校への講師派遣依頼があり、沖縄県の主要な産業界として、本会は医療・福祉産業に分類される。単に薬局に依頼するのではなく、各業種団体として、講師派遣が行われる。本会としては医療団体から職種別に講師を集めて医療全体として講演することを提案した。また、講演資料として、薬剤師職能についての児童生徒向けパンフレット作成についても提案したと報告があった。

(9) なごみ会実行委員会

4月23日（水）沖縄県医師会

笠原理事より次の報告があった。例年どおり、各団体のブースプログラム、必要スペース、ステージイベントなどを昨年並みの企画で提出を考えている。B L S（一次救命処置）シミュレーターも3体購入しており、医師会が企画しないのであれば県薬が取り組みたい。前回のキャッチコピーは「いつまでも身体いきいき健康づくり」だった。今年は新たにキャッチコピーを募集する。提出の締め切りが来週中でアイデアがあったら報告いただきたい。

(10) 平成26年度学校薬剤師部全国担当者会議

4月24日（木）日薬

前濱常務理事より、主な内容は平成25年度の事業報告と平成26年度の事業計画案についてで、日薬の会長も変わり、学薬部会のメンバーも交代ということで、今年度事業が実際に動き出すのは10月頃になると報告された。講演もあり、文科省の北垣先生が学校薬剤師の公的地位と学校給食センターの検査について話された。今後沖縄県の教育委員会と給食センターの検査にどのようにかわれるか笠原理事と調整中との報告もあった。

(11) 第9回スキルアップ研修会

4月24日（木）県薬

(12) 沖縄県情報産業協会より来訪

4月25日（金）県薬

神村会長より、県医師会が中心となっている患者情報共有するシステムの説明に沖縄県情報産業協会会長が来訪した。薬剤師側の知りたい患者情報として検査結果、病名等を提示した。また、今後医師会と十分話し合っていきたいことを伝えたことが報告された。このシステムは津梁ネットワークシステムのことであることが述べられた。

(13) 那覇市保健所訪問

4月28日（月）那覇市保健所

田場専務理事より、薬剤師会の入会案内パンフレットを那覇市保健所をはじめ北部、中部、南部保健所に設置させていただいたことが報告された。

(14) 新たな財政支援制度（基金）に係る説明会

4月30日（水）県庁

議題4にて報告。

(15) 第1回九州山口各県薬代表者会議

4月30日（水）福岡県薬剤師会

報告(16)と関連して報告。

(16) 九州山口地区薬剤師会代表者会議並びに薬局実務実習受入調整機関評議員会

4月30日（水）福岡県薬剤師会

神村会長より、吉田副会長と参加。最近の日薬の動向としては、会長が山本信夫氏に変わった。そして我々の仲間である日薬副会長・日薬連盟の小田利郎氏が亡くなったのは非常に悲しい。彼程の政治力を持ち、人脈や行動力も備わっている人が今後出てくるのかと本当に惜しい人材だったと述べられた。

日薬賞、功労賞の推薦について日薬賞の2名、功労賞の2名の推薦が各々あった。日薬賞は熊本県の佐伯順一氏を九州ブロックから推薦するので、佐賀県の高祖氏は次回推薦ということになった。功労賞については沖縄県の松山朝雄氏と熊本県の日永田氏の2人が推薦されたが、全員一致で沖縄県の松山朝雄氏を推薦することに決まった。

九山会費については、会員薬局数割で各県各々試算され、沖縄県は276,500円で試算。九州山口地区実務実習受入機関についても収支決算書の報告があり、指摘事項もあったが、了承された。

第76回九州山口大会は長崎県で11月23、24日に長崎県ブリッジホールで開催することが報告された。

続けて吉田副会長より、学校薬剤師ブロック会議が8月2日佐賀県開催予定であると、学校薬剤師部会で検討されていたのですが、九州山口各県の会長が把握しておらず、再度調整することになった。佐賀県の会長も話を聞いていなかったとのことである。ケンコーコムが開発した「ヨヤクスリ」とは、処方箋をスマホ等で写真を撮ってインターネット経由で薬局に送って調剤してもらうというFAXのような機能で、登録制ではなく、全国の薬局を無許可で登録してどこの薬局でも送れるというサービス提供である。沖縄県にその業者からの案内はまだきてないと思うが、九州各県ではきている様子である。質問等は電話で対応しないで回答は文書でもらうようにし、情報を一元化したいと報告された。

(17) 沖縄県薬業連合会会計監査

5月7日（水）県薬

(18) 日薬災害対策委員会

5月9日（金）日薬

吉田副会長より、主に6月8日（日）に開催される全国災害対策会議について話し合われた。各県の災害対策委員と事務方が参加して、BCP作成のヒントにしてもらいたいということで主にスモールグループディスカッションの形式で行われる。私と事務局山城課長で参加するという報告がされた。

(19) 監事監査

5月9日（金）県薬

山里常務理事より、大城桂子監事と伊敷幸太郎監事立ち合いのもと10時～17時頃まで監査をしていただき無事終了との報告があった。

大城監事より、伊敷監事と山里常務理事の同席のもと資料に目を通した。事業が1年間にわたる相当の資料であった。各項目について、納得のいくまで説明してもらい、正常とみなして監査を終えたと報告がされた。

(20) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会

5月9日（金）社会保険診療報酬支払基金

神村会長が参加した。

(21) TPP交渉における国益の確保を求める沖縄県民集会（仮題）

5月9日（金）豊見城中央公民館

事務局の稲福係長が参加した。

(22) 薬剤師のための在宅支援プログラム（フィジカルアセスメント講習会）について

笠原理事より、例年クリニカルシミュレーションセンターを利用し3年目となる。本年度もクリニカルシミュレーションセンターにおける一年間のプログラムに参加する機会を得た。参加者の募集を各地区にお願いしており、フィジカルアセスメント検討会の委員は私と保健福祉委員の上原幸代先生と4名で、合計6名の委員構成となったことが報告された。受講者は北部地区屋嘉比康作氏、中部地区宮本桂子氏があがっている。那覇地区は後日連絡すること。宮古地区、八重山地区は出前講習となる予定である。

(23) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

山城課長より、資料に沿って会営薬局とよみの5月の勤務状況を説明。協力薬剤師に助けられどうにかしのいでいるが、正職員の状況は、4月に1名退職し、3名となり、5月でさらに1名退職し、2名となる。休みがなく、シフトが組めないで職員は疲弊している。4月19日より豊見城中央病院、近隣薬局の協力のもと土曜日の午後は、閉めている（小分けのみ対応）。会営薬局とよみへの就職を希望していた薬剤師がいたが、本人の都合で採用叶わず希望が絶たれた。改めて理事の皆様にあらゆる面で強く協力要請された。

神村会長より、とよみの件については毎回理事会で報告している通り、月追う事に厳しくなっている。しかしながら有難いことに協力薬剤師が、週1日でもシフトに入っただけということはいずれいい。求人募集はあらゆる方法をもって公募しているが、結果が出ないために行き詰まっている。今、土曜日の午後は閉めているが、日、祝祭日も閉めざるをえない状況になっており、先日、病院、近隣薬局との打合せで強く申し入れとともに協力をお願いした。

我喜屋理事より、勤務表の作成を管理薬剤師にだけ任すと、どうしても管理薬剤師本人が無理したシフトを組んでしまうため、第三者がそれに介入しないと管理薬剤師がメンタル的なストレスになってしまう。

亀谷常務理事より、前からとよみが危機だということを聞いていたのですが、緊迫感があまり伝わらなかった。現場に行くと非常に厳しい状況にあることがわかる。理事の方は応援できないにしても是非、見学に行くことをお勧めする。システムが苦手だから応援できないのではないかと気後れする事があるが、行けばやるべき仕事は必ずある。私も仕事を終え、6時頃着いて、7時30分まで応援した。また会営薬局とよみの担当者が誰なのか、曖昧な感じがする。

神村会長より、我喜屋理事に是非とよみの担当理事として現場の声を聞き、相談しながらこの状況をのり切ってほしい。

我喜屋理事より、財務分野ではなく現場側と職員のメンタル面について引き受けることが述べられた。

亀谷常務理事より、病薬の協力も得られれば戦力になると思いますがという意見があった。

神村会長より、田場専務を通して各病院薬局長にお願いしているが、なかなか病院組織として兼務許可が出ないと回答された。

我喜屋理事がとよみ担当理事として承認された。

(24) その他

我喜屋理事より、来週から11週間、元気な薬学実習生が16名ほど入ってきます。協力依頼がなされた。

報告（薬連）

- | | |
|----------------------------|----------------|
| (1) 参議院議員 藤井基之氏 沖縄市長選挙応援 | 4月13日（日）沖縄市内 |
| (2) くわえ朝千夫氏 総決起大会（沖縄市長選挙） | 4月17日（木）沖縄市民会館 |
| (3) 日薬連副幹事長 安東哲也氏 沖縄市長選挙応援 | 4月19日（土）沖縄市内 |
| (4) 日薬連副幹事長 安東哲也氏 沖縄市長選挙応援 | 4月20日（日）沖縄市内 |
| (5) 衆議院議員 渡嘉敷奈緒美氏 沖縄市長選挙応援 | 4月21日（月）沖縄市内 |
| (6) 沖縄市長選挙打ち上げ式 | 4月26日（土）ゴヤ十字路 |
| (7) その他 | |

神村会長より、沖縄市長選挙の結果、桑江市長が誕生した。藤井基之参議院議員、日薬連副幹事長で大分県薬会長の安藤氏、そして渡嘉敷奈緒美衆議院議員が、沖縄市市長選挙の応援にかけつけていた。これだけの地方選挙に力を入れる理由は、11月の知事選挙を見据えていることがうかがえることが報告された。

議題

(1) 第70回通常総会に提出する関係資料について

山城課長より、第70回沖縄県薬剤師会通常総会当日の流れを関係資料について説明があった。午後1時から沖縄県薬剤師連盟協議員による評議員会が30分間開催され、午後1時30分から午後4時頃まで通常総会で、午後4時30分から懇親会を予定している。総会には去年同様に傍聴参加を募っている。

次に、通常総会の資料に沿って説明があり、理事の方々に再度のチェックがお願いされた。

次に、決算資料については、山里常務理事より説明された。実施事業等会計とは公益事業に当たる部分で会営医療センター前、試験検査センターと一般会計の公益事業で、それにお薬相談会も含まれる。その他の会計とは、共益にあたる部分で、会営うえはら、会営とよみ、琉大FAXコーナーなどとなっている。法人会計とは一般会計の管理費にあたる部分となっていることが前おきされ順をおってポイントの説明がされた。

山里常務理事より、新法人の会計は、複雑で税理士のアドバイスのもとで作成している。また人件費等従事割合を算出し各事業への按分や、支部活動費および各種部会活動費についても決算報告をもらい仕訳していると説明がされた。

下地理事より、宮古地区、八重山地区のように会員の少ないところは会費のみで運営するのが厳しいため支部活動費を頼りにしているが公益事業にしばらくがあると運営に支障が出てくる。

山城課長より、支部活動費は、公益事業支出を県に届出しているため、管理しないといけなくなっている。それを変更すればその限りではないため地区会長会議で各地区からの意見をもらい対応したい。総会資料については、了承された。

(2) 通常総会での代表質問の順番について

山城課長より、説明があり、抽選結果代表質問の順番が1番：那覇地区、2番：中部地区、3番：宮古地区、4番：北部地区、5番：4南部地区、6番：八重山地区と決定した。

(3) 在宅医療マニュアル沖縄版の作成について

笠原理事より、今年度は保健福祉委員会で在宅マニュアルを作成したい。マニュアルを作成用の見積をとってみた。今後交渉していきたい。マニュアル作成会のためにメンバーを選抜し在宅医療マニュアル検討会議を立ち上げたいと報告された。

(4) 財政支援制度（基金）の申請について

吉田副会長より、新たな財政支援制度に係る説明会が4月30日に県庁で開催され、調査票提出期限が5月16日で、急な依頼で期限が短かく、私と専務と事務局で検討し、「医療従事者等の確保・養成」項目で薬剤師確保事業と、「休日・夜間の小児救急医療の体制の整備」項目で、会営薬局医療センター前の赤字事業に対して申請したい。

また、医師会より4年間続いている医師会、看護協会の「小児救急電話相談」事業で相談内容には、お薬についての相談も多いとのこととぜひ薬剤師にも協力願いたいとの要請があった。会営薬局医療センター前で調剤と兼ねて対応可能であるため計画書を医師会に提出していることが報告された。

(5) 会営薬局薬剤師の給与について

山里常務理事より、現在の一般的な薬剤師の給与として38才で調剤経験12年目で、約年収530万円もらっていることを参考にして、会営薬局薬剤師の給与と比較するとまだ広きがあるため基本給1号給のアップと土、日祝開局している会営薬局とよみのとよみ手当を3万円から5万円にアップしたい旨が述べられた。

松山副会長より、退職金の積立についての質問に対し、山里常務理事より積立していることが回答された。

会営薬局薬剤師の給与について提案どおりに承認された。

また我喜屋理事より、新人の6年生は何号給からスタートするのかとの質問に対し、山里常務理事より7号給からで195,600円であると回答がされた。

山城課長より、今後年俸制も考えなければならないのではないかということで、考案資料を作成しているのでご参照下さいと説明がされた。

(6) 平成26年度「薬と健康の週間」（10月17日～23日）について

開催日は10月23日（木）、会場はパレット市民劇場。講師の選定については、挙手により、推薦順位は①今井絵理子氏 ②遠藤拓郎氏 ③法薬女子大学 ④佐藤勝氏の内容で承認された。

(7) 日薬総会への質問事項について

第83回日薬定時総会代表質問について各県薬からの質問が求められていることで提案提出の依頼がされた。

お知らせ

<県薬が会員に販売している印刷物等>

○国保総括票	25枚	1冊	100円	○お薬手帳カバー	1枚	22円
○市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円	○薬歴カード	各1枚	5円
○市町村別請求書（その2）	1枚		10円			
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円			
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円			
○処方せん	100枚	1冊	160円			

（国保（本人・家族）青色）
（社保（本人）白色）
（社保（家族）桃色）

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ 価格 税抜き12円

【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ 価格 税抜き22円

平成26年度 第3回定例理事会 議事概要

日時：平成26年6月14日(土) 19:00～22:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄、吉田洋史

理 事：田場英治、江夏京子、亀谷浩昌、山里勇、前濱朋子、宮城敦子、
玉城 純、新垣秀幸、下地仁、幸地良信、村田美智子、川上善久、
我喜屋美香、笠原大吾、石川恵市

事 務 局：山城英人、松堂恵美

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等(4月分)及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>

(2) 平成26年度一般用医薬品担当者全国会議 5月12日(月) 航空会館 <資料配布>
(43)と関連事項の為、まとめて報告。

(3) 実務実習オリエンテーション 5月12日(月) 県薬 <資料配布>

我喜屋理事より、現在16名の実習生が14薬局にて実習をしており、先日山里先生に卸の実習として(株)ダイコー沖縄にて流通現場の見学をさせて頂いた。また学校薬剤師集合研修については笠原先生にお願いしている。また、受入施設を決めるマッチング作業についての難しさについても話された。九州地区は病院がマッチングした後薬局の調整に入る。その後、他地区(九山地区以外)からの受入希望が来るが、沖縄は他地区からの実習生が多い為、受入薬局を決めるのに苦慮している。できれば同時に行いたい。また、平成29年度の実習生の増加が予想される為、九州8大学では、平成26年度2年生進級者(平成25年度入学者)の名簿を薬局実習施設へ提供することになり、各県受入に必要な数の薬局(指導薬剤師)を準備していかなければならないとの報告があった。

(4) 沖縄県健康長寿課より来訪 5月13日(火) 県薬

(5) 沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部会議 5月13日(火) 自治会館 <資料配布>

(6) 平成26年度第1回都道府県会長協議会 5月14日(水) 日薬 <資料配布>
神村会長より、協議会で日薬の「薬局グランドデザイン2014」を作るというが、日薬が示す薬局像とはどんなものなのか。薬事法改正も含めて新しいグランドデザインを作る為検討することになったとの報告があった。

(7) 故小田利郎先生を偲ぶ会 5月14日(水) ホテルニューオータニ東京

神村会長より、先日ご逝去された小田先生は、九山の会長でありまた連盟の幹事長という立場でもあったことから、麻生太郎元総理を始め、多くの参加があったという報告があった。

(8) 個別指導(2薬局) 5月15・22日・6月5・12日(木) 那覇第一地方合同庁舎

(9) 九州厚生局沖縄事務所 所長来訪 5月16日(金) 県薬

宮城常務理事より、九州厚生局から通知文を県薬会報へ掲載してほしいとの依頼があったと報告された。

- (10) 平成26年度第1回地区調整機構会議 5月16日(金) 博多都ホテル <資料配布>
我喜屋理事より今年度の実務実習指導薬剤師養成ワークショップについて、沖縄県からは福岡県の第一薬科大学で開催されるものに参加予定との報告があった。
- (11) 平成25年度医療安全講習会及びJPALS利用促進説明会 5月16日(金) 大濱信泉記念館
亀谷常務理事より、JPALSインストラクター養成研修会の一環として開催したとの報告があった。今後各地区にインストラクターを養成し広めていく仕組みを確立していきたいと考えており、各地区担当理事は、各地区でそれにふさわしい人を検討してほしい。
- (12) 平成25年度医療安全講習会及びJPALS利用促進説明会
5月17日(土) 宮古地区薬剤師会事務所(シモジ薬局2階)
(11)と関連事項の為、まとめて報告。
- (13) 那覇地区薬剤師会総会・特別講演会・懇親会 5月18日(日) 県薬
- (14) 会営とよみについて打ち合わせ 5月19・21日(月・水) 豊見城薬局・豊見城中央病院
- (15) 薬と健康の週間についての打ち合わせ 5月20日(火) 県庁 <資料配布>
- (16) 照屋弁護士事務所訪問 5月20日(火) 照屋俊幸弁護士法律事務所
- (17) 那覇市制93周年記念式典 5月20日(火) パレット市民劇場<資料配布>
前濱常務理事より、今回吉田久子先生が表彰されたとの報告があった。
- (18) 第2回なごみ会実行委員会 5月21日(水) 沖縄県医師会 <資料配布>
笠原理事より、今年のなごみ会主催県民健康フェアオープニングを真志喜中学校マーチング部にお願いすることになった。BLSについては医師会がやらない為、薬剤師会がブースを出すことになったと報告があった。
- (19) 会報取材 5月21日(水) 会営薬局医療センター前
- (20) 故宮城光吉氏より寄付贈呈 5月22日(木) 池田苑 <資料配布>
神村会長より、会員の宮城初枝先生より寄付を頂いた。先生は昨年ご逝去された宮城光吉氏の奥様であり、寄付は氏の希望だったと伝えられた。
- (21) 平成26年度健康長寿おきなわ復活にむけたキックオフイベント <資料配布>
「とりもどそう!健康長寿おきなわ」 5月22日(木) 県立武道館アリーナ棟
神村会長・田場専務理事を始め、他の理事や職員が参加した。
- (22) 保健福祉委員会 5月22日(木) 県薬 <資料配布>
(47)(51)と関連事項のためまとめて報告。
- (23) 平成26年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会
5月23日(金) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー
神村会長が参加したと報告された。
- (24) 平成26年度沖縄県薬物乱用防止協会第一回理事会 5月23日(金) 県庁 <資料配布>
前濱常務理事より、沖縄県薬剤師会が感謝状を頂けることになったと報告された。
- (25) フィジカルアセスメント検討会 5月23日(金) 県薬 <資料配布>
(51)と関連事項の為、まとめて報告。
- (26) 九州厚生局沖縄事務所 管理官来訪 5月26日(月) 県薬
神村会長より、九州厚生局沖縄事務所の管理官が来局した。薬局が健康活動の拠点となるよう、24時間体制を取るなどしてほしいと国より要望があるとのことであった。それに対して、薬剤師会、職能団体として努力する。しかし、薬剤師が不足している現状では24時間開局するのは難しい。まず、できることから始めていくと伝えた。管理官からは、現状はわかっているが薬剤師に対する期待は大きくなっていると言われたと報告された。

- (27) 三師会会長懇談会 5月26日（月）ロワジールホテル
神村会長より、三師会会長に声掛けをし、意見交換の場を持った。在宅医療については、薬剤師だけでできるものではなく、医師の協力が必要である。現在医師も不足しており在宅医療を行うのはなかなか難しいが、お互いに協力しようと話した旨報告された。
- (28) 社会保険診療報酬支払基金審査委員会 5月26・27・28日（月・火・水）社会保険診療報酬支払基金沖縄支部
- (29) 沖縄県保健医療部健康長寿課来訪 5月27日（火）県薬 <資料配布>
田場専務理事より、県の保健医療部健康長寿課から、結核患者に対するDOTSの推進について説明があった。研修会を行うとのことであり、対象地域は中部病院、琉球大学附属病院、豊見城中央病院近隣の薬局。しかし結核患者服薬支援の研修会もあるので、全薬剤師に聞いて欲しい。また、9月頃から対象地域での服薬支援が開始されると報告された。
- (30) 管理者会議 5月27日（火）県薬
- (31) 平成26年度第1回広報委員会 5月27日（火）県薬 <資料配布>
宮城常務理事より、会営薬局医療センター前を取材し、城間薬局長と新城前薬局長へインタビューした。「熟年の集い」については、今年は例年と趣向を変え、ホテルでの開催を予定している。またお薬手帳啓発用VTR制作についても話し合ったが、昨年はテレビ局の協力を受けた為、放送できる局が限定された。今年はそうならないようDVD等を作成し各薬局でも流せるようにするという計画をしていると報告された。
- (32) 在宅医療マニュアル検討会議 5月28日（水）県薬 <資料配布>
笠原理事より、これから在宅を始める薬局のためのマニュアル作成に取り組んでおり、年内の完成を目標としていると報告された。
- (33) 豊見城中央病院との打ち合わせ 5月29日（木）豊見城中央病院
- (34) 豊平峰雲氏来訪 5月29日（木）県薬 <資料配布>
神村会長より、有名な書家の豊平峰雲氏より書の寄贈（現在会館内にて掲示「医食同源」）があった。沖展出展作品であるが、もともと薬剤師会に寄贈するために書いてくださったそうので、今度の県薬会報の表紙にしたいと考えていると報告された。
- (35) 平成26年度第1回薬剤師学術研修委員会 5月29日（木）県薬 <資料配布>
亀谷常務理事より、今年度の新任・新人薬剤師研修会では、薬剤師不足解消の為Uターン啓発の話を組み入れる予定である。また県薬学術大会については、会場は例年通り県薬会館での開催。演題を募集するが、病薬からの申込みが多い為、各地区、委員会も頑張ってもらいたい、との報告があった。
- (36) 宮古地区薬剤師会総会 5月31日（土）宮古地区薬剤師会事務所（シモジ薬局2階）
- (37) 平成26年度薬局実務実習担当者全国会議 6月1日（日）日薬 <資料配布>
我喜屋理事より、今回は主に新コアカリキュラムの件であった。実習後の学生にアンケートを実施したところ、実習の満足度とその後の進路選択に密接な関係があることがわかった。実習施設の質の向上が求められている。一つの薬局で在宅やOTC等まで幅広く実習させるのは難しいが多いが、組織的な構築を進めてより良い実習ができるようにしていきたいと報告された。
- (38) 九州ブロック日薬代議員予備会議 6月2日（月）福岡県薬 <資料配布>
吉田副会長より、日薬新理事候補者として現執行部の田尻氏（福岡）、宮崎氏（長崎）のほか、新しく吉田氏（山口）、藤野氏（福岡県）の名が挙げられている。九州ブロック決算委員会としては、三浦氏（福岡）、吉富氏（佐賀）が就任した。日薬連盟の各種委員会委員につ

いては、濱氏（福岡）、小山氏（宮崎）が新しく推薦されている。また、長崎県で開催される今年の九州山口薬学大会について、6月後半には案内資料が発送される予定との報告がされた。

神村会長より、これまで薬剤師連盟で力のあった小田氏が不在となった今、政治面で弱くなってしまうのは否めず、みんなで協力しなければいけないとの意見があった。

(39) 沖縄県子ども生活福祉部福祉政策課及び那覇市福祉部保護管理課より来訪

6月2日（月） <資料配布>

事務局より、県及び那覇市からの来訪があり、生活保護の申請について、これまでは薬局の方で一回申請すると永久的に有効であったが、これを更新制にしたいということである。任期指定は6年間であり、県や那覇市から各薬局に通知するが、県薬剤師会からも周知して欲しいと依頼があったと報告された。

(40) 国保連合会より来訪

6月3日（火）県薬 <資料配布>

事務局より、国保連合会からの来訪があり、国保共同電算処理システムの不具合に起因する被保険者への給付額誤り等に関する対応について、説明及び協力依頼があった。今回のシステムエラーにより、薬局に返戻すべきだがその数は莫大である為、市町村の保険者側で対応したい。その為には本来各薬局の了解を得る必要があるが全国レベルで行うのは難しいので、各都道府県の薬剤師会、医師会に委任して頂いて了解を取ったうえでの処理を考えているので、その契約をして頂きたいとの協力のお願いがあったと報告された。

(41) 日薬 国際委員会

6月6日（金）日薬

宮城常務理事より、F I P（国際薬剤師・薬学連合国際会議）が2014年8月31日から9月4日までタイのバンコクで開催、またF A P A（アジア薬剤師会連合学術大会）が10月9日から12日までマレーシアにて開催予定であるが、F A P Aの方は日本薬剤師会学術大会と日程が重なる為、参加者が少ないようだと報告があった。

(42) 日本スポーツ振興センターより来訪

6月6日（金）県薬

(43) 薬事法改正に伴う新たな医薬品販売制度等に関する研修会

6月8日（日）県薬 <資料配布>

新垣理事より、「薬事法改正に伴う新たな医薬品販売制度等に関する研修会」を県薬会館にて開催し、参加者120名との報告がなされた。この新制度施行による届出については、注意点がある。各都道府県によって届出に必要な提出書類は異なり、沖縄県では構造設備（メスシリンダー等備品含む）、勤務体制等の報告まで必要。届出書1枚のみで良いと勘違いしている薬局も多いようなので、各地区注意してほしいとのことであった。

(44) 学薬総会・講演会

6月8日（日）県薬

前濱常務理事より、薬剤師51名の参加があったとの報告がなされた。

(45) 全国災害対策担当者会議（第2回）

6月8日（日）日薬

<資料配布>

(46) 中部地区薬剤師会総会・特別講演会

6月8日（日）沖縄市産業交流センター

(47) 第1回沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

6月9日（月）沖縄県医師会 <資料配布>

笠原理事より、県医師会主導で沖縄県全体で在宅医療を推進していくための委員会が設置された。補正予算のついた2年間の事業である。その事業として、昨年度はアンケート等による調査を行い、今年度は多職種連携研修プログラム検討会の開催、沖縄診療ネットワークの中に在宅を盛り込み一元的に使えるようにしていく、等が構想されている。また、一般市民への啓発活動として、7月6日ロワジュールホテルにて講演会を企画していると報告された。

(48) 平成26年度おきなわアジェンダ21通常総会

6月10日（火）県庁 <資料配布>

- (49) 沖縄県薬業連合会代表者会議 6月11日(水) 沖縄都ホテル <資料配布>
神村会長より、薬業連合会総会に向け、薬剤師会へも5名程度参加依頼がくる予定なので、常務理事の方は参加してほしい。また、来年の合同祝賀会の為各団体に表彰者がいれば名前を挙げるよう伝えたと報告された。
- (50) 社会保険診療報酬支払基金幹事会 6月11日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部
- (51) フィジカルアセスメントの打合せ会 6月11日(水) 県薬 <資料配布>
笠原理事より、現在クリニカルシミュレーションセンターを使用した講習会を病薬と共催で開催している。今回、病薬20名、開局5名(北部1名、中部1名、那覇3名)が参加。また今後すでに講習会を受講した6名を講師として、各地区にて伝達講習会を予定しているので、開催希望日と日時を後日連絡してほしいとの依頼があった。
- (52) 平成26年度第4回臨時幹事会 6月11日(水) 県薬
- (53) 平成26年度試験検査センター連絡協議会 6月12・13日(木・金) ホテル東日本盛岡 <資料配布>
- (54) 平成26年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動6.26ヤング街頭キャンペーンにおける参加について <資料配布>
神村会長より、例年開催しているキャンペーンであり、各地区協力して欲しいとの依頼があった。
吉田副会長からも、県薬会長が沖縄県薬物乱用防止協会の副会長を引き受けているほか、会員の吉田久子先生も協会の理事である。最近募金が少なくなっているとのことで、薬剤師会も協力していきたいと述べた。
- (55) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について <資料配布>
我喜屋理事より、会営薬局とよみの近くにある豊見城薬局を訪問した。とよみが薬剤師不足のため、今年の6月から日曜、祝祭日の休局を考えており、それに対しての協力をお願いした。豊見城薬局の方もとよみの現状を心配しており、承諾して頂いた。6月2日以降、日曜及び祝祭日は豊見城薬局またはあいランド薬局にて対応している。その後、豊見城中央病院の事務局長及び薬局長にもお会いし、その旨を伝えている。病院の各部署、看護部長へも報告している。患者への説明について質問があったが、それに関してはチラシやリーフレットを配布、病院内にも置いてもらい、周知していく予定であると述べた。とよみの勤務状況については、6月以降日曜日を休局にできるとはいえ、まだまだ厳しい。常勤2名については戸締り等の関連から、どうしても負担が大きい状態であり、現在改善策を考えている。また、7月より1人確保できたこと、あと2名採用の可能性があると報告された。
- (56) 神棚設置用台・鳥居の件 <資料配布>
神村会長より、波之上宮のアドバイスを受け作成が進んでいると報告された。
- (57) その他

報告(薬連)

- (1) くわえ朝千夫沖縄市長就任激励会 5月27日(火) 沖縄市営体育館
- (2) 沖縄県薬剤師連盟総務会 6月6日(金) 県薬
- (3) その他

議題

- (1) 第70回通常総会及び懇親会について 資料配布>

1) 議案の追加について

事務局より、3月の臨時総会で意見があった正会員Cの定款上の定義について、弁護士へ確認をした。やはり定款上、「正会員は、この法人が承認した地域薬剤師会の会員であつて、かつ、日本薬剤師会の正会員である者とする」という条文がある以上、沖縄県薬剤師会会員資格のみを有すると定義するのはおかしいとの指摘を受けた。しかし、80才を超えた先輩方への配慮としては残すことが望ましいと思われるため、正会員Cは削除するのではなく別の形で残したい。「特別会員」とするのはどうか。特別会員は非薬剤師の研究職員、薬学生等を対象としているが、それに現正会員C該当者が入れる枠を追加するのである。この件に関しては定款等の変更が必要な為、通常総会に議案として訂正案を提出したいとの説明があり、今理事会において承認された。

神村会長からは、日本薬剤師会の会費支払を続けるということであれば、これまで通りであり、本人の希望でよい。年齢に達したら必ず特別会員にならなければいけないわけではないと説明があった。

2) 地区薬剤師会代表質問への答弁の調整について

神村会長より、各地区から提出された質問に対しては各担当者に回答を依頼し、先日の幹事会で内容を確認した。幹事会では問題ないとのことであった。こちらについて理事会にて議論を行い、訂正等を行った。また、今回質問5分、答弁2分という形式で代表質問時間を設けたが、質問一つ一つに対して質疑応答をしていたら、時間が足りないのではないかと意見があった。この形式は日薬と同じ形式だが、日薬では同内容の質問が出る場合、2人目以降はカットされる。時間が足りず質問できなかった項目に関しては、一般質問で行う場合もある。今回の総会はこの形式で行くが、今後の課題でもあり、また質問者回答者ともに慣れていくことが必要であろうとのことであった。

3) 懇親会司会等について

懇親会の司会は宮城敦子常務理事に決定した。

(2) 平成26年度各表彰への推薦について〔7月11日（金）締切〕

＜資料配布＞

事務局より、沖縄県薬剤師会長表彰、九山大会長表彰及び沖縄県薬事功労者知事表彰について、資料にある規程を参考にして各地区より推薦したい方を来月の理事会までに報告してほしいとの依頼があった。

(3) 会営薬局医療センター功労者表彰規程（案）について

＜資料配布＞

会営薬局医療センター前は開局から数年経ち、輪番薬剤師の協力のもと順調に運営されている。そこで輪番薬剤師へ感謝の意を込めて表彰したい。月2回以上輪番に入っており2年以上継続している者を対象とし、副賞を付す予定である。現在対象者は約10名。こちらを行ってよいか提案された。理事より医療センター前だけに限るのはどうかとの意見が出され、議論した結果、「会営薬局功労賞」とし、薬局名は文面に入れることで承認された。

(4) 薬と健康の週間での特別講師について

＜資料配布＞

現在8名が候補にあがっている。内容としては、子宮頸がん・うつ病の克服、薬物依存について、医療人権等。この中から2名選んでほしい。それを集計して、共催団体である県、那覇市との会議に薬剤師会の意見として報告するとのことであった。（理事会後各理事より報告を受け、その集計結果を後日県、那覇市に報告済。）

(5) 沖縄戦殉職医療人の碑への慰霊参加について

＜資料配布＞

神村会長より、毎年慰霊の日（6月23日）に「沖縄戦殉職医療人の碑」へ参拝している。今年も予定しているので、ぜひ理事の皆さんにも参加してほしいとの呼びかけがあった。

平成26年度 第4回定例理事会 議事概要

日時：平成26年7月12日(土) 19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄

理 事：田場英治、亀谷浩昌、山里勇、前濱朋子、玉城純、姫野耕一

新垣秀幸、下地仁、幸地良信、川上善久、外間惟夫、笠原大吾、我喜屋美香、
村田美智子、普久原隆（中部地区代理）

監 事：大城桂子

事 務 局：山城英人、金城みどり

<欠席者>

理 事：吉田洋史、江夏京子、宮城敦子、石川恵市

議題

(1) パート職員賞与支給について

山城課長より、パート職員賞与支給基準に基づいて28名の対象者に対して支給案が提示された。

神村会長より、収益も安定していることから、例年通り支給したい。職員が向上心をもって働けるとの意見があった。

パート職員賞与支給については提示されたとおり支給することで承認された。

(2) 会営薬局薬剤師給与について

山城課長より、資料に沿って会営薬局薬剤師給与について説明された。会営薬局とよみが薬剤師不足の中、7月から1名入社した。その新規職員と既存職員との給与バランスの整合性の維持と貢献度を踏まえて、既存の薬剤師職員2名に対して給与表2号給昇給が提案された。

理事からは、その都度給与昇給で対応するはどんなものか、一時金で対応してはどうか、等の意見が出された。

神村会長より、全国的に薬剤師不足であることで、社会的に薬剤師の給料は上昇し続けている。その中、会営薬局の薬剤師確保と会営薬局を継続していくためには相応の給与体系の見直しが必要である。この現状を乗り切るために提案どおりで対応していきたい。またその薬剤師の貢献度を評価したい。

提案どおり、承認された。

(3) 国保共同電算システムの不具合の対応について（委任状提出お願い）

山城課長より、国保共同電算処理システムの不具合に起因する対応について説明された。被保険者が居住地移動した際に時差で移動前の保険証を使用した場合、医療機関側の保険請求の際にエラーとなるはずが数ヶ月に亘りエラーチェックされなかった。これが全国的な規模となっている。対応策として、本来は保険者側が一件ずつ返戻することとなるが、大変な時間と労力になるため、保険者間（市町村間）で直接処理をしたい。各都道府県の医師会、

薬剤師会に対して委任状の提出をお願いしたいとのことです。

委任状提出について承認された。

(4) 8、10月理事会開催日の調整について

8月第2土曜日(8/9):旧盆の中日→8/16(土)へ

10月第2土曜日(10/11):日薬大会前日→10/18(土)へ

提案どおり承認された。

(5) その他

新垣理事より、6月12日の薬事法改正に伴う要指導医薬品を取り扱う旨の届出が、7月11日、に締切られた。各県の状況は、80%以上の薬局が届出したとのことだが、沖縄県は5%に達していない状況とのこと。その原因は届出書類の問題と意識の低さと思われる。原因の1つの届出書類については、各都道府県で異なっており、九州山口の各都道府県から情報収集したところ、届出書類の枚数は山口県が2枚で他の県は届出書1枚とのこと。それに比べ沖縄県における届出書類はあまりにも多くて細かいためと思われる。また一例として、ある薬局で、保健所への届出の際に調剤が0で提出したら、薬局の看板をおろしなさいとか、変更届を出しなさいという指導があり、結局届出しなかったそうである。それ以外でもいろいろあるようで、そのような状況が保健所等で行われていることも問題だと思われる。

神村会長より、他府県に比べ沖縄県の届出書類はあまりにも多すぎて、薬局開設許可書類に匹敵するほどであるなら、対面販売で要指導医薬品も含め販売しなくてはいけないのに、販売できないとなると、インターネット販売に反対と言えず薬剤師としての役割が果たせなくなる。薬剤師会としては他府県との比較資料を持参して今後の検討を申し立てることが述べられた。

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等(6月分)及び病院別院外処方せん発行枚数

(2) 平成26年度試験検査センター連絡協議会

6月12・13日(木・金) 岩手県

田場専務理事より、全国の試験検査センター状況調査アンケートの結果の報告がなされた。主な結果として、

○過去3年間の人員の増減状況:変わらず26施設、減少は13施設、増加は5施設、沖縄県の回答は変化なし。

○事業収入について:1,000万円以下は9施設、5,000万円以下は12施設、1億円以下は2施設、5億円以下は15施設、5億円超6施設、沖縄県の回答は1,000万円以下。

○過去3年間の収入状況:減少は18施設、横ばい20施設、増加2施設、無記入4、沖縄県の回答は減少

○事業収入割合:

1億円以下は浄化槽検査50%、医薬品試験利用契約料40%(沖縄18%)、学薬関連38%(沖縄県80%) 医薬品20%(沖縄県2%)

1億円超~5億円:水道水(50%)、濃度計量(20%)

5億円超:水道水(35%)、浄化槽(30%)

であった。

共通の問題点として、薬剤師で試験検査センターに勤務する薬剤師が少なくなっており、

後継者育成と試験検査センター収入の減少が問題となっている。

神村会長より、全国的に試験検査センターの経営が厳しくなっており止める県もあると述べられた。

(3) 沖縄県薬剤師会第70回通常総会

6月15日（日）県薬

(4) 第3回なごみ会実行委員会

6月18日・7月10日（水）沖縄県医師会

(23) なごみ会主催県民健康フェア ゆうりきやーとの打合せ

7月4日（金）県薬

笠原理事より、なごみ会主催県民フェア実行委員会の報告で各団体の負担金の件で当会の負担金額は17万円となり各団体ごとに別途イス代やブース代等が予定される。

去年と同様にお笑いのゆうりきやーに各ブース紹介をお願いすること等が報告された。

(5) 平成26年度第1回医薬分業対策委員会

6月18日（水）県薬

姫野理事より、平成26年度事業計画の確認について。平成25年度医薬分業指導者協議会報告。医薬分業対策会議を平成26年8月24日（日）14：00～テーマ「医薬分業の質の向上に向けて 患者目線で見えた医薬分業」で開催すること等が報告された。

(6) 個別指導（2薬局）

6月19日（木）那覇第一地方合同庁舎

(7) 平成26年度第1回地域医療支援病院運営委員会

6月19日（木）豊見城中央病院

神村会長より、医師会、薬剤師会、豊見城市長、糸満市長、消防署長、一般からの参加者も含め総勢8名程で構成されている。豊見城総合病院の移転について、土地の確保と設計図作成に取り組んでいる状況であるとのこと。とよみの薬剤師不足の件についても院長、理事長にも説明し理解をいただいていると報告された。

(8) グッジョブおきなわ推進事業 未来の産業人材育成職業人講話 打ち合わせ

6月20日（金）県薬

(9) 平成26年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動6.26ヤング街頭キャンペーン

6月21日（土）パレット久茂地前広場、他計6か所

神村会長より、例年通り街頭キャンペーンが行われたことが報告された。(32)の「ダメ、ゼッタイ」の国連支援募金の依頼で当会より1万円寄附したことが報告された。

(10) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会（ア）

6月22日（日）県薬

我喜屋理事より、40名の参加あり、3分の1は病薬だった。参加費用は、幹事会にて県薬の会員は無料、病薬会員は資料代として200円、どれにも属さない会員は1万円とした。薬局側から勤務している薬剤師をワークショップに派遣し指導薬剤師にしたいとの問い合わせが増えている。

実習関連では、今年、初めて第一薬科大学の早期体験実習を受けることになった。入学間もない1年生が対象で、実習費の支払は無い。大学によって、1日、2日という場合もあるが、第一薬科大学は2時間の見学で7つの薬局を8月の上旬から学生が入ってくる。1年生なのでまっさらな状態で今後6年間の薬学生としての学習に対するモチベーションを高めるために行う実習であることが報告された。

(11) 薬事法改正に伴う新たな医薬品販売制度等に関する研修会

6月22日（日）大濱信泉記念館

新垣理事より、参加者は5名でOTCを取り扱っている先生3名と調剤薬局の先生2名であったことが報告された。

(12) 平成26年度沖縄全戦没者追悼式

6月23日（月）平和祈念公園

神村会長より、沖縄戦殉職医療人之碑へ、毎年、久場トヨ先生の家族を中心に医師会、薬剤師会で献花をしている。理事は都合をつけて参加してほしい。その後、慰霊祭に参加しま

した。参加者が思ったよりは少なかった。総理大臣をはじめ、7、8名の大臣が参列していたと述べられた。

(13) 保険薬局部会役員会

6月23日(月) 県薬

川上理事より、今年の保険薬局部会の活動方針を協議した。保険薬局部会総会を7月23日(水)の午後7時30分から開催することが報告された。

(14) 県民健康フェアについての打合せ

6月24日(火) 県庁

田場専務理事より、街頭キャンペーンを今年は県民が少なく観光客だらけのパレット久茂地前広場でなくて、県民が比較的に多いサンエーメインプレス前での開催を提案したが、都合上できなくなったため、あらためて検討することになった。薬祖祭は10月21日(火)。県民公開講演会は10月23日(木)パレット市民劇場でシンガーソングライターの松田陽子氏に決定したと報告された。

(15) 沖縄県薬業連合会 理事会・総会・懇親会

6月25日(水) 沖縄都ホテル

神村会長より、例年どおり沖縄県薬業連合会理事会・総会が開催され無事終了した。その後、懇親会で意見交換されたと報告された。

(16) 保険薬局部会主催研修会

6月25日(水) 県薬

川上理事より、保険薬剤師向けに製薬メーカーより「禁煙補助薬と経口抗凝固薬FX阻害薬について」の研修会を開催したと報告された。

(17) 青年部会総会

6月27日(金) 那覇市内

次回の理事会にて報告予定。

(18) 第83回日本薬剤師会定時総会

6月28・29日(土・日) ホテルイースト21 東京

(19) 日薬総会終了後懇親会(九山)

6月28日(土) ラフェスタ 伊太利亭

神村会長より、各ブロック単位での代表質問では、お薬手帳についてメディアで、お薬手帳を持参すると支払額が高くなるから持参しない方が得するとの報道に対して日薬はどのように対処したのか。またオール薬剤師に向けて会員を増やすためにどうしたらいいのか。日本女子医大の薬物療法が高度化して抗がん剤、免疫抑制剤については院外処方から院内処方に戻すことについてはどう考えているのか。薬剤師不足の中24時間体制の問題について等が質問されたことが報告され、詳細は日薬会報に掲載されていることが述べられた。

(20) 北部地区薬剤師会 総会

6月28日(土) ホテルゆがふいんおきなわ

玉城理事より、今年は例年になく出席者が多かったことが報告された。

(21) 第115回健康とお薬相談会

6月29日(日) サンエーメインプレイス

姫野理事より、今年度第1回のお薬相談会を開催した。相談員の先生は7名、学生7名で30名の相談者だった。相談者が血圧を測るときにイスが低くて心臓の位置に設置することが出来なく、急遽クッションで対処した。高さを上下できるイスの準備ができないかと依頼があった。

亀谷常任理事より、サンエーが好意的に場所を提供しているので薬剤師会からお礼状を出していただけないかお願いされた。

神村会長より、イスとお礼状を手配することが述べられた。

(22) 会計監査

6月30日(月)・7月11日(金) 県薬

(23) 共同指導

7月3・4日(木・金) 該当薬局・県庁

神村会長より、3年に1度の共同指導に沖縄県が対象となった。7月3日と4日に2つの薬局が指導を受けたことが報告された

(24) 第21回認定禁煙指導薬剤師育成研修会

7月5日(土) 熊本県薬

我喜屋理事より、熊本県薬剤師会から講師依頼があり、100人程の参加があった。禁煙指導薬剤師が減ってきている中で維持しているのはすごいと思った。沖縄県でもしっかり取り組む必要があることが述べられた。

(25) 平成26年度新任・新人薬剤師研修会

7月6日(日) 県薬、県立南部医療センター・こども医療センター(施設見学)

外間理事より、参加者は薬局27名、病薬20名、薬学生22名、卸1名、その他2名の72名だった。例年どおり県立南部医療センターの施設見学を行い、ランチョンセミナーは日本血液製剤機構にお願いした。講演は「実際に生かせる情報検索」「薬歴の書き方」「フィジカルアセスメントについて」であった。学校薬剤師については笠原先生から、青年薬剤師部会の紹介は川満先生にお願いし、薬学生が22名参加しているとのことで、国家試験合格後はぜひ沖縄県で就職してほしい旨のお願いがあったことが報告された。

(26) 保険薬局部会役員会

7月9日(水) 県薬

(中止)

(27) 平成26年度後期高齢者医療制度運営懇話会

7月10日(木) 沖縄県後期高齢者医療広域連合

次回の理事会にて報告予定。

(28) 沖縄県警察官友の会役員会(総会)

7月10日(木) サザンプラザ海邦

大城監事より、警察友の会というのは警察官が日々、県民のために安全で安心して生活できるようにがんばっているのをサポートするという目的で昭和45年に設置され、各組織の長と地域で構成されている。総会后、県警本部長の笠原俊彦氏による講演会が行われた。講演内容で特にインターネットバンキングで不正送信の事件が全国で多発していることで被害総額が全国で14億円、沖縄県では1,800万円の実例が上がっていることと、相変わらず飲酒運転が全国ワースト1であることで注意を促されたことが報告された。

(29) お薬手帳啓発番組制作に関する打合会議・しごとミュージアム事前打合会議

7月10日(木) 県薬

前濱理事より、しごとミュージアムとは高校生への職業紹介を目的として開催される。その打合せとして広報委員を中心に、実習生も参加していただくことで実務実習担当の我喜屋先生も含め行った。ブースが狭いため薬学生は2グループに分かれて参加することとし、薬学生は高校生とも年が近い薬学部の現状も伝えられるため期待できる。お薬手帳利用促進を目的にDVDを制作して各薬局に配布し患者さん向けに放映してもらうために取り組んでいると報告された。

神村会長より、お薬手帳利用促進DVD制作については、お薬手帳の有用性をPRするために薬局待合室のテレビで放映し、お薬手帳の持参率を上げていきたいと述べられた。

(30) フィジカルアセスメント講習会の料金について

笠原理事より、年に2回シュミレーションセンターを利用し講習会を開催している。これまでは会場使用料は出ていなかったが、今年度からは会場使用料12,000円とシミュレーター使用料が有料となる。会場使用料、シミュレーター、AED、マスクのセット12台で1回19,200円程で年4回(計76,800円程の使用料になる)開催したいと述べられ、承認された。

(31) 吸入指導連絡書について

松山副会長より、琉球気管支喘息COPDフォーラムで県内の呼吸器科の医師と薬剤師が吸入指導に取り組んでおり、2012年に病薬との連携の中いくつかアンケートを行ったが、これは昨年の医師会の会報にも掲載され今年の県薬会報の新年号にも掲載された。その中で医師と薬剤師の情報共有が十分でなかったということを受けて、今度このフォーラムの中でどのようにして医師と薬剤師が患者さんの情報を共有するかということで、薬剤師からのメンバーは、中部病院の蒔先生、中部徳州会の喜多先生、なでしこ薬局の砂川先生、豊見城薬局の玉城先生、中頭病院の渡慶次先生、那覇市立病院の永井先生、会営薬局うえはらの根路銘先生、豊見城中央病院の橋本先生、すこやか薬局の比嘉先生、琉大附属病院の諸見先生等々が入り、この吸入指導連絡書を作成した。医師が吸入連絡書の上部を記載して患者さんに渡し、患者さんは薬局で吸入指導を受ける。薬剤師は吸入連絡書に吸入の状態をチェックし医師にFAXしてフィードバックする。薬局ではしっかり実施していただきたい旨がお願いされた。

(33) 沖縄県薬剤師会委員会・部会組織の件（日本薬剤師会との比較）

山城課長より、日薬と沖縄県薬の委員会・部会組織の比較検討し見直ししたいと依頼があり比較表を作って見た。確認していただきたい。

我喜屋理事より、日薬というよりも他府県薬との比較なら意味があると思うがとの意見が出された。

神村会長より、日薬からの文書を当県薬ではどの委員会等到下せばよいのか迷うことがあり、日薬との対応も必要である。その辺を整理しながら他府県薬とも比較しながら検討していきたいと説明された。

(34) 神棚設置用台・鳥居の件

神村会長より、波の上宮の宮仕様や関係者と相談しながら進め、最終見積もりしている。既に一部の会員、団体から寄付をいただいている。理事の皆様および会員の皆様にも1,000円ぐらいでも寄付を募りたいとのお願いが述べられた。

(36) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

山城課長より、7月に職員が一人採用され喜んでいるところではあるが、まだ厳しい状況が続いている。少なくとも1日5名以上の薬剤師は配置したい。夕方からの短時間でも求めている。また土曜日の午後1時まで薬剤師3名体制で、そこに協力薬剤師にお願いできると正職員が休むことができる。理事の皆様にも積極的に協力お願いしたいと強く述べられた。

我喜屋理事より、先日豊見城中央病院との定期会議に豊見城薬局とともに出席した。地域連携室が中心となっており、橋本薬局長、外来師長の面々が集まり院外処方等についての問題解決に向けて協議した。長期に亘って続いている問題が改善方向に向かっているとの報告があった。豊見城中央病院側からも南部地区薬剤師会との連携も求めているとのことから、ぜひ次回から南部地区薬剤師会からの出席をお願いしたい旨が述べられた。

(37) 日本薬剤師会功労賞について

神村会長より、日本薬剤師会功労賞に松山朝雄副会長が決定した。九州ブロックからの推薦で満場一致で非常に誇りに思っていることが報告された。

松山副会長より、神村会長はじめ皆様のご推薦があっただいたものですが、いずれにしても薬剤師会、歴代会長をはじめ地域の先生方のご支援がないとこういう仕事はできないと感謝の辞が述べられた。

(38) その他

新垣理事より、7月1日に沖縄タイムスから取材を受けた。内容は改正薬事法に関してと聞いていたが、担当記者のご主人が薬剤師ということで、半分は薬剤師不足についての取材となった。資料等も交え説明し、ちょうどお客さん来たことで販売方法等をみていただいたりして対応したことが報告された。

神村会長より、同じ沖縄タイムスの記者が薬剤師不足について会長の意見を聞きたいとのことで当会へも取材に来ていたことが報告された。

我喜屋理事より、日薬はなかなかスムーズにすすまない保険薬局の薬学実習生のOTC薬実習に対してOTC薬の実習内容のDVD制作したとのことで、実習薬局に無償で配布する予定にしていることが報告された。

報告（薬連）

- (1) 沖縄県薬剤師連盟評議員会 6月15日（日）県薬
- (2) 衆議院議員コクバ幸之助 激励の集い 7月7日（日）ホテル日航那覇グランドキャッスル
- (3) その他

平成26年度 第5回定例理事会 議事概要

日時：平成26年8月16日(土) 19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

＜出席者＞

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄、吉田洋史

理 事：田場英治、江夏京子、亀谷浩昌

玉城 純、姫野耕一、新垣秀幸、下地仁、幸地良信、外間惟夫、村田美智子

川上善久、我喜屋美香、笠原大吾、石川恵市

事 務 局：山城英人

議 題

(1) 九山大会表彰への推薦について

神村会長より、今年度の九山大会表彰に仲真良重氏を推薦したいことが提案された。

先日の幹事会において、主に医療保険、薬学性実務実習受入分野等への貢献が評価された理由であることが述べられ、承認された。

(2) 各種委員会委嘱について

我喜屋理事より、現在、薬学実務実習生が増加している中、薬学生実務実習受入委員会は10名の委員で構成されている。その中、宮古と八重山地区の2名については離島であることと、会営薬局とよみ杵の1名については薬剤師不足の状況により、委員会等への参加が困難となっており、実質7名の委員で活動している状況である。そこで南部地区よりレモン薬局の平田崇先生、那覇地区よりクララ薬局の平良博文先生、浦添地区よりアシスト薬局の仲宗根辰弥先生の3人を委員として追加したい。また会営薬局とよみ杵の1名については、状況改善までは退任することとし、よって合計12名の委員構成となることが提案され、承認された。

(3) 沖縄県薬剤師会長表彰について

平成26年度沖縄県薬剤師会長表彰の推薦について、各地区・部会等に推薦依頼したところ現在、北部地区、那覇地区、宮古地区、学校薬剤師部会、病院診療所部会、女性薬剤師部会から提出されている。これから推薦予定をされている場合は、今月中の提出がお願いされた。その後、表彰諮問委員会において5名が選出されることが述べられた。

(4) 神棚制作等に係る寄付について

神村会長より、神棚を設置するにあたり、薬祖祭が毎年行われる波上宮よりアドバイス頂き進めている。神農様は既に購入し神棚の中に納めており、薬師如来像も購入したいと考えている。費用は全体で60万円ほどで見積もっている。既に神棚設置を喜んで頂いている会員の方々や団体より寄附をいただいているが、神事は皆様の気持ちで作っていくものであるため、会員へも寄附の呼び掛けをしたいことが提案され、承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等（7月分）及び病院別院外処方せん発行状況

(2) 第9回青年部会通常総会

6月27日（金）那覇市内

石川理事より、役員改選が行われ、新規役員として中部地区所属の3名を含む5名が加わり役員の幅が広がった。また青年部として薬剤師不足に対する薬学生へのUターン啓発事業を進めていく。11月に那覇地区の川満先生と事務局の大城氏が北陸大学を訪問することになっていると報告された。

(3) 平成26年度後期高齢者医療制度運営懇話会

7月10日（木）沖縄県後期高齢者医療広域連合

江夏常務理事より、後期高齢者75才以上の、医療費が高く、疾病は糖尿病に移行している傾向がある。また肺炎球菌ワクチン等の使用も積極的に必要ではないか等の意見が出されていたと報告された。

(4) 平成26年度沖縄県女性薬剤師部会総会・講演会

7月13日（日）県薬

村田理事より、総会の出席者は21名だった。今年は役員改選の年で、会長および副会長は、村田と狩俣先生で会計は草壁先生となった。後半の講演会では徳州会こくらクリニックの院長にご講演頂いた。先生は名古屋大学を卒業後、徳州会に入り、沖縄の離島診療を10年間経験しており、僻地医療に際しては病気を作らないのが大切であること。また沖縄県が長寿県から転落したのはむしろ低栄養価が原因ではないか等について講演いただいたと報告された。

(5) 生涯学習フェスタ「しごとミュージアム2014」

7月14日（月）沖縄コンベンションセンター

石川理事より、主に高校生を対象にした「しごとミュージアム」が開催された。今回は薬学実務実習生にも手伝っていただいた。高校生との年齢が近いことでとても好評であったと報告された。

(6) 災害対策マニュアルについての打合せ

7月15日（火）県薬

吉田副会長より、6月8日に日薬の全国担当者会議に私と山城課長で参加した。それを受けて、昨年度に田場専務がまとめた災害対策マニュアルを私と田場専務と山城課長とで精査した。近々委員の先生方に最終確認をしていただき発行する。それに伴い登録事前薬剤師の募集、防災訓練の計画をしていきたいと報告された。

(7) 沖縄県体育協会より来訪

7月16日（水）県薬

笠原理事より、沖縄県体育協会の医科学委員会の中にスポーツファーマシスト部会が正式に発足した。薬剤師会からD Iの吉田先生と私の2人が理事になったと報告された。

(8) 薬学生実務実習受入委員会

7月16日（水）県薬

(12) 第48回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州・福岡

7月20・21日（日・月）第一薬科大学

(20) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会（イ・ウ・オ）

7月27日（日）県薬<資料10>P.16

(36) 実務実習指導薬剤師向け研修会（2期受入薬局対象）

8月12日（火）県薬

我喜屋理事より、(8)、(12)、(20)、(36)がまとめて報告された。

(8) 薬学生実務実習受入委員会を開催した。実務実習生6名が5薬局において2時間ほどの早期体験実習を行ったこと。日薬は一般用医薬品実習にも力を入れたいとのことでDVDを作成し、今年度の実務実習受入薬局に配布されること。今年度のワークショップに5名

の先生方が参加したこと。今年度予定されていた実習生受入薬局で1件都合により対応できなくなったためJ R九州ドラッグイレブン薬局に変更になったこと。反省点として、大きな問題ではなかったが、少々、実習生と薬剤師の間でボタンの掛け違いによるトラブルがあったこと等が報告された。

(12) 今年度ワークショップ参加の5名の先生方は既に指導薬剤師を申請していることが報告された。

(20) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会（イ・ウ・オ）に30名の参加があったことが報告された。

(36) 実務実習指導薬剤師向け研修会（2期受入薬局対象）を開催した。受入は17薬局19名でこれまで5年間のうちで最も多い人数であることが報告された。

(9) 個別指導（2薬局） 7月17・31日（木）・8月14日（木）

九州厚生局沖縄事務所・那覇第一地方合同庁舎

(10) グッジョブおきなわ推進事業 未来の産業人材育成職業人講話

7月17日（木）豊見城中学校

グッジョブおきなわ推進事業部からの依頼を受け、大城恭子先生が豊見城中学校で医療産業における薬剤師の役割について講演され、大変好評だったことが報告された。

(11) 調剤薬局における結核患者への服薬支援研修会 7月18日（金）沖縄県医師会館

田場専務理事より、先日、沖縄県健康長寿課結核感染症班より、県薬剤師会に調剤薬局における結核患者への服薬支援の協力依頼があったことを受けて、沖縄県健康長寿課の主催でこの研修会が開催された。目的は、沖縄県では、近年、結核患者、中でも潜在性結核感染症（以下LTB1という）の増加が著しく、特に他疾患治療に伴うLTB1治療が増加してきている。このような患者については、服薬に関する意識付けが弱く、結核薬に対してのアドヒアランスが悪いという声が現場の保健師からも聞かれる。また中には保健師の訪問を拒否する患者や副作用により服薬を自己判断でやめてしまう患者もいる。このような現状を踏まえ、健康長寿課では薬の専門家である薬剤師にも結核患者の服薬支援（以下DOTSという）にご協力いただきたいとのことである。この研修会では結核の治療についての知識や薬局でのDOTSの実際について情報を提供し、実施に役立てるために、結核予防会結核研修所永田容子先生、船橋師保健所保健師蔵亜希子先生が講演を行ったことが報告された。

(13) 創立三十周年記念祝賀会（薬正堂）

7月20日（日）ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

吉田副会長より、会長代理で出席した。500名程の参加者があり盛大なパーティーだったと報告された

(14) 石垣市長との話し合い

7月23日（水）石垣市

神村会長より、石垣市長とは以前から石垣市への医薬品卸業者の誘致について取り組んできた。近々の状況経過とこれからの取り組みについて石垣市長と情報交換のため石垣を訪問した。医薬品卸業者側からは、出店に向けて前向きに調査等々してきたが、様々なハードルがある中、経費面で非常に困難であるとのことである。

石垣市長にこれからの検討事項として、第1案として石垣市あるいは沖縄県の所有地に医薬品卸販売業者の施設を建設し、それを貸与することが可能なのか。第2案として緊急対策として災害時に移転先の新県立八重山病院に医薬品備蓄センターを設置して八重山地区の医薬品の2ヶ月分程の医薬品備蓄し、それを医療特区予算として申請できないか。との問いに

対して石垣市長は第2案の方を進められないかとのことであった。

また今月20日には八重山地区薬剤師会と各医薬品卸業者の代表者および担当者との話し合いが持たれる予定とのことである。

以上のことが報告された。

各理事より、どちらかの案が実現された場合においても経費の取扱いや備蓄した医薬品の使用上の取り決め事をしっかりしておかないといけない等の意見が出された。

(15) 第10回保険薬局部会総会

7月23日(水) 県薬

川上理事より、平成25年度の活動報告、決算報告と平成26年度事業計画案等が協議され、総会后、「管理システムを利用した不動態在庫の処理について」と題して当会の「不動態在庫・備蓄ネットワークシステム」を開発したリレーションズの湖城氏にご講演いただいたことが報告された。

(15) 社会保険診療報酬支払基金審査委員会

7月24・25・28日(木・金・月)・8月6日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(17) 県民健康フェア新聞社訪問

7月24日(木) 沖縄タイムス社・琉球新報社

田場専務理事より、県医師会、県歯科医師会、県看護協会、県健康長寿課と共に「なごみ会県民健康フェア」の宣伝のために沖縄タイムス社、琉球新報社を訪問してきたと報告された。

(18) 沖縄県薬務疾病対策課訪問(管理薬剤師兼任、要指導薬申請の件)

7月25日(金) 県庁

田場専務理事より、会営薬局とよみの夜間・休日等における管理薬剤師の兼務について、当初、薬務疾病課よりこの件は保健所管轄とのことで、南部保健所に2回出向いたが、例外は認めないとのことで受け止めていただけない状況があり、あらためて薬務疾病課に相談したが、やはり決裁権は保健所所長にあるとのことで、ぜひ県薬より何度もお願いがあったことを保健所所長に伝えてほしい旨をお願いした。たらい回しにされている状況である。直接南部保健所長に会うことを検討していると報告された。

(19) フィジカルアセスメントに関する地区単位伝達講習会

7月25日(金) 大濱信泉記念館

(30) フィジカルアセスメントに関する伝達講習会

8月3日(日) 県薬

(40) フィジカルアセスメントに関する地区単位伝達講習会

8月15日(金) 宮古地区薬剤師会事務所(シモジ薬局2階)

笠原理事より、(19)、(30)、(40)がまとめて報告された。

石垣、宮古、本島で開催した。日薬が在宅支援のためにフィジカルアセスメントを推進しているという主旨での伝達講習である。今後、県薬としての取り組みは地区薬にDVDを配布し推進していくが、それだけではなかなか進まない現状があるため、琉球大学内のクリニカルシミュレーションセンターで研修を重ね、離島の方はBLS用のトレーナー3体を持参し出前講習を行っていききたいと報告された。

(21) 在宅医療マニュアル検討会議

7月28日(月) 県薬

笠原理事より、保健福祉委員会の在宅のメンバーに加えて県内在宅医療の第一線で活躍している先生と既に会合を開催して検討に入っている。北海道、熊本、長野県作成のマニュアルを参考にしており、完成時期は12月を目途にし、今年度中に配布したいと思っている。当初、紙媒体だと値段が高くつくためDVDも検討したが、入門編としては、見やすくとのことで紙媒体にする。2社から見積りし交渉中であると報告された。

(22) 会計監査

7月29日(火) 県薬

- (23) **県立南部医療センター・こども医療センター 長田薬局長 来訪** 7月29日（火）県薬
 神村会長より、県立南部医療センター・こども医療センターの長田薬局長から、8離島、
 8診療所で120名程の患者さんがおり、十分な医薬品提供ができていないとのことで、県
 薬に協力できないかとの相談があった。要するに離島の診療所より処方箋を受け、調剤して、
 郵送することについて可能なかということである。保険法ではYESとはいえない。検討
 が必要である。患者自らが処方箋を送付し、調剤後患者へ送付することは出来る。県と厚生
 局と調整して、医療格差をなくすために特例が許されるのか検討してほしいと回答した。

松山副会長より、離島の診療所は各県立病院管轄のため、その診療所には県立病院の採用
 薬しか送付されない。そのため医師が採用薬以外を使うために、院外処方箋という発想が出
 てきたのではと述べられた。

- (24) **管理者会議** 7月29日（火）県薬
 山城課長より、2ヶ月に1回、各部署の責任者が集まって情報交換をしている。内容のほと
 んどが会営薬局とよみの薬剤師不足の件である。会営薬局とよみの件は後で詳細を報告する。

- (25) **平成26年度第2回広報委員会** 7月30日（水）県薬
 亀谷常務理事より、お薬手帳啓発用VTRを制作しCD-ROMで各薬局に配布し待合室
 で放映していただく計画をしている。そのVTRのキャスティングについて当初予定してい
 たタレント知念里奈さんの妹さんが都合により出来なくなったため、薬剤師会関係者で行う。
 街頭インタビューは前濱先生、お薬手帳概要説明は神村会長との案が出ている。それ以外に
 案があれば広報委員会までご意見いただきたい。

神村会長より、今年度の調剤報酬改定により、これまでのようにはお薬手帳の点数がとれ
 なくなった。お薬手帳に対する啓蒙を強く行わなくてはならない。広報委員会でお薬手帳啓
 発用VTRの制作をお願いしている。

石川理事より、お薬手帳の件について若手薬剤師で話し合いをした。一番は薬剤師会でC
 Mを放映することが望ましいが莫大な費用がかかる。一番手っ取り早い方法は何があるかと
 考えた中、薬剤師会で販売しているお薬手帳と保険証をセットいれることができるカバーを
 患者が利用することで、持参率にどう変化がみられるかとのことで、調剤薬局レネットの大
 城社長に協力していただき、4店舗が協力して2ヶ月間患者に無料配布して調査したところ、
 データにバラツキはあるものの持参率が上がったということです。そのことからお薬手帳カ
 バーを県の補助金を利用し安価にして患者に配布出来れば持参率向上に寄与できるのではと
 の意見があった。

- (26) **平成26年度沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議総会・施設見学**

7月31日（木）沖縄科学技術大学院大学

吉田副会長より、会長代理で参加した。毎年、大学院大学発展促進県民会議総会で寄付金
 を募っており、県薬からは昨年2万円の寄付をしている。今年も寄付金を募っていくとのこ
 とである。大学院大学に関しては開学してから3年目になり、学生数は50名程で将来的に
 は300名の学生を受け入れる構想があり、国からの予算も年々増額されている状況であると
 報告された。

- (27) **第2回九州山口各県代表者会議** 7月31日（木）福岡県薬 <資料14>

田場専務理事より、第76回九州山口薬学大会の大会宣言及び大会決議（案）について協
 議されたこと。九州山口薬剤師会表彰の被表彰者数について、11名から15名への増数に
 ついて協議されたこと。この両協議事項については9月に開催される会議において決定する

ことになった。また平成26年度の日本薬剤師会学校薬剤師表彰について、大浜貴子先生が受賞されたこと等が報告された。

(28) 平成26年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 8月1日(金)琉球大学医学部管理棟

田場専務理事より、審議事項で地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院とのグループ指定について、A北部地区医師会病院と那覇市立病院、B県立宮古病院と県立中部病院、C県立八重山病院と県立中部病院の組み合わせでグループ指定されたこと。「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」(健発0110第7号平成26年1月10日)の全面改定があり、今までの都道府県がん診療連携拠点病院と地域がん診療連携拠点病院に加えて「地域がん診療病院」と特定領域がん診療連携拠点病院」が追加されたこと。また、7つの専門部会の見直しについて、具体的見直し案は第4回協議会で提案、審議をお願いすること。また研修部会のアクションプラン施策6「認定薬剤師制度の活用、薬剤師向けの研修会実施」で施策毎のアウトプット目標に沖縄県独自のがん専門薬剤師(病院薬剤師向け)とあるので、病院薬剤師だけではなく、会営薬局には無菌室がありバイオハザードも完備されているため保険薬局も加えて欲しい旨の意見を述べたと報告された。

(29) 九州山口地区学校薬剤師協議会

8月2日(土)佐賀県

(31) 第7回熟年の集い

8月3日(日)沖縄都ホテル

石川理事より、開始前に物故会員の屋嘉勇先生、山田貞子先生に黙祷を捧げ、池間記世先生の司会で進行された。その日は、熟年の集いの代表者の金城保景先生の90才の誕生日ということで花束の贈呈を行った。先生は、代表者ということで進行にも細かいパフォーマンスを加味し、皆さんの笑いを誘っていた印象が強かった。特別余興に民謡歌手の我如古より子さんを招き盛り上がった。事務局の大城さんからの報告で、熟年の集い初参加の島袋徳子先生より感動して来年もぜひ参加したいとお手紙が届いたとのこと。また今回はホテルで開催したことで気軽に参加出来たとの意見もあった。それらのことを踏まえ来年も熟年の先生方に楽しんでもらえるよう工夫していきたいと報告された。

(32) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 幹事会

8月6日(水)社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(33) 県民健康フェア 県薬打合せ会議

8月7日(木)県薬

笠原理事より、明日、県民健康フェアが開催される。20名を超える先生方が参加し、今回は、薬剤師会のブースも前回より広くなり、BLSの3体も持ち込む。集合は11時で舞台イベントは12時から始まり、ブースイベントは13時~16時まで等の県民健康フェアの日程等が説明された。

(34) 沖縄県新型インフルエンザ等対策専門家会議

8月11日(月)沖縄県医師会

田場専務理事より、新型インフルエンザ等対策における医療体制について協議され、その中で沖縄は他県よりも早く発生する可能性が高い。米軍基地との連絡を密にして基地内の情報を把握する必要がある。県内発生期に医療機関を指定することになっているが、むしろ、開業医等にも協力するように呼びかけ、どの医療機関でも診療できるようにしておかなければ指定されていない開業医等は準備を怠り、患者が受診した場合に感染を拡げる可能性があるのではないかとの意見が出されたと報告された。

(35) 第3回「薬と健康の週間」調整会議

8月12日(火)県庁

田場専務理事より、主な役割分担が確認され、会場予約は那覇市、講師との対応全般は薬剤師会、当日プログラム、シナリオ、舞台配置図、案内版作成等は県が担当。当初予定され

ていた那覇メインプレスでの街頭キャンペーンは会場の都合がつかず、那覇てんぶす館周辺で行われる予定である。基調講演は10分～15分間行うこと等が報告された。

(37) 平成26年度第2回医薬分業対策委員会

8月13日（水）県薬

江夏常務理事より、広域病院の薬局長と地区薬会長・医薬分業担当者を招いて開催される医薬分業対策会議の打ち合わせをした。中頭病院薬剤科長の長濱照美先生より「一般処方箋発行について」、琉大附属病院の副薬剤部長の外間惟夫先生より「院外処方箋への検査値表記について」のご講演を頂く。今回のテーマ「医薬分業の質の向上に向けて～患者目線で見た医薬分業とは～」のもとで、事前に保険薬局、病院薬局長へのアンケートを行った。私達が医薬分業を始めた当時と現在とでは状況が変わってきているのではないかと、医薬分業はあくまで患者中心であるべきで、医薬分業バッシングなどに対して私達はどのように対応していけば良いのか等についてディスカッションする予定であると報告された。

(38) 平成26年第1回沖縄県公害審査会

8月14日（木）県庁

我喜屋理事より、公害審査会は、公害訴訟を裁判に持ち込む前に調停をするという会議である。今回の案件はある地域で道路工事をしている近くの鶏舎の経営者から道路工事の掘削による振動、騒音により鶏が死亡した、卵を産まなくなったなどの健康被害を訴えており、相手が南部国道事務所、国土交通省である。調停員が3名選ばれるが、今回、私と琉球大学の教授と弁護士の3名が選ばれたと報告された。

(39) 公務員退職者激励会

8月15日（金）ホテルロイヤルオリオンオリオン

神村会長より、田場専務理事と参加したことが報告された。

(41) 第76回九州山口薬学大会について

山城課長より、資料に沿って第76回九州山口薬学大会の協議会に出席するメンバーが確認された。

(42) 久米島町立学校の飲料水検査結果について

田場専務理事より、久米島小、美崎小、球美中の飲料水（採取場所：いずれも冷水器）と仲里小（採取場所：3年生教室）の飲料水で一般細菌が基準以下ではあるが検出された。原因は貯水槽容量と比較して水の使用量が少ないことが考えられると報告された。

(43) 平成26年度第1回地区薬剤師会会長会議について

山城課長より、8月30日に情報の交換の場として地区薬剤師会会長会議を開催することが報告された。

(44) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

山城課長より、8月の会営薬局とよみの輪番薬剤師の勤務表が説明された。前回の理事会でも話したように協力薬剤師のもと薬剤師4名～5名でこなしている状況である。7月から一人採用され、薬剤師常勤3名となり嬉しいところだが、さらに職員のモチベーションを上げるために、次の採用者を早く見つけなければならない。協力薬剤師も3・4ヶ月と長引いているがほんとに感謝している。薬剤師採用には行き詰まっている状況であるため、あらためて理事の皆様への薬剤師情報を切にお願いされた。

我喜屋理事より、昨年会営薬局とよみでの実習生からの紹介で、福岡県の大学に在籍の6年生より、ぜひ会営薬局とよみで就職したいとの要望があるため、面接の機会をいただきたいとお願いされた。

(45) 沖縄県薬剤師会委員会・部会組織の件

山城課長より、前回の理事会でも話したが、委員会・部会を現在の状況に合わせて見直す

必要があるのではないかと意見があり、前回の理事会では日薬と県薬の比較表を提示したが、今回は県薬、日薬、九州各県の委員会・部会の状況を添付しているので目を通し、意見をいただきたいとお願いされた。

(46) その他

新垣理事より、9月4日に南部保健所主催の健康展に南部地区薬剤師会として参加し、お薬相談会に2人の講師を派遣することが報告された。また、7月1日から南部徳州会病院より院外処方せんが発行されており、南部地区分業担当のアトルの川上先生と山城課長とともに南部徳州会病院と話し合いを持った。患者希望で1日10枚程度の院外処方せんが発行されており、その中、備蓄医薬品がないとのことで薬局でたらい回しにされ、結局病院に戻ったケースが見られるとのことである。南部徳州会病院では採用品目をホームページに掲載しているとのことで会員にFAX一斉同報で周知したいと思うと報告された。

報告（薬連）

- (1) 衆議院議員 比嘉なつみを囲む会 7月17日（木）モーリアクラシック沖縄迎賓館
- (2) 衆議院議員 ミヤザキ政久 激励の集い 8月6日（水）ラグナガーデンホテル
- (3) 沖縄県知事選挙「仲井眞弘多 出馬表明」

8月7日（木）ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

- (4) 衆議院議員 ニシメ恒三郎 国政報告会 8月12日（火）パシフィックホテル沖縄

神村会長より、各国会議員等の集会に参加した。県知事選挙をにらんだ集会であったが、今回は、辺野古基地が争点となる難しい選挙になるため、慎重な対応が必要だろうと述べられた。

お知らせ

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願いします。

【連絡先】県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

年間目次

おきなわ薬剤師会報 平成26年もくじ

通巻268号～273号

No.(号) 発行月号 頁

表紙掲載会員作品

写真「2014年 初日の出」	上原正徳	268	1・2	表紙
写真「オオハシシギのつがい」	松山朝雄	269	3・4	表紙
「医食同源」	豊平峰雲	270	5・6	表紙
写真「バオバブの街道に行く」	平安山春江	271	7・8	表紙
写真「沖縄県薬剤師会 神殿」	大城喜仁	272	9・10	表紙
写真「未来へ」	仲村千佳子	273	11・12	表紙

年頭挨拶

新年のあいさつ	神村武之	268	1・2	2
新年ご挨拶	児玉 孝	268	1・2	4
新年のあいさつ	崎山八郎	268	1・2	6
年頭にあって	藤井もとゆき	268	1・2	7
年頭のご挨拶	松本 純	268	1・2	8
在宅における薬剤師の役割	とかしきなおみ	268	1・2	10
新年のご挨拶	島尻安伊子	268	1・2	12
新年のあいさつ	國場幸之助	268	1・2	13
祝 辞	宮崎政久	268	1・2	14
御挨拶	比嘉奈津美	268	1・2	15
年頭のご挨拶	西銘恒三郎	268	1・2	16

表 彰

沖縄県健康教育関係表彰（平良初枝氏、當山住子氏、新川重一氏）	268	1・2	19
平成26年度那覇市制功労者表彰（吉田久子先生）	270	5・6	3
那覇地区学校保健会表彰（受賞者：村田美智子先生）	271	7・8	61
学校薬剤師制度60周年記念文部科学大臣表彰 （與那嶺朝子先生、伊佐常隆先生、蒔 初子先生）	273	11・12	3
日本薬剤師会功労賞受賞（松山朝雄先生）	273	11・12	4
九州山口薬学大会会長賞受賞（仲真良重先生）	273	11・12	4
平成26年度沖縄県薬事功労者知事表彰（橋本孝夫先生、下地仁先生）	273	11・12	5
公衆衛生事業特別功労者沖縄県知事表彰（神里まり子先生）	273	11・12	6
優良公衆衛生事業功労者沖縄県公衆衛生大会長表彰（瑞慶山純子先生）	273	11・12	6

会営薬局

会営薬局うえはらに共同利用のための無菌調剤室が完成しました！ 吉田洋史	268	1・2	28
-------------------------------------	-----	-----	----

祝賀会

平成25年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催	大城喜仁	268	1・2	20
・・・受賞者プロフィール		268	1・2	22

巻頭言

学校薬剤師の現状と今後への期待	前濱朋子	269	3・4	2
北部地区薬剤師会 新体制スタート	神山えり子	270	5・6	2
北部地区薬剤師会の会員支援事業について	玉城 純	273	11・12	2

公 示

一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙に関する公示		273	11・12	7
--------------------------------	--	-----	-------	---

告 示

一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員補欠選挙候補者受付の結果について				
	野崎 真敏	268	1・2	61
一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙の告示		273	11・12	8

寄 付

沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式報告	大城喜仁	269	3・4	27
故 宮城光吉先生より寄付がありました		270	5・6	3
神殿および薬学関連資料・資材への寄付について		272	9・10	3

トピックス

会館名標示看板を設置！	大城喜仁	269	3・4	3
薬事法・薬剤師法一部改正、6月12日施行	神村武之・新垣秀幸	270	5・6	4
神殿（神棚設置台）完成	大城喜仁	271	7・8	2
神棚祭祀 開祭	大城喜仁	272	9・10	2

沖縄学術大会

第28回沖縄県薬剤師会学術大会報告	外間惟夫	273	11・12	12
第28回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム		273	11・12	14
第28回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会報告	大城喜仁	273	11・12	20
第28回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告	吉田洋史・姫野耕一	273	11・12	21
第28回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞発表要旨		273	11・12	22

薬と健康の週間

くすりと健康フェア（県民公開講演会）	山里 勇	273	11・12	24
くすりと健康フェアスナップ写真（県民公開講演会・健康とおくすり相談会）		273	11・12	26
薬祖祭・街頭キャンペーン・平成26年度「薬と健康の週間」行事表		273	11・12	27

総 会

第69回臨時総会報告	宮城敦子	270	5・6	5
臨時総会資料 平成26年度事業計画・予算ならびに議案事項		270	5・6	7
第70回通常総会会長演述	神村武之	271	7・8	3
第70回通常総会開催	宮城敦子	271	7・8	4
第70回通常総会懇親会	大城喜仁	271	7・8	7
平成25年度会員・薬局等の業態現況報告		271	7・8	8
平成25年度事業経過報告および平成25年度決算		271	7・8	9
第70回通常総会におけるその他の議案事項		271	7・8	23
第70回通常総会議案審議および質疑応答の概要		271	7・8	25

会務ハイライト

九州ブロック日薬代議員予備会議報告	田場英治	268	1・2	30
平成25年度第2回地区薬剤師会会長会議報告	田場英治	269	3・4	4
平成26年度調剤報酬改定等説明会報告	照屋林一郎	270	5・6	22
平成26年度新任・新人薬剤師研修会報告	外間惟夫	271	7・8	36
平成26年度第1回地区薬剤師会会長会議報告	田場英治	272	9・10	4
第7回熟年の集い開催	石川恵市	272	9・10	6
なごみ会主催第4回県民健康フェア2014開催	笠原大吾	272	9・10	9
なごみ会主催第4回県民健康フェア2014 ～薬剤師会ブースに参加して～	赤木宗範	272	9・10	12
なごみ会主催第4回県民健康フェア2014に参加して	古波蔵直子	272	9・10	13
平成26年度医薬分業対策会議報告	西川 裕	272	9・10	14
医薬分業対策会議用アンケート回答結果（病院・薬局向け）		272	9・10	16

実務実習

平成26年度Ⅰ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香	271	7・8	38
平成26年度薬学生実務実習Ⅰ期生からの体験記・感想 高宮城拓・糸数玲・宮城絵梨歩・渡慶次和也・池村有佳子 石川和也・座間味明音・比嘉成美・宮城崇滉・津波古梨花 大城梢・野原開・喜名あかね・山入端拓斗・中村貴乃・上地和人		271	7・8	39
薬学生実務実習今年度Ⅰ期Ⅱ期35名終了！	我喜屋美香	273	11・12	30
平成26年度 薬学生実務実習Ⅱ期生からの体験記・感想 座波克圭・仲田尚仁・姫野太一・下地滋子・高良龍 安里祐美・上地里奈・上里祐哉・中村雄太・大形智南美 宮平かな・仲里朝有・祖堅由伎・与世田美希・金城昭宏 福山佳史・新垣優美絵・佐久真守・吉田優司		273	11・12	31

投稿

小児がんキャンプ	外間 登	270	5・6	40
第37回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ薬剤師ボランティアスタッフ募集	外間 登	270	5・6	43
糖尿病療養指導士のすすめ ～その2～	砂川智子	270	5・6	44

研修会

第154回全国禁煙アドバイザー育成講習会報告	前濱朋子	268	1・2	32
医薬分業対策委員会主催研修会報告	川上雄一朗	268	1・2	36
医薬分業対策委員会主催研修会参加印象記	仲宗根正人・富山さゆり	268	1・2	39
平成25年度高度管理医療機器継続研修会報告	大塚成一郎	268	1・2	41
平成25年度医療安全講習会報告	吉富弓江	269	3・4	6
永田泰造先生講演会報告	池間記世	269	3・4	8
B L S（一次救命処置）講習会に参加して	備瀬愛実・中尾滋久	269	3・4	9
平成25年度自殺予防対策事業ゲートキーパー養成研修会報告	与儀和子	269	3・4	12
第4回在宅医療に関する講習会報告	上原幸代	270	5・6	24
在宅医療に関する地区・支部の講習会報告	笠原大吾	270	5・6	27
第9回スキルアップ研修会		270	5・6	28

啓蒙・普及活動

「薬剤師による在宅訪問」啓発ポスター&チラシ		268	1・2	65
豊見城市禁煙相談実施報告	桃原智美	269	3・4	28
健康づくり講演会「知っておきたい薬の使い方」開催される	長嶺清喜	269	3・4	29
「しごとミュージアム」における薬剤師職能の啓蒙活動について	大城喜仁	271	7・8	43
しごとミュージアム参加報告	玉村澄恵	271	7・8	44
未来の産業人材育成事業	高里彰吾	272	9・10	27

会議レポート

平成25年度健康おきなわ21分野別検討委員会参加報告	笠原大吾	268	1・2	46
平成25年度地域・在宅医療等担当者全国会議出席報告	笠原大吾	270	5・6	39
平成26年度沖縄県禁煙協議会総会に参加して	山里美恵子	272	9・10	30

研修レポート

がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会報告	笠原大吾	268	1・2	44
災害医療研修印象記	伊差川サヤカ	269	3・4	26
薬剤師が身につけておきたいフィジカルアセスメント研修に関する検討会	笠原大吾	270	5・6	36
豊見城市介護支援専門員連絡総会・勉強会における講演報告	笠原大吾	270	5・6	37
平成25年度沖縄県スポーツ指導者研修会に講演者として参加して	笠原大吾	270	5・6	38
第48回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州・福岡報告	照屋林一郎・古堅直也・福永順一・菊池怜奈	272	9・10	32

九山薬学大会

第76回九州山口薬学大会に参加して	吉富弓江	273	11・12	36
-------------------	------	-----	-------	----

寄稿

危険ドラッグについて	松田聖子	273	11・12	53
------------	------	-----	-------	----

薬業連合会

平成26年第59回沖縄県薬業連合会理事会・総会及び懇親会報告	稲福文隆	271	7・8	70
--------------------------------	------	-----	-----	----

部会だより

青年部会主催 中村守男先生講演会報告	鈴木一徳	268	1・2	42
学薬だより「くすりの正しい使い方」の授業に参加してみても 前濱朋子・與儀幸朝・神谷和美	269	3・4	14	
平成25年度薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング開催 岸本美香・津波高義・塚本徳子・新垣哲也	269	3・4	16	
女性薬剤師部会主催 第14回漢方講座報告 村田美智子・渡慶次真由美・松本圭五	269	3・4	22	
平成25年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム報告 城村幹彦	269	3・4	25	
学校環境衛生検査技術講習会に参加して 知名博樹・久高祐一	270	5・6	29	
平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会研修会に参加して 吉富弓江	270	5・6	32	
女性薬剤師部会通常総会報告 草壁瑞恵	271	7・8	48	
第10回保険薬局部会総会報告 川上善久	271	7・8	50	
第9回青年部会通常総会報告 石川恵市	271	7・8	51	
平成26年度学校薬剤師部会新人研修会報告 高里麻子	271	7・8	52	
平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部会報告 森下彰久	271	7・8	53	
第43回沖縄県病院薬剤師会通常総会報告 外間惟夫	271	7・8	54	
第42回沖縄県学校薬剤師部会総会・研修会報告 金城 守	272	9・10	28	
日本薬剤師会主催学校薬剤師研修会の参加報告 上原卓朗	272	9・10	28	

月例相談会

第113回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	川満直紀	270	5・6	34
第114回健康とおくすり相談会報告（中部地区薬剤師会）	川上雄一朗	270	5・6	35
第115回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	山道峻也	271	7・8	59
第116回健康とおくすり相談会報告（八重山地区薬剤師会）	宮良善朗	273	11・12	38
第117回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	平良栄子	273	11・12	39
第119回健康とおくすり相談会報告（中部地区薬剤師会）	砂川祥子	273	11・12	40

その他会務報告

沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊 大城喜仁	271	7・8	68
慰霊の日、晴天なり 宮城敦子	271	7・8	69

地区だより

八重山地区薬剤師会総会報告	山城 専	270	5・6	28
一般社団法人那覇地区薬剤師会第1回通常総会	那覇地区薬剤師会事務局	271	7・8	60
第12回北部地区薬剤師会定時総会報告	北部地区薬剤師会事務局	271	7・8	62
南部地区薬剤師会総会報告	新垣秀幸	271	7・8	63
平成25年度中部地区薬剤師会総会報告	福地健治	271	7・8	64
平成26年度宮古地区薬剤師会総会報告	下地睦夫	271	7・8	66

北部地区特集

北部地区特集にあたって	広報委員会	273	11・12	59
Spot Light 仲村英和先生～名護ウォーカー薬剤師は語る～	宮城敦子	273	11・12	60
医療機関・施設訪問 沖縄県立北部病院	砂川智子	273	11・12	62
薬局訪問 はいさい！名護薬局（名護市）	大城喜仁	273	11・12	64
寄稿 名護市立稲田小学校における薬物乱用防止教室報告	玉城優希	273	11・12	66
本部町立本部小学校における薬物乱用防止教室報告	仲原佐和子	273	11・12	69
リレー随筆 お薬手帳と悪戦苦闘	神山康馬	273	11・12	72

新入会員

平成25年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成25年10月～平成26年3月末日入会分）	269	3・4	30
平成26年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成26年4月～平成26年9月末日入会分）	272	9・10	36

試験検査センター

平成25年度試験検査センター運営委員会報告	武村博子	268	1・2	47
-----------------------	------	-----	-----	----

Another Face

レストランを経営する成川賢一氏	宮城敦子	268	1・2	72
-----------------	------	-----	-----	----

医療機関・施設訪問

医療法人以和貴会 西崎病院	砂川智子	269	3・4	50
沖縄療育園	伊差川サヤカ	270	5・6	54
医療法人 卯の会 新垣病院	砂川智子	271	7・8	94

D I

薬事情報おきなわ No.2 2 6	薬事情報センター	268	1・2	49
薬事情報おきなわ No.2 2 7	薬事情報センター	269	3・4	31
薬事情報おきなわ 休刊のお知らせ	薬事情報センター	270	5・6	47
薬事情報おきなわ No.2 2 8	薬事情報センター	271	7・8	73
薬事情報おきなわ No.2 2 9	薬事情報センター	272	9・10	37
薬事情報おきなわ No.2 3 0	薬事情報センター	273	11・12	41

薬学の歴史

第25回 アメリカ薬学の基礎の構築	268	1・2	68
第26回 シェーカー教徒と薬草	268	1・2	69
第27回 米国薬剤師会	269	3・4	46
第28回 ヨーロッパとアメリカの薬学の出会い	269	3・4	47
第29回 アメリカの薬学の父	270	5・6	50
第30回 薬学教育の革命	270	5・6	51
第31回 薬局方の成熟	271	7・8	90
第32回 医薬品の規格化	271	7・8	91
第33回 ジャングルの秘密との格闘	272	9・10	52
第34回 薬学分野の発明者、スタニスラス・リムジン	272	9・10	53
第35回 生物学的製剤の時代	273	11・12	54
第36回 化学療法の開発	273	11・12	55

薬草学

身近な薬草を知ろう 第12回 ノニ（ヤエヤマアオキ）	狩俣イソ	268	1・2	70
身近な薬草を知ろう 第13回 モリンガ（わさびのき）	狩俣イソ	269	3・4	48
身近な薬草を知ろう 第14回 アセロラ	狩俣イソ	270	5・6	52
身近な薬草を知ろう 第15回 ぼたんぼうふう（長命草・サクナ）	狩俣イソ	271	7・8	92
身近な薬草を知ろう 第16回 グアバ（バンジロウ・番石榴）	狩俣イソ	272	9・10	54
身近な薬草を知ろう 第17回 ほそばわだん	狩俣イソ	273	11・12	56

薬局訪問

はいさい！福寿薬局	前濱朋子	268	1・2	74
はいさい！つみきの薬局	宮城敦子	270	5・6	56
産婦人科担当薬剤師の観点から見た「つみきの薬局」	伊差川サヤカ	270	5・6	58
はいさい！沖縄県薬剤師会 会営薬局医療センター前	伊敷松太郎	271	7・8	96
はいさい！すこやか薬局 伊平店	鈴木一徳	272	9・10	56

卒煙物語

その44 検診と熟考期	えんこ	268	1・2	78
その45 禁煙教育のいくすえ	えんこ	269	3・4	53
その46 吸い殻	えんこ	270	5・6	61
その47 旧盆の後に	えんこ	271	7・8	100
その48 関わり	えんこ	272	9・10	60
その49 防煙教育の視野	えんこ	273	11・12	73

青年部

燃えろ！青年団 比嘉沙智先生	鈴木一徳	268	1・2	77
燃えろ！青年団 鈴木一徳先生	伊差川サヤカ	270	5・6	60

リレー随筆

在宅はじめました！	棚田雅貴	268	1・2	76
母の新しいお家	具志堅優子	269	3・4	52
日めくりカレンダー	富山さゆり	270	5・6	59
地ビール（クラフトビール）を飲んでみませんか？	田崎 仁	271	7・8	98
海ーウミー	福島裕貴	272	9・10	58

協会けんぽ

協会けんぽの申請書等の様式が新しくなりました		271	7・8	105
------------------------	--	-----	-----	-----

ぶれいくたいむ

ホルトの樹	具志堅優子	272	9・10	64
平成26年度全日本卓球大会選手権大会マスターズの部に参加して	田場英治	273	11・12	58
走ることーRUNー	福島裕貴	273	11・12	74

訃 報

屋嘉勇先生・山田貞子先生・新垣栄三先生・具志堅秀子先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます		271	7・8	112
新嵩武三先生、金城栄一先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます		272	9・10	73

理事会

平成25年度第7回定例理事会議事概要		268	1・2	94
平成25年度第8回定例理事会議事概要		268	1・2	100
平成25年度第9回定例理事会議事概要		269	3・4	85
平成25年度第10回定例理事会議事概要		269	3・4	93
平成25年度第11回定例理事会議事概要		269	3・4	101
平成25年度第12回定例理事会議事概要		269	3・4	111
平成25年度第13回定例理事会議事概要		269	3・4	120
平成26年度第1回定例理事会議事概要		273	11・12	87
平成26年度第2回定例理事会議事概要		273	11・12	94
平成26年度第3回定例理事会議事概要		273	11・12	100
平成26年度第4回定例理事会議事概要		273	11・12	106
平成26年度第5回定例理事会議事概要		273	11・12	113

行政通達

九州厚生局からのお知らせ		270	5・6	63
--------------	--	-----	-----	----

告知用ポスター・チラシ

第4回県民健康フェア2014		272	9・10	68
くすりと健康フェア（県民公開講演会）PRポスター		273	11・12	76

国保・社保通達

月遅れ請求レセプトの解消について（お願い）

社会保険診療報酬支払基金沖縄支部	268	1・2	87
平成26年度受付相談・協力日及び受付締切日	268	1・2	88
資格関係誤りレセプト発生防止について（お願い）			
社会保険診療報酬支払基金沖縄支部	272	9・10	63

日薬通達

新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく医療分野における特定接種の登録について

	268	1・2	89
平成26年2月薬剤師賠償責任保険募集のご案内	268	1・2	90
個人情報漏えい保険ご加入のご案内	268	1・2	92
「薬局の求められる機能とあるべき姿」の公表について	268	1・2	93
疑義解釈資料の送付について（その1）（その2）（その3）	269	3・4	60
「薬局医薬品の取扱いについて」「薬事法第36条の5第2項の“正当な理由”等について」	269	3・4	70
電子メール等による処方内容の電送等について	269	3・4	76
薬剤の使用法に関する実技指導の取扱いについて	269	3・4	77
処方せんの「変更不可」欄の取扱い等について	269	3・4	77
医薬品の販売業等に関するQ&Aについて	269	3・4	78
J P A L S クリニカルラダーレベルについて	270	5・6	64
薬事法及び薬剤師法の一部を改正する法律の施行にあたって	270	5・6	65
濫用のおそれのある医薬品及び要指導医薬品の指定等について	270	5・6	66
医薬品販売業等に関するQ&Aについて（その2）	270	5・6	70
医薬品の販売業等に関するQ&Aについて（その3）	271	7・8	101
発がん性等を有する化学物質を含有する抗がん剤等に対するばく露防止対策について	271	7・8	102
処方箋への記名の取扱いについて	271	7・8	102
平成26年度診療報酬改定 疑義解釈（その8）	271	7・8	104
疑義解釈（その9）	272	9・10	64
J P A L S クリニカルラダーレベル5 更新に向けてのご案内	273	11・12	84

一包一話

忙中閑有の一日	橋 の 下	268	1・2	112
“ラジオって面白いよ”	橋 の 下	269	3・4	132
公園にドクターヘリが来た！	橋 の 下	270	5・6	80
公園の一日	橋 の 下	271	7・8	114
今どき、国際通り	橋 の 下	272	9・10	74
神社巡り	橋 の 下	273	11・12	138

薬連だより

国会レポート～診療報酬・調剤報酬の改定～	藤井もとゆき	268	1・2	79
第6回若手薬剤師指導者育成フォーラム報告	名嘉紀勝	268	1・2	80
第3回熊本県若手薬剤師フォーラム参加報告	土田寛子・上原卓朗	269	3・4	54
国会レポート～薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点の推進	藤井もとゆき	269	3・4	58
国会レポート～アベノミクス第三の矢と医療制度	藤井もとゆき	270	5・6	62
平成26年度沖縄県薬剤師連盟評議員会報告	山城英人	271	7・8	106
POWER（日薬連盟機関紙）に関するアンケートページ設置について		271	7・8	106
国会レポート～骨太の方針2014と薬剤師～	藤井もとゆき	271	7・8	107
国会レポート～新呼称名は「危険ドラッグ」～	藤井もとゆき	272	9・10	61
国会レポート～平成27年度厚生労働省予算要求～	藤井もとゆき	272	9・10	62
国会レポート エボラ出血熱の脅威	藤井もとゆき	273	11・12	86
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成26年1月）		268	1・2	111
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成26年2月～3月分）		269	3・4	131
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成26年4月～5月分）		270	5・6	79
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成26年6月～7月分）		271	7・8	112
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成26年8月～9月分）		272	9・10	73
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成26年10月～11月末日分）		273	11・12	137

転載記事

沖縄県における喘息吸入指導に関する薬剤師アンケート結果（沖縄県医師会報より）

		268	1・2	82
沖縄県交通遺児育成会へ医療4団体は65万円		269	3・4	27
ジェネリック医薬品使用 県内44.3%、全国一		269	3・4	59
医薬品販売ネット解禁		270	5・6	74
外来患者さんの処方箋発行率		270	5・6	75
売り出せ「起業家」多分野で活躍している会員の高江洲はつよさん		270	5・6	75
「お薬手帳」で薬の相性確認		271	7・8	105
薬局拠点に健康相談 県、9月議会に予算提案へ		272	9・10	65
県民健康フェア 長寿復活へ意識改革		272	9・10	65
茶のみ話 熟年の集い	島袋 徳子	272	9・10	66
薬の受け取りが迅速化～処方箋送信システムを導入～	宮古地区薬剤師会	272	9・10	66
患者情報 特殊音で保護 プライバシーに配慮 病院、薬局取り組み進む		272	9・10	67
くすりと健康フェア（県民公開講演会）PR記事		273	11・12	77
シンガーソングライター松田陽子さん 闘病体験語る		273	11・12	78
薬の飲み方 正しく知って 県民公開講演会告知		273	11・12	79
会員の大城桂子先生と今井忠子先生が所属するモアイが紹介されていました		273	11・12	79
論壇「お薬手帳」常に携帯を	吉田洋史	273	11・12	80
論壇「危険ドラッグの怖さ」社会全体で防止策を	石川恵市	273	11・12	81
薬局拠点に健康相談		273	11・12	82

なは健康フェア にぎわう	273	11・12	82
論壇「医療のIT活用 感銘」	前濱朋子	273	11・12 83

職員紹介

沖縄県薬剤師会の新入職員を紹介します	268	1・2	113
沖縄県薬剤師会新入職員紹介！	272	9・10	76

会務報告

平成25年12月～平成26年1月分	268	1・2	107
平成26年2月～3月分	269	3・4	128
平成26年4月～5月分	270	5・6	76
平成26年6月～7月末日分	271	7・8	108
平成26年8月～9月末日分	272	9・10	70
平成26年10月～11月末日分	273	11・12	133

会員作品（誌上ギャラリー）

平成25年誌上ギャラリー大賞・優秀作品

写真「迷子になったの～」(大賞)	松山朝雄	264	5・6	裏表紙
写真「蜜が吸いにくいなー」(優秀作品)	亀谷浩昌	265	7・8	裏表紙
写真「翔南高校サッカー部、ただ今休憩中」(優秀作品)	吉田洋史	266	9・10	裏表紙
写真「パンダ雪だるま」	田場 英治	269	3・4	裏表紙
写真「パフィオペディラム」	亀谷浩昌	269	3・4	裏表紙
写真「ボタン」	平安山春江	269	3・4	裏表紙
写真「立神岩」	村田成夫	269	3・4	裏表紙
写真「昼寝」	潮平英郎	269	3・4	裏表紙
写真「雨も滴るいいお花」	大城恭子	270	5・6	裏表紙
写真「菖蒲」	平安山春江	270	5・6	裏表紙
写真「庭に咲いた泰山木の花」	吉田久子	270	5・6	裏表紙
写真「笑顔のくらげちゃん」	村上市子	270	5・6	裏表紙
写真「龍潭と首里城」	潮平英郎	270	5・6	裏表紙
写真「星生山から久住山を一望する」	具志堅興信	271	7・8	裏表紙
写真「月齢26.4日」	外間惟夫	271	7・8	裏表紙
写真「紅色のバラ一輪」	吉田久子	271	7・8	裏表紙
写真「くらげの侵入」	村上市子	271	7・8	裏表紙
写真「海の中の甘えん坊」	吉富弓江	271	7・8	裏表紙
写真「金剛石林山」	宮里美和子	273	11・12	裏表紙
写真「イタジイの森が広がるヤンバルの山並み」	村上市子	273	11・12	裏表紙
写真「すいれん」	池宮恵美子	273	11・12	裏表紙
写真「フンガー滝」	玉城 純	273	11・12	裏表紙
写真「名護湾の夕日」	神山えり子	273	11・12	裏表紙

〇以下のコーナーについては、ページ等の詳細は省略いたします。

編集後記

県民の皆様へ

あまくま薬立つ情報

お知らせ

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

研修認定薬剤師申請料が改訂になります！

日本薬剤師会生涯学習支援システム（J P A L S）について

会報原稿募集のご案内

学校薬剤師部会からのお知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

県薬が会員に販売している印刷物等

第28回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について薬剤師学術研修委員会

第28回沖縄県薬剤師会学術大会参加案内薬剤師学術研修委員会

第76回九州山口薬学大会案内

第47回日本薬剤師会学術大会案内

平成26年度沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内

平成26年10月

- 1 水○沖縄県商工労働部雇用政策課・グッジョブ事業局より来訪 県薬D I 室
 - 関節リウマチスタッフセミナー 沖縄県医師会館 共催：中外製薬(株)
 - 平成26年度第3回薬剤師学術研修委員会 県薬研修室
 - 平成26年度第7回定例幹事会 県薬会議室
- 2 木○神棚祭祀 県薬
 - 北部地区薬剤師会「薬局における医療安全管理研修会」 I Z U M O (名護市)
 - 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 3 金○第3回九山各県代表者会議 福岡県薬剤師会館 神村会長、松山副会長
 - 豊見城薬局との連絡会議 会営薬局とよみ 島袋管理薬剤師・上野主任事務（会営薬局とよみ）、我喜屋理事、山城課長
 - 第6回沖縄精神科再発予防研究会 A N A クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催：ヤンセンファーマ(株)
- 4 土○沖縄県病院薬剤師会N S T 分科会・講演会 県薬ホール 共催：(株)大塚製薬工場
- 6 月○平成26年度第1回沖縄県医療保険連合（なごみ会）幹事会 A N A クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 神村会長、吉田副会長
 - 臨床薬剤師育成研修会 (株)ダイコー沖縄
 - 平成26年第1回度沖縄県医療保険連合（なごみ会）懇談会 A N A クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 神村会長、吉田副会長、田場専務理事、亀谷・山里・宮城各常務理事
- 7 火○第五回沖縄：代謝病と血管病診療フォーラム ザ・ナハテラス 共催：バイエル薬品(株)
 - 在宅小委員会 県薬会議室
 - 北部地区薬剤師会学術研修会（抗うつ薬の使いわけ） 北部地区薬剤師会館
- 8 水○社会保険診療報酬支払基金幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 神村会長
 - 未来の産業人材育成事業「薬剤師職能P R 講演会」 沖縄県立陽明高等学校 大城恭子（講師）、事務局大城
- 9 木○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 吉田副会長
 - 南部地区医師会法人設立30周年 介護老人保健施設「東風の里」開設20周年記念式典・祝賀会 A N A クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 神村会長、吉田副会長
 - サムスカ錠 A D P K D 適応追加記念講演会 ザ・ナハテラス 共催：大塚製薬(株)
- 10 金○くすりと健康の週間フェア打ち合わせ会議 県庁 山城課長、稲福・大城両係長
 - くすりと健康の週間フェア会場打ち合わせ パレット市民劇場 山城課長、稲福・大城両係長
 - 第7回那覇・浦添コ・メディカル糖尿病セミナー 大浜第一病院 共催：M S D (株)
- 11 土○平成26年度第3回都道府県会長協議会 ホテルメトロポリタン山形（山形県） 神村会長
 - 平成26年度第3回都道府県会長協議会歓迎レセプション ホテルメトロポリタン山形（山形県） 神村会長
- 12 日○第47回日本薬剤師会学術大会（13日迄） 山形県 神村会長
- 14 火○沖縄県医療審議会 県庁 神村会長
- 15 水○会計監査 県薬会議室 事務局経理（金城・玉城・前原）
 - 地元紙へ「くすりと健康フェア」告知 沖縄タイムス 前濱常務理事、吉田典子（D I）、事務局大城
 - 公益事業推進委員会 県薬会議室

- 16木○第57回沖縄県社会福祉大会 沖縄コンベンションセンター 笠原理事
○集团的個別指導（36薬局） 沖縄産業支援センター 社会保険医療担当：宮城幸枝氏
○沖縄県在宅医療連携体制推進委員会 ロワジールホテル&スパタワー那覇 笠原理事
○第67回那覇地区薬剤師会臨床講座 県薬研修室
- 17金○地元紙へ「くすりと健康フェア」告知 琉球新報社 大城係長、松堂、前原（事務局）
○未来の産業人材育成事業「薬剤師職能PR講演会」 浦添市立港川中学校 大城恭子（講師）
○「薬と健康の週間」街頭キャンペーン 那覇市ぶんかテンブス館前広場 沖縄県薬業連合会
○チームで学ぶ不整脈の会 ラグナガーデンホテル 共催：ブリストル・マイヤーズ(株)
○第5回糖尿病週間学術講演会 ザ・ナハテラス 共催：ノボ ノルディスクファーマ(株)
- 18土○「薬と健康の週間」街頭キャンペーン サンエー石垣シティ前 八重山地区薬剤師会
○「薬と健康の週間」街頭キャンペーン イオン名護店 北部地区薬剤師会
○平成26年度第7回定例理事会 県薬研修室
- 19日○第117回健康とおくすり相談会 沖縄セルラーパーク那覇 担当：那覇地区薬剤師会
○「薬と健康の週間」街頭キャンペーン サンエーショッピングタウン宮古前 宮古地区薬剤師会
○保険薬局部会主催研修会 県薬研修室
- 20月○沖縄県薬事功労者知事表彰式 県庁 被表彰者：橋本孝夫氏、下地仁氏（田場専務理事代理受賞）、神村会長、事務局大城
○平成26年度第3回医薬分業対策委員会 県薬 研修室
- 21火○薬祖祭 波上宮本殿
○会計監査 県薬会議室（事務局経理）金城、玉城、前原
- 22水○平成26年度第1回医療保険委員会 県薬会議室
- 23木○くすりと健康フェア（第118回健康とおくすり相談会） パレット市民劇場ロビー
担当：南部地区薬剤師会
○くすりと健康フェア（県民公開講演会） パレット市民劇場
○平成26年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会 中部地区医師会
- 24金○平成26年（調）第1号事件にかかる第1回調停期日 県庁 我喜屋理事
○第11回セロトニン関連障害研究会 ザ・ナハテラス
○未来の産業人材育成事業「薬剤師職能PR講演会」 浦添市立仲西中学校 大城恭子（講師）
○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 25土○Symposium on Strategy for Sports-related Disorders 2014（研修会） 沖縄県医師会館 共催：大塚製薬(株)
○青年部会講演会（株）アトル営業部
- 26日○第28回沖縄県薬剤師会学術大会 県薬 全館
- 27月○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 28火○沖縄県保健医療部健康長寿課より来訪 県薬会議室 田場専務理事、山城課長
○組織強化委員会 県薬会議室
○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 29水○保険薬局部会主催研修会 県薬研修室

- 30木○平成26年南部地区保健医療協議会 南部福祉保健所 宮城常務理事
 ○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 川満直紀（医療保険委員会）
 ○第六回沖縄CKD-MBD研究会 ザ・ナハテラス 共催：バイエル薬品(株)
- 31金○沖縄関節リウマチ治療セミナー ザ・ナハテラス 共催：中外製薬(株)
 ○第18回腎と高血圧研究会 沖縄県医師会館 共催：ファイザー(株)

平成26年11月

- 1土○HIP研究会フォーラム in 沖縄（2日迄）県薬全館 共催：第12回フォーラム事務局
- 4火○平成26年度第8回定例幹事会 県薬研修室
- 5水○新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定地方公共機関業務計画作成に係る説明会 県庁 吉田副会長
 ○第8回琉球気管支喘息・COPDフォーラム ザ・ナハテラス 共催：グラクソ・スミスクライン(株)
- 6木○独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議 那覇市役所 前濱常務理事
 ○集团的個別指導（2薬局）八重山合同庁舎 山城専（八重山地区薬剤師会長）
- 7金○個別指導（1薬局）八重山合同庁舎 山城専（八重山地区薬剤師会長）
 ○第16回沖縄COPD研究会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
- 8土○平成26年度第8回定例理事会 ホテルゆがふいんおきなわ
- 9日○那覇地区薬剤師会「医療安全講習会」 県薬ホール
- 10月○臨床薬剤師育成研修会 (株)ダイコー沖縄
- 12水○「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」についての説明会 県薬研修室
- 13木○平成26年度第2回地域医療支援病院運営委員会 豊見城中央病院 神村会長
 ○学術講演会～バソプレシン受容体拮抗薬の可能性を考える～ 石垣市健康福祉センター
- 14金○平成26年度第3回沖縄県がん診療連携協議会 琉球大学医学部管理棟 吉田副会長
- 15土○**第119回健康とおくすり相談会** うるま市健康福祉センターうるみん 担当：中部地区薬剤師会
 ○第6回沖縄HIV臨床カンファレンス 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 共催：MSD(株)
 ○沖縄認知症ネットワーク研究会（第24回学術集会） 沖縄県医師会館 共催：エーザイ(株)
- 16日○**高度管理医療機器継続研修会** 県薬ホール
- 18火○自殺対策検討委員会 県薬会議室
- 19水○財務担当者半期決算報告 県薬会議室 田場専務理事、山里常務理事、（事務局）山城課長・金城・前原
 ○第6回沖縄Airway Conference ザ・ナハテラス 共催：杏林製薬(株)
 ○薬局薬剤師のための健康情報拠点事業会議 県薬会議室
 ○**保険薬局部会主催研修会** 県薬研修室
- 20木○日本薬剤師会国際委員会 日本薬剤師会 宮城常務理事
 ○集团的個別指導 宮古合同庁舎 川満正啓（宮古地区薬剤師会長）
 ○個別指導（1薬局） 宮古合同庁舎
 ○平成26年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会 中部地区医師会
 ○那覇地区薬剤師会「廃棄医薬品に関する研修会」 県薬研修室

21金○個別指導（2薬局） 宮古合同庁舎 下地理事

- 八重山地区医師会学術講演会 沖縄県立八重山病院
- 沖縄県B型肝炎講演会 沖縄県医師会館 共催：グラクソ・スミスクライン(株)
- 未来の産業人材育成事業「薬剤師職能PR講演会」 沖縄県立陽明高等学校 大城恭子（講師）、事務局大城

22土○第76回九州山口薬学大会事前協議会 長崎ブリックホール

- ・平成26年度第2回地区調整機構会議 神村会長、我喜屋理事
- ・医療安全対策連絡協議会 吉富弓江（医薬品事故・過誤対策委員会）
- ・薬剤師生涯学習担当者会議 亀谷常務理事
- ・禁煙対策協議会 笠原理事
- ・薬事情報センター連絡協議会 松山副会長
- ・薬局実務実習受入調整機関運営委員会 我喜屋理事
- ・学校薬剤師協議会運営委員会 前濱理事
- ・在宅医療推進協議会 吉田副会長、江夏常務理事、笠原理事
- ・薬剤師会事務局長連絡協議会 田場専務理事
- ・試験センター運営協議会 小泉試験検査主任技師
- ・大会運営委員会 神村会長、松山・吉田両副会長、田場専務理事

○第76回九州山口薬学大会レセプション ベストウェスタンプレミアホテル長崎

23日○第76回九州山口薬学大会（24日迄） 長崎ブリックホールほか

- ・薬学大会本会議 仲真良重（九州山口薬剤師会会長表彰）
- ・女性薬剤師分科会 村田理事

25火○宮古島糖尿病カンファレンス 宮古島マリンターミナル

- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏

26水○新型インフルエンザ等対策としての市町村・指定地方公共機関における業務継続計画（BCP）作成の研修会 自治会館 田場専務理事

- 就職希望薬学部生との相談会（U・Iターン）についての打合せ 県薬会議室 我喜屋理事、石川理事、事務局大城
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏

27木○個別指導（2薬局） 那覇第一地方合同庁舎 吉田副会長

- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏

28金○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、（事務局）金城・前原

- 平成26年度ドーピング防止ホットライン担当者会議 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都） 笠原理事
- 管理者会議 県薬研修室

29土○Uターン・Iターン就職希望薬学部生との相談会 北陸大学 川満直紀（青年部会）、事務局大城

- 宮古地区「肝のがんずう」講演会 ホテルアトールエメラルド宮古島

30日○薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第3回） 慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス 新垣理事

- 医薬分業対策委員会主催研修会 県薬ホール

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成26年10月

- 6月○沖縄県知事選挙に関する意見交換会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 神村会長
- 14火○沖縄県知事選挙予定候補者・仲井眞弘多氏へ推薦状交付 沖縄21世紀ビジョンを実現する県民の会 神村会長、事務局山城
- 16木○医療関係団体より沖縄県知事選挙予定候補者・仲井眞弘多氏へ推薦状交付 沖縄21世紀ビジョンを実現する県民の会 神村会長、事務局山城
- 22水○なかいま弘多女性部総決起大会 ロワジールホテル那覇 事務局（山城・金城・前原・安次富・上原）
- 24金○とかしきなおみ衆議院議員来沖 県内各所 吉田久子幹事長、事務局山城
- 28火○なかいま弘多県知事選挙予定候補推薦団体選対会議 沖縄21世紀ビジョンを実現する県民の会 事務局山城

平成26年11月

- 5水○平成26年度第2回全国会長・幹事長拡大会議 東京會館 神村会長、田場常任総務
 - 全国藤井もとゆき薬剤師後援会（第2回役員会） 東京會館 神村会長、田場常任総務
 - 参議院議員・藤井もとゆき君と語る会 東京會館 神村会長、田場常任総務
 - なかいま弘多決起集会（沖縄県医師連盟主催） ロワジールホテル那覇 理事、事務局・試験検査センター職員
- 7金○なかいま弘多総決起大会 沖縄県立武道館 理事、事務局・試験検査センター職員
- 9日○橋本岳厚生労働大臣政務官との意見交換会 なかいま弘多選対本部 神村会長・吉田久子幹事長
- 10月○岸田外務大臣との意見交換会 与世田兼稔選対本部 神村会長、事務局山城
- 11火○与世田兼稔総決起大会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 神村会長、事務局山城
- 12水○日本薬剤師連盟役員来訪 県薬会長室 尾島博司副会長・安東哲也副幹事長（日本薬剤師連盟）／神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
 - 衆議院議員・石田真敏氏来訪 県薬会長室 尾島博司副会長・安東哲也副幹事長（日本薬剤師連盟）／神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
- 13木○衆議院議員・松本純氏来沖 なかいま弘多選対本部 神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
- 14金○衆議院議員・渡嘉敷奈緒美氏来沖 県内各所 事務局山城
- 15土○なかいま弘多必勝打上式 松山公園～むつみ橋（那覇市） 理事、事務局・試験検査センター職員
- 26水○宮崎政久事務所開き 宮崎政久選対事務所 城間副幹事長、吉田洋史総務
 - 比嘉奈津美事務所開き 比嘉奈津美選対事務所 神村会長、吉田久子幹事長、江夏副幹事長、事務局山城
- 27木○國場幸之助・関係団体との打ち合わせ 國場幸之助選対事務所 神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
 - 國場幸之助事務所開き 國場幸之助選対事務所 神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
- 28金○沖縄県薬剤師連盟総務会 県薬会議室
- 29土○全国薬剤師フォーラム2014（30日迄） クロスウェーブ船橋（東京都） 姫野副幹事長、田場常任総務

神社巡り

「月ヌ走ヤ馬ヌ走イ」*¹まさにその通りだ。ついこの間お盆で大忙しだったかと思ったら、もう師走。御歳暮だ、クリスマスだと新年を迎える準備で頭の中が混乱しそうな年の瀬である。加えて突然に国会が解散されて総選挙に突入し町は騒がしくなった。

アベノミックスと消費税10%へ引き上げの延期について国民に信を問う選挙になるが、ここ沖縄では普天間基地の辺野古移設が最大の争点になる。或る政党に属している同級生からハガキが来た。「この度の選挙は後世になって『あの時、歴史は動いた』と評価を受ける重大な選挙だ。是非、清き一票を行使しよう。」12月14日には結果が出るから今からドキドキである。この激動の国際情勢なのか、沖縄の民意が日本政府を動かすことが出来るだろうか。ひとしきりの年末の忙しさを経てから新年を迎えることになる。

正月には小生達も毎年、波上宮へ、時には沖宮へ参拝する。この頃では、このお参りをしないと一年が始まらない気分になるから不思議である。聞くとところによると日本人は初詣に7,000万人もの人が行くと言う。何と信仰心の厚いことと思う。ところが、「あなたは宗教を持っていますか、何かを信仰していますか？」と問うと70%以上がNOであると言う。キリスト教、仏教の各宗派、イスラムといった組織的宗教、宗教には入っていないが苦しい時の神頼み、つい神様助けてと祈る。一般的、市民的な宗教のような思いで動いているのだろうか。山であつたり、岩やおよろずであつたり、大木であつたり、そこに八百万の神々が宿っているのだろう。

ラジオのスイッチを入れると、落ち着いた声が聞こえてきた。季節の歳時記という番組で話しているのは、波上宮の宮司さんである。その月々の神仏に関わる祭り事、行事、24節気、農業、漁業に関わる行事、ウチナーウガン事*²の話等々で耳学問になる。そして、琉球八社にもふれた。これは沖縄で最初に開かれた神社（神宮）が八社あるという。波上

宮、沖宮、末吉宮、安里八幡宮、天久宮、識名宮、中部にある普天間宮と金武宮であるという。小生は「末吉宮」という名前に心が動いた。環状2号線を通って首里に上る時、末吉の深い森の中に赤い屋根を見て、いつか参拝したいと関心を持っていたのである。「よし、今度の休みに末吉宮に行くぞ！」と小生がつぶやいたのを耳にした妻と薬剤師のCさんが同行することになった。しかもこの際、安里八幡宮、天久宮、識名宮にも参拝しようとして提案してきた。11月30日は朝から快晴で雲一つない青空、神社参りには好日である。

安里八幡宮は、住宅街の狭い路地を登った所にある。ほぼ同時に着いた車から降りて来た逞しそうな男に声をかけると「いつも来てます」とのことである。ここの信徒やしろである。雨、風にさらされて歴史も感じさせる社に向かい礼拝をする。小生達も後に続いた。2礼2拍手1礼、おさい銭は静かに投入する。これが作法である。本来は自分の夢や決意を述べてその実現のための努力を誓うことだったが、この忙しい時代は努力とは関係なく望みが叶いますようにとのお願いが主流となっている。10円のおさい銭を投げて3億円が当たりますようにと願う。これでは神様も戸惑うことだろう。

次の天久宮は、泊の外人墓地の上の方にある。鳥居の横の小さな階段を下りると大きな岩と木々に囲まれた所やしろに年月を感じさせる社、大きくない拝殿がある。ここはこの空間そのものに神様がおわすのだろう。小生達が帰りかけると3～4人の子供を連れた女性がこの階段を下りてくる。風呂敷に包んだビンシー*³を大事に抱えている。神社にウチナー風のウガンウサギルをウサギル*⁴訳である。土地の神様のウガンだ。神道の神社で、神様、仏様、土地の神々が混交になっている。ウチナーンチュのバイタリティは神々までチャンプルー*⁵にしまった。また或る宮司さんは、「よろしいではないですか。神々を敬う心はひとつですから・・・」と太っ腹である。だから嬉しくなる。

次いで末吉宮へ移動する。公園の中の広い階段を下りて行く、左右には子供達が伸び伸び走り回れるような広場が保育園の遠足などに利用されているという。下り切った所に川があり清流がサラサラと音をたてている。周



深い森の中に佇む末吉宮

りに茂る木々の方から「チャッチャツ」と、うぐいすのささ鳴きが聞こえる。春に向けてのボイストレーニングなのだろう。橋を渡ると今度は山へ向かって登りである。しばらく行くと道が3つに分かれている。さて、どちらに進むか、左の方に屋根が見えたような気がします。Cさんが言うので、先ずは左の道に入る。しばらく行くと大きな立派な亀甲墓に突き当たり行き止まりになっていた。このお墓は、王国時代の宜野湾間切り（村）の按司^{*6}だった宜野湾家の墓である。今では文化財の指定を受けているとのことである。元の所に戻る。真中の道は細く、その先が森の中に消え入るように見えるので、右へ進むことにする。歩くにつれ坂が急になり、足元の石段は雨、風で風化が進んで所々欠損したり、段差も不規則となって同行の2人に右側の石を踏んで、こちらは危ない、段差が大きい気を付けて！とコーチを受ける始末である。そろそろ、ハア、ハアと息も荒くなってきた。すると急に眼の前が開けた。ここが末吉宮だった。なぜこんな不便な所に建立したのか。イヤ、ここが神様に一番近い所だろうか。風雨に耐えた社殿にも周りの木々や岩にも、そこに崇高な気が満ちているように思われてくるのだ。そうだ、ここはパワースポットだ。小生も思い屈せし時、喜びのあった時には機会をつくって参拝に来ると心に期したものである。礼拝を済ませ、しばし佇んでから帰ろうとした時、後方の石門の方から白い服を着た男がスタスタと歩いてきた。アレと思って声をかける。「波上宮からここの管理にやってきました。上の方から来ると近いですよ」と言う。人の行く裏に道あり、花の山という言葉があることを思い出した。滑らぬように転

ばぬようにヘッピー腰で山を下りながら、「どうだ、こうして汗をかきながら難儀しながらお参りするのが正道だろうなあ！」2人も同調する。末吉公園の駐車場に戻って振り返ると、まさに末吉宮と森が一望である。ま

た来いよ！と言われているようで、すがすがしい気分が胸いっぱい広がるのである。

最後に識名宮を訪れた。ここは町の中であり、いかにも地域の守護神であると鎮座しますのである。ここでもビンシーでウガンをウサゲている^{*7}オバー達を見た。手水舎で手を洗い清めてヒシャクを元に戻す時、「寄贈みずほ薬局 喜納政利」の記名を見つける。思いがけないことだったので嬉しくなった。元気で頑張っているだろうか。

小生達、ミニミニ巡礼ごっこのような一日だった。いつまでも、すがすがしい気分の余韻を残すのであった。後日、いつもの例会で同期の友人U君と隣り合わせた。彼は沖宮の元信徒代表であり、奥さんもここに勤めており、長男も宮司に次ぐ禰宜という役職である。「ところで、神の使いである八咫鳥^{やたがらす}が琉球八社に飛んできたという伝説はないだろうか」と言うと、「さあ、聞いたことがないね」と答える。八咫鳥は3本足で、日本サッカー協会のシンボルマークにもなっているが、これは1本の脚はドリブルをする。もう1本はシュートで活躍するが、さらに強力なもう1本の足が欲しいというユーモアなのかなあ・・・」「それは面白い、ワッハッハッハ！」2人の会話は浅学なので的がはずれてゴールが決まらない。話がはずんで時間が過ぎ去るのも忘れる。グブリーサビタン^{*8}。 橋の下

- * 1 「チヌハイヤウマヌハイ」と読み、月日のたつのは馬の走りと同じで、誠に月日のたつことの早いの意味
- * 2 沖縄の鎮魂の儀式
- * 3 携帯用の御願道具箱
- * 4 捧げる
- * 5 混ぜこぜにした物。あるいは、混ぜこぜにする
- * 6 地域の支配者、ここでは村長のようなもの
- * 7 お祈りをしている
- * 8 失礼いたしました



誌上ギャラリー(裏表紙)について

左上:「金剛石林山」

photo by 宮里 美和子(上原薬局・国頭村)

右上:「イタジイの森が広がるヤンバルの山並み」

photo by 村上 市子(さくら薬局 I C H I・名護市)

左中:「すいれん」 撮影地:自宅

photo by 池宮 恵美子(池宮薬局・名護市)

右中:「フンガー滝」 撮影地:名護市真喜屋

photo by 玉城 純(たまき薬局・名護市)

下:「名護湾の夕日」 photo by 神山 えり子(名護中央薬局大中店・名護市)

編 集 後 記

数年ぶりに「スポットライト」のページを担当した。いったん手を離れてしまうとなかなか勘が戻らなかったが、締切に追われてなんとか脱稿した。さて、名護市の仲村英和先生は気さくな方で、その人徳ゆえに豊富な人脈を誇っている。取材当日も是非紹介したいと言って「ナゴラン」の権威である仲本善宜先生と会食する機会を持ってくれた。どうやら仲村先生は人と人をつなげるのが楽しいようだ。多くの方々のご協力を得て、今年も会報誌を6回、無事に発行できたことを感謝したい。会報誌を介して人が繋がることを望む、年の瀬であった。(クララ)

11月の声をきくと巷にはこんな会話が増える「ついこの間お正月終わったと思ったらもうすぐ12月、1年はあっという間に過ぎるわね!」しかし実はメモを頼りに1年を詳しく振り返ってみると様々なことがあって、決してあっという間に過ぎたわけではないことがわかる。2年前、仲良し3人姉妹のうち姉2人が、後を追うかのように立て続けに亡くなってしまったからの年月は決して短いとは思えない年月であった。行動力溢れ、スケジュール表もびっしり埋まっていたまだまだ「死」とは無縁の存在だと思っていた姉達が居なくなってしまったことは、いまだに納得できる説明は出来ない。しかし皮肉なことにその後「人間は死のうとしてもそう簡単には死ねないし、死なない」という体験もしてしまった。政府は2025年の超高齢化社会到来を前に、今まで観念的だった「死」を現実的なこととして受け入れるように方向転換を図っている。「死」が身近に感じられるようになって、人生観まで変わってしまった私だが、今年の流行語の「ありのままに」がこれからの生き方に最もしっくり来るようである。(ピアナ)

本誌の終わりの方に超長期連載中の随筆「一包一話」がある。毎号楽しみにしているファンの方も多いようだ。小生も笑ったり、頷いたり、感心したりしながら校正作業の読み込みをしている。文中にはウチナーグチ(沖縄方言)が多用されていて、ほんわかとした味を出している。反面、方言が分からない方にはニュアンスが十分に伝わらないかもしれない。この会報は日本全国の関係先に配布されているのでこの点が気になる。本県でも若い人達には方言に疎い方が多いし、他県の方はもっとそうであろう。そこで、文中で使われているウチナーグチに簡単な注釈を付けることにした。理解が深まり、より楽しく読める事を期待している。(亀)

あっという間に12月。もういくつ寝るとお正月である。今年の仕事を宿題で来年に持ち越しそんな嫌な予感の中、楽しい出来事が。学校薬剤師をしていると、運動会、学芸会等に招待を受ける。今年は運動会、音楽発表会に出席した。音楽発表会ではリコーダーにメロディオンを各学年が演奏し、成長の過程がわかる。さて、来賓として校長先生の隣に座ったりして、担当校が家の近く、母校だったりすると、近所の子や親戚の子のみるめが変わる(笑)日頃、暑い中地味に採水したりと活動しているご褒美というところだろうか。学薬の別の楽しみである。(TOMO)

あっという間に今年もあとわずかになりました。今年を私的に漢字一文字で表すと「動」です。色々動きがあって慌ただしい1年でした。来年は羊のようなシープと(しーと)過ごせるかな? いや、仕事に趣味にと色々やるぞ!(みつなり)

北部病院薬局の取材へ行きました（三郎といさ吉の弥次喜多道中をご覧ください）。取材を進めていくとこれまでの取材でも聞いたことのない言葉が耳にはいりました。それは、「ハブの活動期」と「美ら海の患者」さんです。みなさんは、ハブの活動期（ここでは、咬症発生件数が多い時期）は、秋、次いで初夏、さらに冬期のサトウキビ収穫時期です（「沖縄県における平成25年度の毒蛇咬症」沖縄県衛生環境研究所より）。このことをさらりとと言える大城薬局長に驚きました。また、「美ら海の患者さん」とは・・・そうです！お魚さんなのです。その昔、お魚さんが体調不良（けがなど）のとき獣医さんと北部病院にきていたそうです（レントゲン撮影？や薬剤の使用のため）。お魚さんも受診するなんて！こんな施設利用もあるなんて！！さすが北部病院（＾＾）☆たくさん勉強できた楽しい取材となりました。（三郎）

師走の寒い時期がやってきました。いったい、いつまで半袖で過ごせるのだろう、とチャレンジしてみましたがやはり限界が。訪問先の患者さんからは「寒そう…」とのご指摘もありやっと長袖へスイッチしました。幸いまだ風邪は引いていません。最近、当薬局に実務実習生が来ました。普段から受入の体制を整えていたわけではないのですが在宅に関する部分のみ、こちらで実習することに。人に指導するのにこちらがあやふやでは、とパワポなどを用意して受け入れたのですが最近の学生さんはとても飲み込みも早く、すでに概要は学んできたようで自分の方が少ししどろもどろになってしまいました。彼らも緊張していたようですが実際は自分の方が100倍は緊張していましたよ（笑）。（松）

12月初旬、薬学生のU・Iターン事業で北海道を訪れた。日中でも気温が0℃だったが、寒いというよりはひんやりして空気が澄んでいるといったイメージだ。久々の母校訪問にドキドキ・ワクワクしていた矢先、自分が学生の頃には無かった10階建の新棟がそびえ立っていた。見学してみると、各階に様々なタイプの講義室や自習室、最上階にはカフェショップも併設されており、まるでホテルのような施設だ。今の学生は幸せな環境を与えられており、少し羨ましいかぎりだ・・・。企業説明会では北海道出身の学生と話す機会が多く、沖縄への印象が良いと感じられ、会話も弾んで妙にウマが合うように思えた。アイヌ人とうちな一んちゅは顔が似ているし、方言も共通なものが多いと聞いたことがある。祖先が一緒なのだろうか・・・。こう思うと、なおさら北海道出身の学生には沖縄に住んで就職してもらいたい気持ちが一気に膨れ上がった！様々な出身地から若い薬剤師が沖縄に集結すると思うと、今後の活動が大いに楽しみだ。（ごり）

薬剤師も走る季節。2014年の始め、「お花を習いたい！やるなら今でしょ！」と思い立ち、気づけばクリスマスのお花。花が家にあると片付くなんて雑誌で見るけど、あれは絶対嘘だ。年末大掃除収束への道は未知数。自宅内エントロピー増大中です。せめてお正月のお花を活けるだけのスペースは確保しよう。みなさまも良いお正月をお迎えください。（いさ吉）



沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937

■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932

■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567

■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第273号 平成26年12月22日発行

◇次号は、平成27年2月初旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 神村武之

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／宮良善朗 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 金城印刷

誌上ギャラリー(会員作品)
お気軽にご投稿下さい。

北部地区特集

